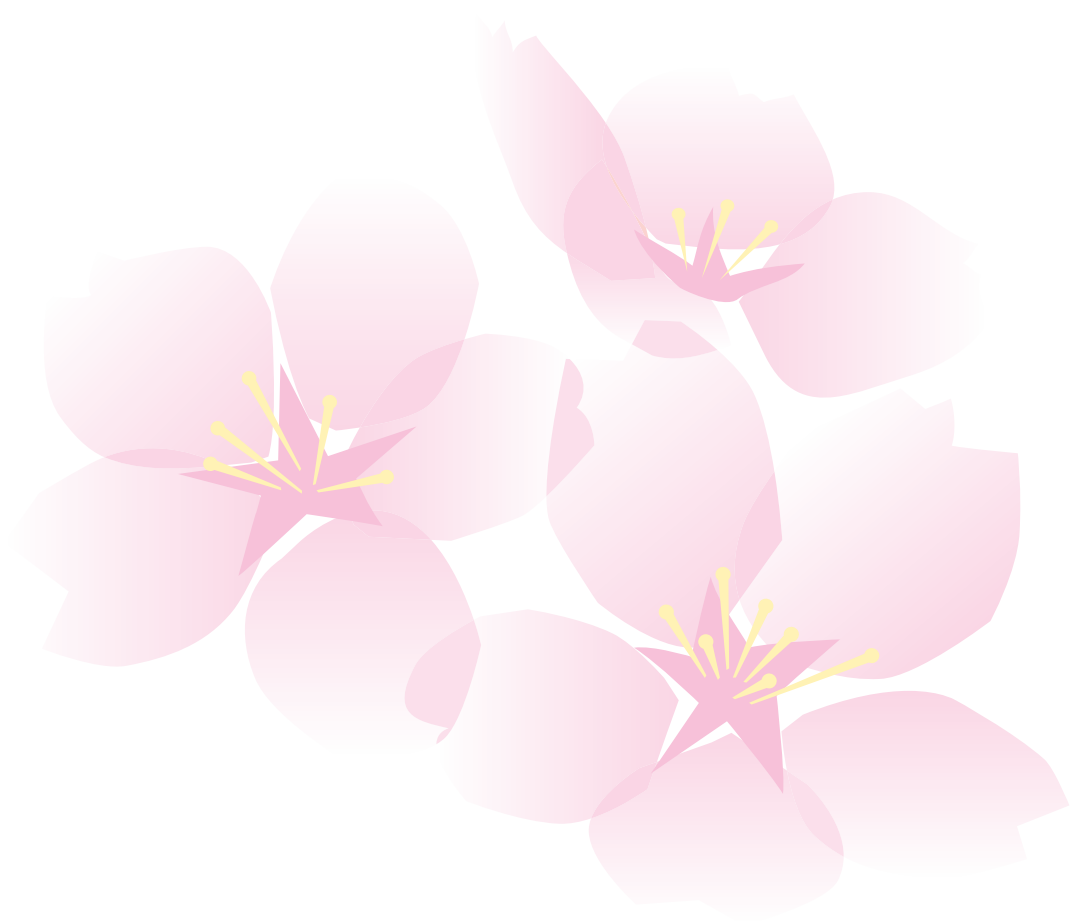


年報-2023

ANNUAL REPORT of
SEIREI SAKURA CITIZEN HOSPITAL



社会福祉法人 聖隷福祉事業団

聖隷佐倉市民病院

〒285-8765 佐倉市江原台2-36-2 TEL043-486-1151 FAX043-486-8696
<http://www.seirei.or.jp/sakura/>



病 院 の 理 念

キリスト教精神に基づく「隣人愛」に立ち

患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします

目 次

1.	2023 発刊によせて	01
2.	事業報告	03
3.	沿革・概要	06
	・ 沿革	07
	・ 病院概況	11
	・ 施設基準	15
	・ 2024 年度組織図	19
	・ 施設概要	21
	・ 主な器械備品	23
	・ 2024 年度会議・委員会名簿	25
	・ 職種別人員	27
4.	病院統計	28
5.	部門報告	42
	●診療部	43
	●看護部	62
	●医療技術部	77
	●事務部	84
	●医療安全管理室	93
	●感染管理室	94
	●健診センター	95
	●せいのい訪問看護ステーション佐倉	96
	●せいのいケアプランセンター佐倉	97
6.	研究・業績	98

2023 発刊によせて

ついに新型コロナウイルスのくびきから解き放たれる年がやってまいりました。2023 年 5 月 8 日をもって感染症としての位置付けが 5 類へと移行されたことで、病院全体で、いや日本全体で、ようやく自由な日々を取り戻せたぞ、と安堵感に包まれたのは 2023 年最大のトピックスに違いありません。しかし、医療機関というのは因果なもので、感染対策を継続せざるを得ず、院内でのマスク着用や面会制限（徐々に緩やかになってはいますが）など、いまだに不自由を強いる規制をお願いしています。もちろん 5 類移行後も感染拡大の影響を受け、診療制限にまで至った時期を実際に経験しましたから、今後もしばらくは気を抜けないものと覚悟しています。

さて、そんななか私たち聖隷佐倉市民病院は開院 20 周年を迎えることができました。2004 年 3 月 1 日に開院した当日の記憶が鮮明に残っているにも関わらず、20 年もの歳月が過ぎ去ったのには驚きですが、この節目に際して、改めて自分たちの姿を開院当初と比べてみました。結果、職員数 192→838 人、診療科数 9→28、医師数 14→70 人、延べ床面積 1.66 倍、外来患者数 3 倍、入院患者数 2 倍、手術件数 5.6 倍、通院透析患者数 7 倍などなど、自らの大きな成長に気づくとともに、地域医療への貢献度合いも責任も増してきていることを実感しています。

この節目となる 2023 年に当院が手がけたことの一部を以下に報告します。

1. がん医療支援センター開設（センター長 眞崎院長補佐）

これまで当院では、健診センターでの早期発見に始まり、放射線治療科、緩和医療科に至るまで幅広い領域でがん医療を行ってまいりましたが、これらを俯瞰し連動させる仕組みがありませんでした。そこで上記センターを立ち上げ、各種データのとりまとめや地域への情報発信、院内のがん診療各科のさらなる連携と活性化を目指してまいります。

2. 設備改修計画（施設課）

20 年の歳月により院内各所で老朽化が目立つようになりました。なかには他人様の目に触れてはいけないうらいに穴ボコだらけのソファもありました。これらの備品を軒並み一新し、さらにはフロアカーペットを全階すべて張り替えました。なかでも明るく爽やかに蘇った 1 階外来部門は当院自慢の空間です。

3. 電子カルテ更新（総合企画室）

1 年以上に亘る入念な準備のもとで 2024 年 2 月に更新作業が行われました。大きなトラブルは何一つなく、快適で作業効率のよい電子カルテ環境が提供されています。

最後は、2023 年 10 月に逝去なさった耳鼻咽喉科津田豪太先生についてです。津田先生は当院在職中の 8 年半、特に摂食嚥下のチーム作りに献身的かつ精力的に活躍され、

いつの間にか当院にとって、あって当たり前の仕組みをいくつも構築してくださいました。津田先生を失い、改めてその存在の大きさを痛感するとともに、空白となってしまった耳鼻咽喉科・摂食嚥下診療の維持・継続が当院にとっての大きな宿題となりました。幸い院外の多数の先生方から温かい医療支援をいただきながら、なんとか現在に至っています。この場を借りて心から感謝を申し上げます。

そして、まだ 63 才で逝去なさった津田先生のご冥福をあらためてお祈りいたします。

病院長 鈴木理志

聖隷佐倉市民病院 事業報告

2023年度は、5月8日より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」に変更となったため、感染患者受入病床及び一般病床運用の見直しを行い、引続きコロナ診療と一般診療の両立を図った。また、7月には千葉県より「紹介受診重点医療機関」として認可され、8月には「がん医療支援センター」の開設など、診療機能の充実並びに地域における当院の役割強化にも取り組んだ1年であった。

病院環境においては、2024年2月の電子カルテシステム・部門システム更新及び2024年4月の健診システム更新に向けた準備を綿密に行い順調に稼働ができた。また、老朽化したフローヤや壁、トイレの整備をはじめ、外来待合ソファ、健診リクライニングチェアの更新、院内保育園の園庭整備など、アメニティー整備による利用者満足度向上にも寄与できた。

2023年度は開設20年の節目となる年度として、将来の当院のあるべき姿「将来構想」を毎回の管理会議にて検討を始めるとともに、20周年記念プロジェクトを発足し様々なイベントや広報などの企画準備を開始した。

経営面においては、3ヵ年経営改善計画の3年目（最終年）として、救急受入体制の整備や地域連携強化をはじめ、保健事業・訪問看護ステーション・ケアプランセンターでの需要増への対応により大幅に予算を上回る成果を出すことができた。

1. 地域医療に貢献し、信頼され、選ばれる病院づくり

コロナワクチン接種、発熱外来を継続した。救急医療においてはバックアップ体制強化により年間2,687台と対前年度130%（+619台）の大幅な救急車受入増加に繋がり、地域の救急要請に迅速に対応できた。また、ACP ワーキンググループの立ち上げやキャンサーボードの定期開催など、患者へのベネフィットに繋がる取り組みにも注力した。

2. 安心・安全で質の高いサービスの提供

医療安全ラウンドの強化や画像診断・病理診断における見落とし防止策の徹底のほか、職員必須研修の充実による研修受講者管理、看護師による膀胱・腸エコー実施など、人材育成による質向上や安心・安全なサービス向上に繋げる取り組みを実践した。また、院内見廻り隊による環境整備やフローヤ改修・外来ソファ整備などの各種施設整備を行った。

3. 院内外の連携を強化し、地域から信頼されるオンリーワンの病院になる

地域連携強化として、1週間以内返書の徹底を図り、ほぼ100%達成することができた。キャンサーレター配信や市民公開講座・腎臓病教室の再開などを通して、当院の強みをアピールできた。また、利用者の声に対して迅速かつ適切な対応を行ない、職員接遇面でのお礼の投書が大幅に増え、当院に対する利用者の信頼性を高めることに繋がった。

4. この病院で働きたい、働き続けたいと思える環境整備

職員ドック受診率向上や職員定期健診での腰痛健診の開始、要精密者への受診勧奨強化など、健康経営面での各種施策を講じた。看護部においては病棟でのロング日勤導入による超過勤務の削減、医師の働き方改革では勤務時間管理や宿日直許可に向けた取り組みを行った。また、職員に対する新たな表彰や認定制度を設け、対象者には毎月の朝礼で表彰を行なった。

5. あらゆる環境に対応できる持続可能な経営基盤の構築

診療体制として、眼科体制の充実を図ることができ、病床再編による眼科手術患者受入強化を図ることができた。また、日々の病床稼働状況や救急車受入状況の可視化や各職場による増収費用削減策の徹底など、戦略的な収益確保とコスト管理を継続して取り組むことにより予算達成に繋げることができた。

6. 地域における公益的な取り組み

市民公開講座や腎臓病教室の開催により、病気予防、健康寿命延伸に繋がるための情報発信を行った。

【数値指標】

〈病院〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
外来患者数	830 名	811 名	97.7%	97.5%	入院患者数	314 名	302 名	96.2%	103.1%
外来単価	15,200 円	14,982 円	98.6%	100.3%	入院単価	55,100 円	56,179 円	102.0%	100.4%
職員数	815 名	786 名	96.4%	100.8%	病床稼働率	83.3%	80.2%	96.3%	103.2%

〈健診センター〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
受診者数	192 名	212 名	110.4%	109.3%	単 価	18,300 円	16,902 円	92.4%	102.1%

〈せいのい訪問看護ステーション佐倉〉

介護保険	予 算	実 績	対予算	対前年	医療保険	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	445 件	422 件	94.8%	128.7%	利用回数	175 件	144 件	82.3%	112.5%
単 価	8,600 円	7,725 円	89.8%	96.3%	単 価	10,550 円	10,729 円	101.7%	102.0%

〈せいのいケアプランセンター佐倉〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	139 件	134 件	96.4%	227.1%	単 価	16,740 円	12,110 円	72.3%	116.5%

せいのい訪問看護ステーション佐倉/せいのいケアプランセンター佐倉

2023 年度は地域に根差した支援が行えるよう人員体制を強化し事業拡大に繋げることができた。また、病院や行政機関との連携を強化し、よりシームレスな支援体制の強化を図ることができた。

＜無料又は低額診療事業＞

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、減免実施率は 21.2%であった。

沿革・概要

沿 革

2004 年

(平成 16 年)

- 3 月 国立佐倉病院の経営移譲により開設
一般病床 200 床
- 6 月 印旛市郡医師会入会
増築棟・透析センター一定礎式
- 8 月 救急告示取得
- 9 月 千葉県より 200 床増床（計 400 床）について認可
- 10 月 増築棟・透析センター竣工
神経内科・心療内科外来開始
- 11 月 患者図書室ネーミング決定「さくらプラザ」

2005 年

(平成 17 年)

- 2 月 オーダリングシステム稼動（投薬・検査）
健診センター準備室開設
- 4 月 印旛市郡二次救急輪番制参加
外来リハビリテーション開始
- 6 月 B 号館改修工事完了
- 7 月 B3 病棟（緩和医療科、リハビリテーション科）38 床開設
（計 238 床）
健診センター開所
- 8 月 緩和医療科外来開始
- 9 月 血管外科外来開始
- 10 月 亜急性期入院医療管理料病床取得（B3 病棟の 18 床）
- 11 月 オーダリングシステム二次稼動
（看護支援・画像生理・手術申込・リハビリ管理）
和漢診療科外来開始
- 12 月 乳腺外科外来開始

2006 年

(平成 18 年)

- 4 月 柏原 英彦 名誉院長就任、南 昌平 院長就任
- 4 月 一般病棟入院基本料 7:1 取得
- 6 月 亜急性期入院医療管理料病床数変更（18 床→15 床）
- 7 月 健診センター 政府管掌健康保険「生活習慣病予防健診」
実施医療機関に選定
- 10 月 健診センター内に X 線撮影装置を設置

2007 年

(平成 19 年)

- 4 月 婦人科、皮膚科外来開始、小児科外来を拡張移転
日本病院会「人間ドック・健診施設機能評価認定」取得
- 6 月 C3 病棟（緩和医療科）18 床開設 （計 256 床）
亜急性期入院医療管理料病床数変更（15 床→12 床）
- 9 月 臨床研修病院（管理型）に指定
- 11 月 日本医療機能評価機構の認定（Ver. 5.0）を取得

2008 年

(平成 20 年)

- 1 月 亜急性期入院医療管理料病床数変更（12 床→9 床）
- 4 月 医師臨床研修開始
- 6 月 B2 病棟（循環器科・外科）38 床開設 （計 294 床）
緩和ケア病棟入院料病床取得（C3 病棟の 18 床）
- 7 月 健診後外来開始
外来駐車場拡張
- 8 月 形成外科外来開始
- 9 月 病理科開設
- 10 月 第 2 期工事着手

2009 年

(平成 21 年)

- 3 月 外来医局棟竣工・泌尿器科外来を拡張移転
- 4 月 B 号館ライフライン供給設備機器更新
- 5 月 健診センターに胃部検診車を導入
- 6 月 第 2 期工事内 手術棟着手
- 7 月 DPC 対象病院に指定
院内保育室（さくらんぼ保育園）開設
- 9 月 オーダリングシステム・ハードウェア更新

2010 年

(平成 22 年)

- 1 月 せいいい訪問看護ステーション佐倉開設
- 4 月 手術棟竣工
リウマチ膠原病外来開始
リハビリテーション室移転
- 5 月 新手術室（6 室）稼働開始
- 8 月 放射線治療科開設・放射線治療開始

2011 年

(平成 23 年)

- 4 月 代謝内分泌・生活習慣病センター開始
聖隷佐倉市民病院 糖尿病地域連携パス運用開始
- 10 月 ホームページリニューアル

2012 年

(平成 24 年)

- 3 月 レントゲンフィルムレスシステム（PACS）導入
- 4 月 南 昌平 名誉院長就任、佐藤 慎一 院長就任

	人間ドック・健診施設機能評価の認定を更新
2013 年 (平成 25 年)	11 月 日本医療機能評価機構の認定を更新 (Ver. 6.0) 2 月 北側駐車場拡張 4 月 第 3 期工事着手 6 月 千葉県がん診療連携協力病院 (胃がん・大腸がん) に指定
2014 年 (平成 26 年)	2 月 外来棟竣工 3 月 健診センター棟 (透析拡張含む) 竣工 新外来棟稼働 透析センター拡張フロア稼働、オンライン HDF 導入 10 周年記念式典開催 4 月 新健診センター棟稼働 7 月 院内保育所の敷地内移転 (定員 40 名) 8 月 外来駐車場有料化開始 9 月 透析センター改修フロア稼働
2015 年 (平成 27 年)	2 月 A2 病棟 5 床増床、A3 病棟 5 床増床 (計 294 床→304 床) 3 月 千葉県がん診療連携協力病院 (乳がん) に指定 4 月 地域包括ケア病棟入院料病床取得 (B3 病棟の 38 床)
2016 年 (平成 28 年)	4 月 VEPTR を用いた拡張性胸郭形成術を実施 10 月 一般病棟入院基本料を病棟群単位で届出 (3 棟 148 床 : 7 対 1 入院基本料、2 棟 100 床 : 10 対 1 入院基本料)
2017 年 (平成 29 年)	4 月 人間ドック・健診施設機能評価の認定を取得 5 月 病院基幹システム・ハードウェアの更新 11 月 日本医療機能評価機構の認定 (3rdG : Ver. 1.1) を取得
2018 年 (平成 30 年)	4 月 急性期一般入院料 2 の届出 第 4 期工事着手 7 月 電子カルテシステム稼働
2019 年 (平成 31 年) (令和元年)	3 月 患者支援センターを開始 E 駐車場 (南西側駐車場) の新設 6 月 せいれいケアプランセンター佐倉開設 8 月 栄養科厨房リニューアル 9 月 B 号館竣工 10 月 病棟引越・再編成・増床 (304 床→336 床) 11 月 地域包括ケア病棟移転 (336 床→338 床)

2020 年

(令和 2 年)

- 12 月 健診センターの拡張
- 1 月 手術室の増室 (6 室→8 室)
リハビリテーション室の拡張
- 2 月 禁煙外来開始
- 4 月 A5 病棟 8 床増床 (338 床→346 床)
コロナ専用病棟設置
- 5 月 放射線科移転
- 7 月 新型コロナウイルス感染症重点医療機関指定
- 8 月 A2 病棟 11 床増床、B5 病棟 8 床増床 (346 床→365 床)
- 10 月 許可病床 399 床へ変更

2021 年

(令和 3 年)

- 1 月 新型コロナウイルスワクチン基本型接種施設指定
- 4 月 佐藤 慎一 名誉院長就任、鈴木 理志 院長就任
病棟編成変更に伴い増床 (365 床→377 床)
- 9 月 内視鏡システム・内視鏡医療機器更新
がんセンターボード開始
- 10 月 コロナ専用病棟閉鎖
オンライン資格確認システム稼働

2022 年

(令和 4 年)

- 7 月 コロナ専用病棟再開
新型コロナウイルス感染症重点医療機関指定
- 8 月 事業継続計画 (BCP) 運用開始
- 9 月 医療における子ども憲章の掲示
- 10 月 聖隷コミュニティケアセンター佐倉店閉店

2023 年

(令和 5 年)

- 3 月 日本医療機能評価機構の認定 (3rdG : Ver. 2.0) を更新
- 7 月 紹介受診重点医療機関指定
ACP 推進ワーキンググループ発足

2024 年

(令和 6 年)

- 2 月 電子カルテシステム更新
- 3 月 聖隷佐倉市民病院 開院 20 年

病 院 概 況

(2024年4月1日現在)

開	設	者
病	院	名
所	在	地

社会福祉法人 聖隷福祉事業団

聖隷佐倉市民病院

〒285-8765

千葉県佐倉市江原台2-36-2

Tel 043-486-1151 (代表)

Fax 043-486-8696

開	設	日
理	事	長
病	院	長
副	院	長
院	長	補 佐
総	看	護 部 長
事	務	長
敷	地	面 積
延	床	面 積
病	床	数

2004年3月 1 日

青木 善治

鈴木 理志

有田 誠司 川村 研 小谷 俊明

眞崎 義隆 藤井 隆之 岸田 俊二

清水 宏恵

石川 英男

47,810.21㎡

42,769.17㎡

許可病床399床 (一般)

稼働病床377床 (一般)

682人 (常勤)

1,187台

職	員	数
駐	車	場
認	定	施 設

国民健康保険療養取扱機関

健康保険医療機関

結核予防法指定医療機関

労災保険指定医療機関

特定疾患治療取扱病院

無料低額診療施設

日本医療機能評価機構認定病院

公害医療指定医療機関

マンモグラフィー検診施設画像認定施設

被爆者一般疾病医療取扱機関

生活保護法指定医療機関

小児慢性医療指定医療機関

指定自立支援医療機関

(育成医療・更生医療・精神通院)

臨床研修指定病院

救急告示病院

二次救急指定病院

難病法に基づく指定医療機関

	千葉県がん診療連携協力病院 (胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・前立腺がん)
標 榜 科 目 (34 標 榜 科)	内科、内分泌・代謝科、消化器内科、腎臓内科、 呼吸器内科、漢方内科、緩和ケア内科、 循環器内科、神経内科、心療内科、精神科、 小児科、外科、乳腺外科、形成外科、消化器外科、 内視鏡外科、移植外科、呼吸器外科、整形外科、 脳神経外科、泌尿器科、リハビリテーション科、 耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、婦人科、麻酔科、 放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、 臨床検査科、美容外科、血管外科
診 療 科 (28 診 療 科)	総合内科、腎臓内科、消化器内科、 内分泌代謝科、神経内科、呼吸器内科、 循環器科、メンタルヘルス科、和漢診療科、 緩和医療科、外科、脳神経外科、呼吸器外科、 乳腺外科、整形外科、形成外科、小児科、 眼科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、 リハビリテーション科、放射線診断科、 放射線治療科、麻酔科、病理科、美容外科、 血管外科
学 会 認 定	日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本麻酔科学会認定施設 日本臨床栄養代謝学会NST稼動施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本病理学会研修登録施設 日本大腸肛門病学会関連施設 日本医学放射線学会放射線専門医修練機関 日本気管食道科学会気管食道科専門医研修施設 (咽喉系) 日本人間ドック予防医療学会・日本病院会指定優良人間 ドック・健診施設

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定イ
ンプラント実施施設

(一次一期再建・一次二期再建・二次再建)

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会認定エ
キスパンダー実施施設 (一次再建・二次再建)

日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設

日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設

日本胆道学会認定指導医制度指導施設

日本乳癌学会専門医認定施設

日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構

遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設

下肢静脈瘤血管内治療実施管理委員会

下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設

呼吸器外科専門医合同委員会専門研修関連施設

施設基準

(2024 年 4 月 1 日現在)

基本診療科の施設基準

初診料 注 2 外来機能報告対象病院 紹介割合等未達逡減
初診料 注 15 医療情報・システム基盤整備体制充実加算
外来診療料 注 2 外来機能報告対象病院 紹介割合等未達逡減
外来診療料 注 10 医療情報・システム基盤整備体制充実加算
急性期一般入院基本料 2
臨床研修病院入院診療加算（基幹型）
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
診療録管理体制加算 1
医師事務作業補助体制加算 1 15 : 1
急性期看護補助体制加算 25 : 1（看護補助者 5 割以上）
看護職員夜間配置加算 16 : 1
療養環境加算
重症者等療養環境加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算 1
感染対策向上加算 2
連携強化加算
サーベイランス強化加算
報告書管理体制加算
認知症ケア加算 2
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
後発医薬品使用体制加算 1
病棟薬剤業務実施加算 1
データ提出加算 2
入退院支援加算 1
地域連携診療計画加算
入院時支援加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算
排尿自立支援加算
地域医療体制確保加算
小児入院医療管理料 4
地域包括ケア病棟入院料 2
看護補助者配置加算
看護補助者体制充実加算
看護職員処遇改善評価料

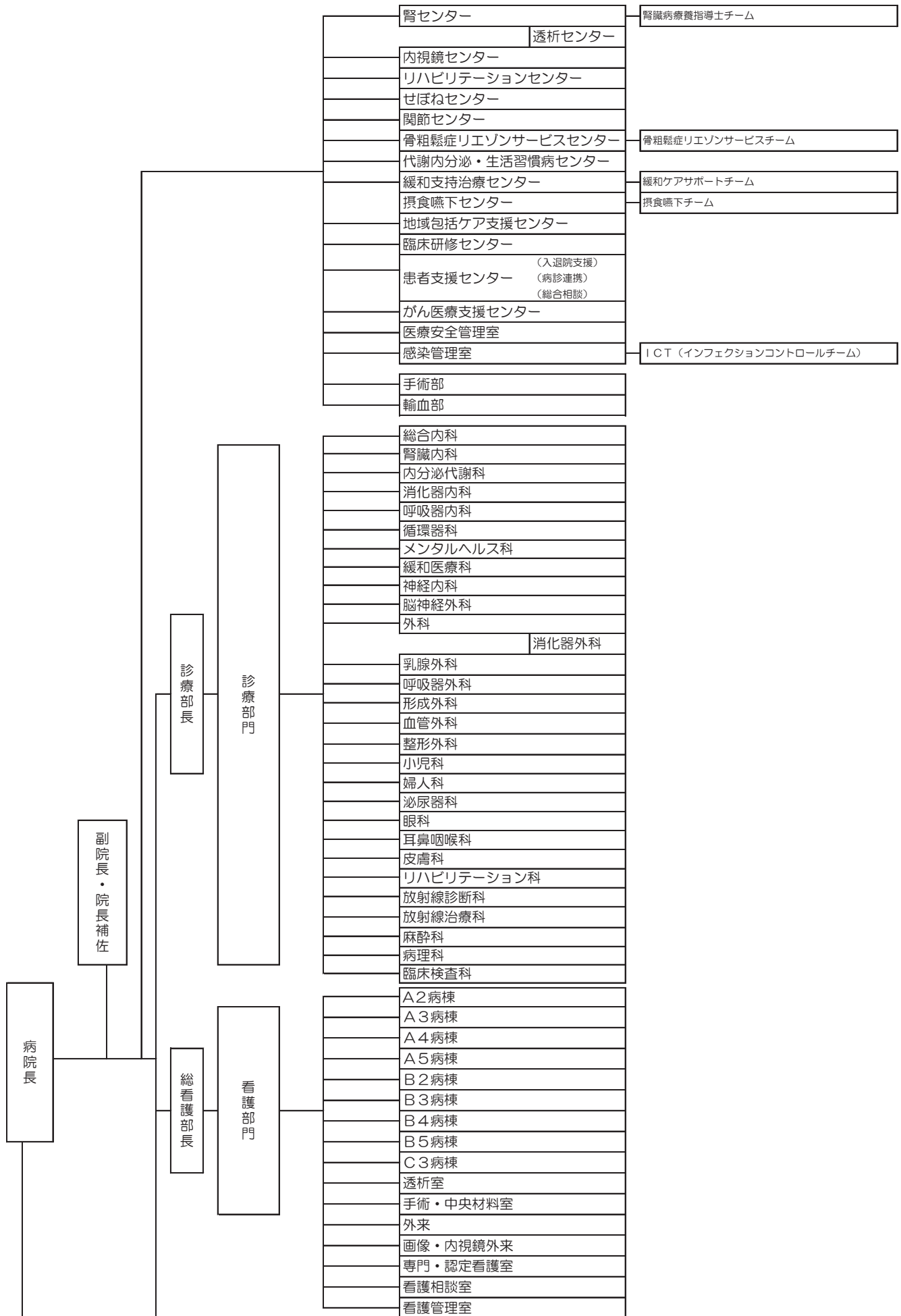
	紹介受診重点医療機関入院診療加算
	入院時食事療養Ⅰ
特掲診療料の施設基準	外来栄養食事指導料 注2 外来化学療法患者対象
	外来栄養食事指導料 注3 専門的な管理栄養士の指導
	慢性維持透析患者外来医学管理料
	注3に掲げる腎代替療法実績加算
	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料
	がん患者指導管理料ハ
	がん患者指導管理料ニ
	糖尿病透析予防指導管理料
	小児運動器疾患指導管理料
	婦人科特定疾患治療管理料
	腎代替療法指導管理料
	二次性骨折予防継続管理料1
	二次性骨折予防継続管理料2
	二次性骨折予防継続管理料3
	下肢創傷処置管理料
	院内トリアージ実施料
	夜間休日救急搬送医学管理料
	夜間休日救急搬送医学管理料 注3 救急搬送看護体制加算1
	外来リハビリテーション診療料1
	外来リハビリテーション診療料2
	外来放射線照射診療料
	外来腫瘍化学療法診療料1
	外来腫瘍化学療法診療料 注6 連携充実加算
	ニコチン依存症管理料
	がん治療連携指導料
	肝炎インターフェロン治療計画料
	外来排尿自立指導料
	薬剤管理指導料
	医療機器安全管理料1
	医療機器安全管理料2
	造血器腫瘍遺伝子検査
	遺伝学的検査
	BRCA1/2 遺伝子検査
	HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
	検体検査管理加算（Ⅰ）

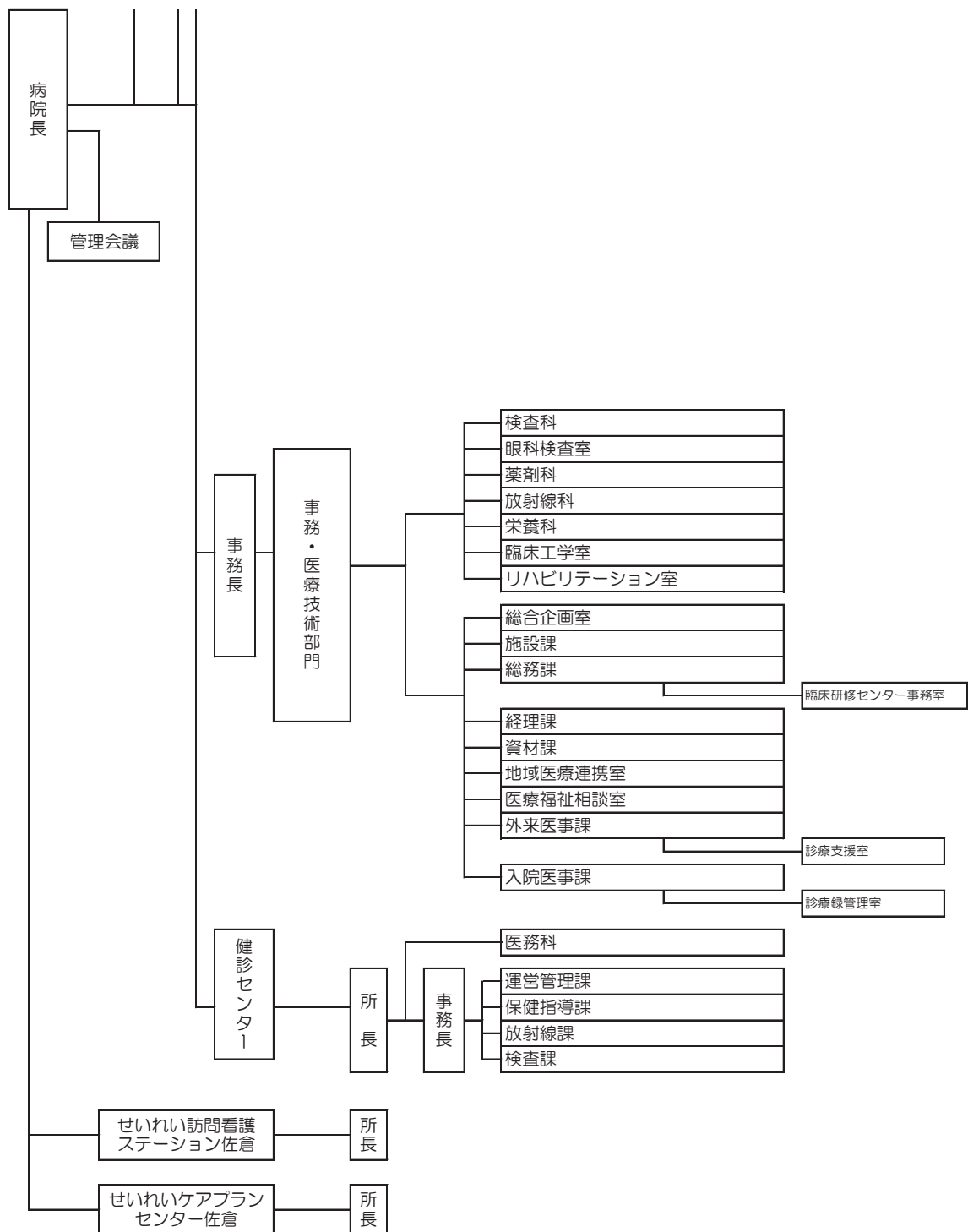
検体検査管理加算（Ⅱ）
植込型心電図検査
皮下連続式グルコース測定
ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料（Ⅰ）
小児食物アレルギー負荷検査
CT 撮影及び MRI 撮影
大腸 CT 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
リハビリテーション初期加算
静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
人工腎臓
人工腎臓 注 2 導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
人工腎臓 注 9 透析液水質確保加算
注 13 慢性維持透析濾過加算
下肢抹消動脈疾患指導管理加算
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る）
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
骨移植術（軟骨移植術を含む）【同種骨移植（非生体）〔同種骨移植（特殊なものに限る）〕】
椎間板内酵素注入療法
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術））
緑内障手術（濾過胞再建術（needle 法））
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）

乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検
(単独)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後)
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈ステント留置術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
大動脈バルーンパンピング法 (IABP 法)
腹腔鏡下肝切除術 (部分切除及び外側区域切除)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
膀胱水压拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術 (経尿道)
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 16 に掲げる手術
(胃瘻造設術)
輸血管理料Ⅱ
輸血適正使用加算
貯血式自己血輸血管理体制加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線療法
高エネルギー放射線治療 注 2 1 回線量増加加算
強度変調放射線治療 (IMRT)
画像誘導放射線治療 (IGRT)
体外照射呼吸性移動対策加算
直線加速器による定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
病理診断管理加算 1
悪性腫瘍病理組織標本加算

2024年度組織図

2024年4月1日





聖隷佐倉市民病院 施設概要

(2024年4月1日現在)

建物用途	病院
病床数	377床
規模	地上6階 SRC造(一部 S造)
敷地面積	42,956.55㎡
建築面積	病院 17,277.37㎡
延べ床面積	病院 42,769.17㎡

設備概要

電気設備			
契約種別	業務用季節別時間帯別電力		
契約電力	1,950KW (常用・予備用2回線受電)		
供給電気方式	交流3相3線式		
供給電圧	6,600V		
供給変電所	(常用線) 佐倉変電所 (予備電源) うすい変電所		
供給配電線路	(常用線) 江原線 (予備電源) 間野台線		
非常用発電設備 (A号館)	水冷式 (ワジェタ冷却方式) ディーゼル発電機	1基	
	容量＝400kVA 出力＝376kw 電圧＝200V		
	燃料 灯油 燃料消費量 110ℓ/h サービスタンク 500ℓ		
(B号館)	水冷式 (ワジェタ冷却方式) ディーゼル発電機	1基	
	容量＝450kVA 出力＝387kw 電圧＝200V		
	燃料 灯油 燃料消費量 102ℓ/h サービスタンク 500ℓ		
(C号館)	水冷式 (ワジェタ冷却方式) ディーゼル発電機	1基	
	容量＝625kVA 出力＝544kw 電圧＝6,600V		
	燃料 灯油 燃料消費量 152ℓ/h サービスタンク 390ℓ		
(透析・健診)	水冷式 (ワジェタ冷却方式) ディーゼル発電機	1基	
	容量＝315kVA 出力＝272kw 電圧＝200V		
	燃料 灯油 燃料消費量 77ℓ/h サービスタンク 950ℓ		
地下タンク設備 (A・B・C共用)	地下埋設タンク式・灯油 20,000ℓ	1基	
(透析・健診)	地下埋設タンク式・灯油 6,000ℓ	1基	
空調設備			
熱源系統			
空冷式熱源機 (A号館)	85kwモジュールチラー×3台	255kW	1基
(B号館)	150kwモジュールチラー×3台	450kW	1基
冷温水機 (A号館)	ガス焚吸収式 (二重効用) 燃料 13A	352kW	4基
(B号館)	ガス焚吸収式 (二重効用) 燃料 13A	352kW	2基
温水ヒーター (A号館)	鋳鉄製無圧温水ヒーター (2回路) 燃料 13A	465kW	2基(水熱源兼用)
(B号館)	鋳鉄製無圧温水ヒーター (2回路) 燃料 13A	466kW	2基(水熱源兼用)
冷却塔 (A号館)	開放式超低騒音角型(冷温水機用)	1,275kW	2基
	開放式超低騒音角型(熱交換器用)	795kW	1基
(B号館)	開放式超低騒音角型 (冷温水機用)	1,183kW	1基
	開放式超低騒音角型(熱交換器用)	823kW	1基
熱交換器 (A号館)	プレート型 (熱源水冷水系統)	851kW	1基
	プレート型 (熱源水温水系統)	388kW	1基
(B号館)	プレート型 (熱源水冷水系統)	740kW	1基
	プレート型 (熱源水温水系統)	322kW	1基
冷温水機 (手術棟)	冷却塔一体型ガス焚吸収式 (二重効用)	352kW	2基
	無圧缶式ヒーター 燃料 13A 缶体349kW	220kW	2基(給湯兼用)
空調機系統			
(A号館)	エアハンドリングユニット外調機		19台
	ファンコイルユニット (4管式)		67台
	水熱源エアコン (病棟PMAC)	室外機 24台 室内機	221台
	空冷マルチエアコン(透析センター)	室外機 8台 室内機	35台
	フロアヒーティング設備 (透析センター床暖房・業務用蓄熱調整契約)		
	総電力量 57.44kW 総加熱面積 230.4㎡ 設計発熱量 250W/㎡		
	空冷ヒートポンプチラー (ESCO)		モジュール3台
(B号館)	エアハンドリングユニット外調機		16台
	水熱源エアコン (病棟ダイキン)	室外機 24台 室内機	195台
	空冷マルチエアコン (放射線・健診・栄養)	室外機 11台 室内機	85台
	空冷バックージアコン (放射線・栄養)		15台
	空冷ヒートポンプチラー		モジュール3台
(C号館)	空冷式ルームエアコン	室外機 268台 室内機	387台
(手術棟)	エアハンドリングユニット外調機		19台
	ファンコイルユニット (4管式)		61台
	空冷ヒートポンプエアコン		4台
	空冷マルチエアコン	室外機 1台 室内機	4台
(洗濯室)	ガスヒートポンプエアコン	室外機 1台 室内機	6台
(透析・健診)	空冷ヒートポンプエアコン	室外機 5台 室内機	125台
	バックージ型空調機	室外機 8台 室内機	8台
脱臭装置 (A号館)	オゾン発生装置 2台 吹出口 480個		
(B号館)	オゾン発生装置 2台 吹出口 419個		
(手術棟)	2台 吹出口 72個 (内 放射線治療室内 単独オゾン発生器 1台)		
給排水衛生設備			
給水設備			
	給水本管 150mm 引込み管 75mm		
	井戸 井戸口径 150mm 掘削深度 90m 水中ポンプ 2.2kW 揚水管 25A		
	浄水装置 光酸化装置 除鉄・除マンガン装置 活性炭ろ過装置 UFモジュール		
	原水槽 処理水槽 薬注装置		
	受水槽 槽容量 168㎡ 有効容量 134.4㎡		
(A号館)	加圧給水ポンプ装置 水量 1100ℓ/min 設定揚程 42m		
(B号館)	加圧給水ポンプ装置 水量 1100ℓ/min 設定揚程 50m		
(C号館)	水量 700ℓ/min 設定揚程 25m		

給湯設備	(A号館)	ガス焚無圧式温水機 貯湯槽 3,500ℓ 縦型	燃料 13A 給湯量 2,000ℓ/h	116kW	2 基
	(B号館)	ガス焚無圧式温水機 貯湯槽 3,000ℓ 縦型	燃料 13A 給湯量 3,333ℓ/h	233kW	1 基 2 基
	(C号館)	ガス焚無圧式温水機	燃料 13A 給湯量 2,000ℓ/h	116kW	3 基
	(手術棟)	無圧缶式ヒーター	燃料 13A 給湯量 1,823ℓ/h	106kW	2 基(空調兼用)
	(医局棟)	ガス瞬間湯沸器 50号	燃料 13A	108kW	2 基
	(外来棟)	ガス瞬間湯沸器 50号	燃料 13A	91.9kW	1 基
	(透析・健診)	ガス焚無圧式温水機	燃料 13A 給湯量 2,000ℓ/h	116kW	2 基
排水設備		汚水雑排水と雨水の分流方式 グリストラップ 1槽 R I 処理槽 湧水槽 中和槽 透析中和槽			
給蒸設備					
	(滅菌用)	簡易貫流ボイラー	燃料13A 相当蒸発量250kg/h 熱出力157kW		2 基
	(洗濯室)	簡易貫流ボイラー	燃料13A 相当蒸発量 60kg/h 熱出力37.6W		2 基
医療ガス設備					
液化酸素供給装置		C E 5 型 貯蔵量 5,114kg 処理量 27.8m ³ /日			1 基
圧縮空気供給装置		コンプレッサー		3.7kW	4 台
吸引供給装置		吸引ポンプ	A号館・C号館・手術棟用	1.5kW	4 台
			B号館用	5.5kW	2 台
笑気ガス供給装置		30kg型		1列	4 本立
窒素ガス供給装置		7000ℓ型		2列	16 本立
予備酸素供給装置		7000ℓ型		2列	24 本立
医療ガスアウトレット		酸素 855個 笑気 24個 空気 192個 吸引 850個 窒素 17個 非治療用空気 2個			
アイソレーショントランス		放射線科 2台 病棟 40台 手術室 10台			
防災設備					
G R 型受信機		監視点数 400,000点 表示機能 最大 500画面			
		A号館感知器 580個 B号館感知器 575個 C号館感知器 469個 医局棟 24個			
		手術棟 88個 透析・健診 155個 院内保育所 20個 看護宿舎 104個			
スプリンクラー (A号館)		ポンプ 水量 750ℓ/min			1 基
		補助散水栓			33 基
	(B号館)	ポンプ 水量 750ℓ/min			1 基
		補助散水栓			31 基
	(C号館)	ポンプ 水量 900ℓ/min			1 基
		散水栓			13 基
	(透析・健診)	補助散水栓			10 基
		総スプリンクラーヘッド数			4,378 個
屋内消火栓ポンプ		水量 300ℓ/min			1 基
屋内消火栓					23 基
消防水槽		容量 12.8m ³ 1槽(A号館) 35m ³ 1槽(C号館)			
防火水槽		容量 40m ³ 3槽(正面玄関横、保育園横、看護宿舎横)			
消火器		粉末小型 122本 粉末大型 6本 強化液小型 150本			
		二酸化炭素小型 4本			
窒素消火設備					4 系統
ハロゲン化物消火設備					2 系統
二酸化炭素消火設備					2 系統
フード等用簡易自動消火装置 (B号館)					7 系統
排煙設備	(A号館)	排煙機能力 30,100m ³ /h ×15.0kW			1 台
	(B号館)	排煙機能力 28,000m ³ /h ×15.0kW			1 台
	(C号館)	排煙機能力 26,000m ³ /h ×18.5kW			1 台
昇降搬送設備					
昇降機	(A号館)	一般/寝台用			2 基
		業務用			2 基
	(B号館)	一般/寝台用			2 基
		配膳用			1 基
	(C号館)	一般/寝台用			2 基
		乗用			1 基
	(健診センター)	一般/寝台用			1 基
エアシューター	(A号館系統)	φ150型 17ステーション+サービスステーション			1 系統
	(B号館系統)	φ150型 7ステーション+サービスステーション			1 系統
弱电設備					
電話設備		電子交換機			
		多機能型電話機	実装 96 回線	現用	92 台
		一般電話機	実装 608 回線	現用	581 台
		I S D N局線	実装 8 回線	現用	8 回線
		アナログ局線	実装 16 回線	現用	16 回線
		リモートメンテナンス			
P H S 設備		電子交換機			
		P H S アンテナ	実装 200 回線	現用	157 回線
		P H S 電話機		現用	605 台
		ナースコール		現用	9 センター
ナースコール設備		デジタル式	ボード型親機 80 局		8 台
			40 局		1 台
自動制御		中央監視装置19型カラーディスプレイ 2SET (ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ)			
		最大管理点数3,000点			

主な器械備品

病院

(2024年3月31日現在)

名 称	数	メーカ－	機 種
MRIシステム	2	GEヘルスケア・ジャパン	DiscoveryMR750w 他1台
マルチスライスCT	3	GEヘルスケア・ジャパン	Revolution Ascend 他2台
2検出器シンチレーションカメラ	1	GEヘルスケア・ジャパン	Infinia 3
X線TV装置	2	キヤノンメデikalシステムズ 他	DREX-U180/06 他1台
フルデジタル血管X線撮影装置システム	2	島津製作所	Trinias C16 uunity smart 他1台
マンモ撮影装置	1	富士フイルムメデikal	AMULET Innovality
外科用X線装置	3	GEヘルスケア・ジャパン	OEC BRIVO 785 他2台
X線骨密度測定装置	1	ホロシツク	Horizon A型
一般・ボータブナル撮影 FPD(フラットパネル)システム	1	富士フイルムメデikal	CALNEO Smart C 及び CALNEO GL1
ボータブナル装置	4	富士フイルムメデikal 他	CALNEO GO 他3台
放射線治療システム	1	バリアン	Clinac-Triogy
マルチスライスCT(治療専用CT)	1	GEヘルスケア・ジャパン	LIGHTSPEED XTRA
一般撮影装置	4	島津製作所	RAD speed Pro
PACS	1	富士フイルムメデikal	SYNAPSE
眼科診療支援システム	1	トプコン	IMAGEnetR4
共焦点走査型オプトレーザ検眼鏡	1	ニデツク	Mirante
マルチカラーレーザ光凝固装置	1	ルミナス	ウァリア
光干渉眼軸長測定装置IOLマスター	1	カルツァイス	モデル700
視野計(コーホルトマン型ペリメータ)	1	ハークストレイト	940-K7
硝子体手術用機器	1	日本アルコン	コンステレーションLXTモデル
白内障手術装置	1	ジョンソン&ジョンソン	ペリタスビジョンシステム
内視鏡システム	5	富士フイルムメデikal、オリンパス	VT-318S、BL-7000、VP-7000、LL-7000 他
電子スコープ	29	富士フイルムメデikal、オリンパス	EG-760Z、EC760ZP、EC-L600ZP7/L、EG-L580RD7 他
超音波内視鏡	1	富士フイルムメデikal	EG-580UT
内視鏡洗浄機	7	富士フイルムメデikal、オリンパス	ESR-200、OER-4
高周波手術装置	15	コウイチイエン、アムコ 他	FT-10、ForceTriad、VIO300D、VIO200S 他
手術用内視鏡システム	4	オリンパス、スミダントネフュー、ストルツ	LENS、VISERA ERITEⅡ、VISERA ERITEⅢ 他
神経機能検査機器	2	日本光電、ニューベイシブ	MEE-1216、M5
赤外線カメラシステム	1	浜松ホニクス	PDE-NEO
手術用レーザ	2	モリタ製作所、エタップ	レザウイン、Quanta Litho
手術台	8	マッケ、ミズホ	アルファマックス1133、MOT-VS600
その他手術台	6	アレン、スミダントネフュー	アレンスパイナルシステム、T-MAX、SPIDER
麻酔器	8	トレーケル、GEヘルスケア・ジャパン	ファビウスGSプレミアム、ファビウスMRI、ファビウスTiro、エスティハPro
0-armイメージングシステム	1	メドトロニック	
ナビゲーションシステム	3	メドトロニック	ステルスステーションS7
手術用顕微鏡	3	ライカ、カルツァイス、ナカシマ	Lumera700、S88、SN-PN1
手術用ドリル	22	シセス、ジンマー、メドトロニック 他	TRS、コリブリアⅡ、サージエアトームⅡ、マイタスレックス
ガラスマ滅菌装置	1	ジョンソン&ジョンソン	ステラット100NX
高圧蒸気滅菌装置	2	サクラ精機	VSシリーズ
ウォッシュャー・イスインフェクター	2	ベリメド	WD-290ND
生体情報モニター	68	日本光電他	CSM1000、CSM1702、BSM6301、PVM4763 他
セントラルモニター	22	日本光電	CNS6101、CNS9601、WEP5208、WEP4208 他
人工呼吸器	8	バミルトン、トレーケル 他	バミルトンC1、Carina NKV-330
輸液ポンプ	133	(株)ジエイエムエス、テルモ	IP-100D、OT-808、TE-131 他
シンジポンプ	69	テルモ	TE-351、TE-371、TE-331 他
除細動器	10	日本光電	TEC5631、TEC5531 他
ラジオ波焼灼装置	1	メドトロニック	CooltipRFAシステムEシリーズ
人工透析装置、個人用透析装置	101	日機装	DCS-100NX、DBB-100NX
透析液供給装置	3	日機装	DAB-50NX
A剤・B剤溶解装置	6	日機装	AHI-502、BHI-502
RO装置、個人用RO装置	2	JWS	DRO-EX485H、MZ-1
透析通信システム	1	日機装	FutureNetWeb
循環器用超音波診断装置	2	GEヘルスケア・ジャパン	VividE9 ワークステーション 他1台
ハートフットクローズモニタ	1	日立アロカ	MBR-551
自動染色装置	1	サクラファインテック	ティシューテックプラスマ
超音波診断装置	7	GEヘルスケア・ジャパン	Logiq S8 with Xdclear×2 他5台
超音波診断装置	2	コニカミノルタジャパン	SONIMAGE MX1
超音波診断装置	5	富士フイルムメデikal	ARIETTA850LE 他4台
血液浄化装置	1	旭化成メデikal	ACH-Σ
電子式診断用スパイロメータ	1	フクダ電子	SP-790COPD
生理検査システム一式	1	フクダ電子	HIMEDSV1
多機能心電計	4	フクダ電子	FCP-8800
ハムフリーフィールドアナライザ	2	カルツァイス	HFA740、HFA3
ホルター解析装置	1	日本光電	

名 称	数	メーカ－	機 種
血圧脈波検査装置	1	フクダ電子	パセラVS-2500システム
ストレステストシステム一式	1	フクダ電子	
聴力検査計	1	モリタ製作所	インビータンスメータ SI-50I 他1台
自動採血管準備装置	1	テクノメテック	BCROB08000RFID/T 62
凍結組織切片作製装置	1	サクラファインテック	ティシュー・テックホーラーD
全自動化学発光酵素免疫測定機 ルミバールス	1	富士レビオ	ルミバールス G-1200
全自動輸血検査機 輸血管理システム	1	オソ	Ortho VISION
JMS舌圧測定器	2	(株)ジエイエムエス	TPM-02
自動免疫染色装置	1	ダコ・ジヤパン	AutostainerLink48
全自動錠剤分包機	1	トショー	Ci2000
安全キャビネット	1	日本エーテック	BHC-T701 II A2
手術用顕微鏡	1	カールツァイス	OPMI ViSU210
カンタスライサー	1	中西製作所	OSI-06S
身体組成分析装置	1	SKメディカル電子	MLT-550N
汎用超音波画像診断装置	1	GEヘルスケア・ジヤパン	Vscan Extend
浸透圧分析装置	1	日機装	OSA-33
凝固測定用経過時間タイマ	1	トライテック	アクトライク(MINI II)
血液凝固計	2	平和物産、他	ヘモロン401、アクトライクミニ
ルミスター	1	キョーマンバイオケミファ	ルミスター PD-30
酵素クラスター除菌脱臭装置	1	カルモア	シルフィード2
自動浸透圧測定装置	1	アークレイ	オズモステーション OM-6060
血液検査用アソモニオキット	1	富士フイルムメテック	富士ドライケムスライト NH3-W II
自動遺伝子解析装置	1	BECKMAN COULTER	Gene Xpertシステム

健診センター

名 称	数	メーカ－	機 種
胸部撮影装置	1	日立メテック	DHF-155H4
一般撮影 FPD(フラットパネル)システム	1	コニカミノルタジヤパン	CS-7
6CH解析付心電計	2	フクダ電子	FCP-7541
MRIシステム	1	GEヘルスケア・ジヤパン	OptimaMR360 Advance 8ch
X線TV装置	2	キヤノンメテックシステムズ	ZEXIRA
デジタルマンモグラフィシステム	1	富士フイルムメテック	AMULET s
骨塩量測定装置	1	日立メテック	DCS-600EXV
健診バス	1	日立メテック	CLAVIS MOBILE ESPACIO
超音波診断装置	3	GEヘルスケア・ジヤパン	LOGIQ S8、S7
超音波診断装置	2	日立アロカ	ARIETTA60
超音波診断装置	1	TOSHIBA	aplio a450
超音波診断装置(婦人科)	1	コニカミノルタジヤパン	SONOVISTA FX
自動採血管準備装置	2	テクノメテック	BC・ROBO-888
解析付心電計	3	フクダ電子	FCP-8800
電子スプレオメーター	1	チェスト	マイクロスプレオHI-801
内視鏡システム	3	富士フイルムメテック、オリンパス	VT-318S、BL-7000、VP-7000、LL-7000 他
電子スコープ	20	富士フイルムメテック、オリンパス	EG-740N、EC-760ZP-V/M 他
内視鏡洗浄機	3	富士フイルムメテック、オリンパス	ESR-200、OER-3
血圧脈派検査装置	1	フクダコーリン	form5
聴力検査計	1	リオン	AAK1B

2024年度 会議・委員会名簿

◎代表者 ○副 △事務局

必須	時期	会議名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
		管理会議	原則第1・3火曜日 17:30～	院長、副院長、院長補佐、 健診センター所長	総看護部長、看護次長	医療技術部次長	事務長、事務次長、 △総務課長	
		診療科責任者会	毎月最終月曜日 17:30～ (医局会終了後)	鈴木(理)、有田、川村、小谷、 藤井、岸田、眞崎、設楽、 川上、川島、宇井、徳山、 村上、小池、大島、手塚、 稲原、鈴木(繁)、金岡、 笹井、齊藤、山岸、佐久間、 田中、坂本(理)	総看護部長	医療技術部次長	事務長、事務次長、 △総合企画室長、 総務課長	
		医局会	毎月最終月曜日 17:00～	全医局員	総看護部長	医療技術部次長	事務長、事務次長、 △総務課長	
		全体課長会	毎月最終火曜日 16:00～	院長	総看護部長、看護次長、 各課長	各課長	事務長、事務次長、 各課長(△総務課長)	

【必須】 1.施設基準 2.法的要件 3.事業団要件

必須	時期	運営会議名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
		手術室運営会議	毎月第1木曜日 16:30～	◎岸田、○川島、佐久間、 設楽、眞崎、藤井、小池、 稲原、金岡、宇井、坂本	浦辺	八木、向井、土橋	△塚本	*必要時に 医事
		腎センター運営会議	必要時開催	◎藤井、有田、川村	小笠原、石村、高橋(由)	八木、阿部(拓)、福元、 飯塚、堀井、石口	△三上	
		腎戦略ミーティング	偶数月水曜日	鈴木(理)、藤井、田中(宏)、 越坂、山内	高橋(由)、山本(真)、 小笠原、折山、石村、 椎名、松信、田村	八木、阿部(拓)、福元、 飯塚、堀井、小倉	三上、伊藤(公)、大石、 原	
		リハビリセンター運営会議	奇数月	◎伊勢、南	由井、鎌田	白井、加藤木、△穴倉、 奥村	高部	
		内視鏡センター運営会議	偶数月金曜日 16:30～	◎齊藤(将)、○矢挽、小池、 住吉、武内、大城、吉川、 坂本(大)	△前岡、神尾、須藤(健 診)	新井(大)	横内	
		外来フロア運営会議	毎月1回	◎川村、川島、田中(宏)	小山、前岡、石村、宮 崎	石橋、大木、大竹、 齋藤(史)、加藤木	石井、御手洗、小島、 池田(ソラスト)、山口、 △大畑	
		生活習慣病センター 運営会議	必要時開催	◎久保田	高橋(弥)、高橋(由)、 長谷川	戸巻、加藤、田畑、安	△笹岡	
		放射線科運営会議	必要時開催		前岡	△園田、八木	石川	
		健診センター運営会議	毎週金曜日 16:15～	◎有田、久保田、石橋、 太田、高野	高木(健診)、須藤(健診)	佐藤(美)、芹山、金井、 西村(美)	△田代、近藤(肇)、 鈴木(君)、杉山	
		透析センター運営会議	毎月1回	◎藤井、田中(宏)、寺崎	石村	○阿部(拓)、福元	△渡邊(裕)、源岡	*必要時: 飯塚
		地域包括ケア病棟運営会 議	5月・10月・3月の 第4火曜日 17:30～	手塚、山内、佐久間	◎鎌田、安間、高橋(由)、 古津、吉田(仁)、 竹澤(訪看)	白井、島袋	△岡本(晴)、鈴木(恭)、 坂本、加藤(雄)	
		緩和ケアチーム運営会議	年4回	◎村上、川上、木谷	○石井、山岸、関	石野、小田川、桑原	△若海、杉本	*必要時: 竹澤(訪看)
		患者支援センター 運営会議	必要時開催	◎川村、岸田、矢挽	○吉田(仁)、山岸、 由井、山本(真)、	飯塚、菊入	△加藤(雄)、三上、 鈴木(恭)、川元	
		骨粗鬆症リエゾン サービスセンター 運営会議	毎月第1金曜日 17:00～	小谷、藤井、岸田、飯島、 山内、越坂	○宮崎、小笠原、藤田、 木村(弘)、阿部、東、 小野	◎加藤木、鈴木(諒)、西 原、石田、穂元	三上、近藤(奈)、青 柳	
		循環器チーム運営会議	偶数月第1火曜日 17:15～	◎徳山	△穴倉、田中(美)、小 野寺(亜)	金崎、渡邊(強)、檜、藤田、 三嶽、大野、中條、高山、 戸巻	関口	
1		がん医療支援センター 運営会議	第5週水曜日 16:00～	◎眞崎、○木谷、小池、 川上、村上、矢挽、稲原、 山岸、笹井	吉田、別宮、山岸、石井、 杉本、神尾	金子、天野、鈴木(諒)、 中嶋(宏)、安	△弘島、石井、伊藤 (公)、荒井、鈴木(恭)	
		聖隷佐倉キャンサーボード WG		◎木谷、矢挽、稲原、廣 橋	神尾	△金子、天野	弘島	

【必須】 1.施設基準 2.法的要件 3.事業団要件 ※開催時期が「定期的」の委員会・会議は最低でも3月に1回程度開催

必須	時期	委員会名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
1	月1回	医療安全管理委員会	毎月最終月曜日 15:45～	◎小谷、有田、藤井、 矢挽	○加藤(和)、小笠原 竹澤(訪看)、 金子(ケアプランセンター)	舎川、富田、園田、 八木、大竹(梨)	弘島、△石井、 加藤(雄)、田代	
1	月1回	医療安全報告書確認チーム	必要時開催 (1回/月以上)	◎笹井、小谷、瀬戸	加藤(和)	△園田、舎川		
1	月1回	医療機器安全管理委員会	毎月最終月曜日 15:30～	小谷	加藤(和)	◎八木、富田、園田、 舎川		
1	月1回	感染対策委員会	毎月第3月曜日 17:00～	◎眞崎、鈴木(理)、 川村、小池、久保田	清水、別宮、浦辺(憲)、 安間、宮崎(健診)、 竹澤(訪看)、 金子(ケアプランセンター)	△舎川、高橋、仙台、 芹山、宮野、塚本(悟)、 平野、秦野、富田	石川、竹澤、 鈴木(麻寿)、原、 菅原、塚本、三橋、 樋口	
2	月1回	衛生委員会	毎月第3月曜日	○川村、鈴木(理)、 小池、眞崎、久保田	清水、別宮、浦辺(憲)、 安間、宮崎(健診)	舎川、高橋(佑)、 塚本(悟)、秦野、富田	◎石川、竹澤、 △鈴木(麻寿)、三橋、 樋口、菅原、	

必須	時期	委員会名称	開催日	医局	看護	医療技術	事務	備考
1	定期的	褥瘡対策委員会	毎月第3 木曜日 16:00 ～	◎宇井、飯島	○青木、高野 リンクナース A2:伊藤 A3:大場 A4:鈴木 (陸) A5:藤原 B2:山口 B3:吉岡 B4:堀川 B5:出穂 HD:内田 OR:吉川	福山、大木、宮森	△吉行	
2	年1回	医療ガス設備安全委員会	年1回	◎設案、有田	浦辺	△八木、市村	高橋 (利)	
1	定期的	診療録管理委員会	奇数月第3 木曜日 16:30 ～	◎藤井、岸田、 鈴木 (繁)、武内	高橋 (弥)、 加藤 (医療安全)	柳沢、小出、戸巻	△荒井、石井、 竹澤、川元、吉行	
1	年6回	輸血療法委員会	偶数月第4 木曜日	◎有田、飯島	伊藤 (陽)、北田、 浦辺 (憲)	△石口、 佐藤、三和、吉永	彦坂	
1	定期的	臨床検査適正化委員会	隔月開催	◎笹井、徳山	別宮	舎川、石口、△大竹、 芹山	横内	
1	定期的	臨床研修管理委員会	4ヶ月に1回 (年3回) 開催	◎鈴木 (繁)、有田、 鈴木 (理)、岸田、設案、 川村、徳山、笹井、藤井、 齋藤 (将)	清水	八木、舎川、富田、 園田、中村 (貴)、白井	△樽井、井口、石川	初期研修医
1	年4回	DPC 対策委員会	必要時開催	◎岸田、小池、木谷、 齋藤 (将)、	吉田 (仁)、 加藤 (医療安全)	仙台、富田、園田	加藤 (雄)、荒井、 △彦坂、則松、石井、 菅谷	5,8,11,2月の 第2火曜日 16:30 開催
1	年1回	化学療法委員会	毎月第1月曜日 17:15 ～	◎小池、眞崎、稲原、 齋藤 (将)、木谷	山岸、石井、 板倉、卯野 (杉本)	△天野、中嶋、秦野、 北畠	彦坂	外部委員: 篠崎
1	年3回	職員処遇改善委員会	必要時開催	◎岸田、久保田、 寺崎 (紀)	○清水、 加藤 (医療安全)	舎川、園田、八木、富田、 中村 (貴)	△石井、近藤 (奈)、 菅谷、大畑、神谷	
2	定期的	栄養委員会	偶数月第2 木曜日 15:30 ～	◎藤井	高橋 (由)、青木	△中村 (貴)、金崎、 松田、河合、宮森	高部	
		NST 運営会議	毎月第2 木曜日 16:00 ～	◎藤井、武内	高橋 (由)、青木 各病棟から選出 A2:伊藤 A3:山口 A4:藤川 A5:斉藤 B2:八川 B3:福田 B4:吉田 (典) B5:出穂	△宮森、吉永、加藤 松田、五十嵐、増田、 川上	高部	
		事例検討委員会	事例発生時	◎鈴木 (理)、小谷	清水 加藤 (医療安全)	八木	△弘島、石川、本宮	
		薬事委員会	奇数月 17:00 ～	◎藤井、小谷、鈴木 (繁)、 眞崎、小池、村上、川島、 齋藤 (将)、稲原、山岸	加藤 (医療安全)	△富田、高山	小原	
		購入委員会	毎月1回		清水、浦辺 (憲)	中條	◎石川、△岡野、 弘島、御手洗	
		防災委員会	毎月1回	有田、鈴木 (繁)	宮崎、別宮、辰野、 河野 (寿)	石田、小川、吉野、 竹之内、有田、葛巻	◎石川、△矢澤、樋口、 鈴木 (麻友)、岡野、 源間、橋本、伊藤 (由)	
		減免委員会	3ヶ月に1回	鈴木 (理)	清水		◎石川、△本宮、 石井、御手洗	
		医療の質検討委員会	毎月第2 水曜日 17:00 ～	◎川村、田中 (宏) 越坂	吉田 (仁)、小笠原、宮崎、 加藤 (医療安全)	佐藤 (美)、中村 (貴)、 佐藤 (希)	石井、△矢澤、弘島、 田中	
		倫理委員会	奇数月第3 水曜日 16:30 ～	◎川村、鈴木 (理)	清水、高野	八木	△弘島、田中、石川	外部委員 2名
		研修委員会	毎月第3 水曜日 15:00 ～		浦辺	◎白井、大竹、飯塚、 ○園田、中條、安	△神谷、御手洗、鶴澤、 川元、伊藤 (公)	
		院内学会実行委員会	必要時開催	田中 (宏)、廣橋	浦辺	◎白井、大竹、飯塚、 ○園田、中條、安	△神谷、御手洗、鶴澤、 川元、伊藤 (公)	
		クリニカルパス委員会	毎月第4 金曜日 17:30 ～	◎小池、坂本 (大)	古津、○宮崎、 伊豆 (杉本)	北田	△則松、関口、吉行	
		接遇委員会	毎月第3 金曜日 17:00 ～	久保田、田中 (宏)	石村	○栗原、寺内、土屋、 玉上、須川、福元、 福田	◎田代、△岩瀬、 加藤 (理)、和田	
		個人情報保護委員会	必要時開催	◎鈴木 (理)	○清水	塚本 (悟)	石川、△加藤 (雄)、 樽井、坂本、竹澤	
		図書委員会	必要時開催	◎川上、佐久間	高野		△柄澤、御手洗	
3	年2回	安全運転委員会	必要時開催		河野 (寿)	白井	◎矢澤、中村、岡本、 △高橋	
		エコ推進委員会	四半期に1回開催 (年4回開催)			戸塚	◎石川、△鶴澤、塚本、 矢作、竹内	4、7、10、1月 開催予定
		ボランティア委員会	偶数月第2 月曜日	◎鈴木 (繁)	吉田 (仁)、小川	穴倉	△大石、高橋、 清水嶋、椎名	
		救急委員会	毎月第4 木曜日 16:00 ～	◎有田、藤井、吉川、 伊勢、松永	吉田 (仁)、別宮、前岡、 宮崎	高石、天野、芹山	△弘島、神谷、菅谷、 山口	
		情報システム委員会	毎月 第2 木曜日 16:30 ～	◎岸田、鈴木 (理)、 川島	別宮、小松崎、古津	高山、片岡	△竹澤、加藤 (雄)、 荒井、伊藤 (公)、則松、 住江、大畑	
2		放射線防護委員会	必要時開催	◎瀬戸、○川上	前岡	△金子、園田、高石、 佐藤 (美)、塚本、小林		
1	年2回	放射線治療品質管理委員会	必要時開催	◎川上、川島	前岡、神尾	○園田、△金子、戸塚	石川、弘島	*外部委員 1名

職 種 別 人 員

2024. 4. 1

単位 : 人

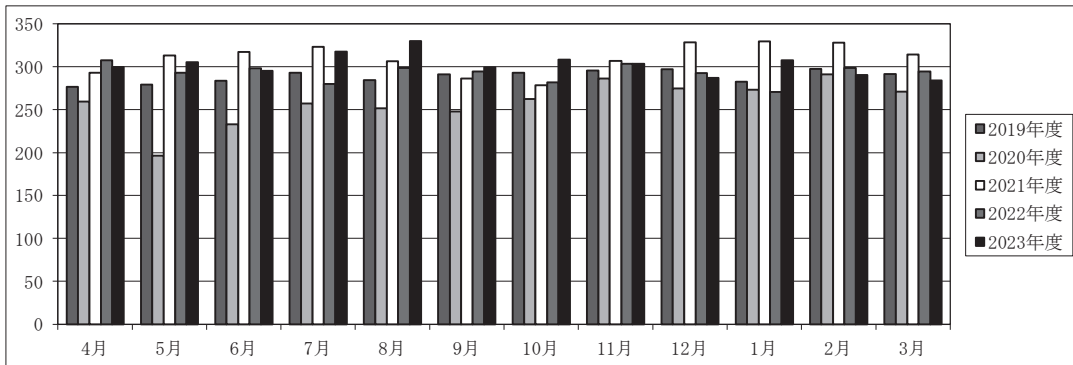
職種	正職員		エルダー・パート	計
	ブロック・地域総合	地区限定		
医師	64	0	6	70
看護師	258	11	54	323
准看護師	0	0	2	2
保健師	5	0	0	5
看護助手	0	32	18	50
クラーク	1	33	4	38
栄養士	1	2	0	3
管理栄養士	11	1	1	13
調理師	5	1	2	8
調理助手・洗浄員	0	0	22	22
薬剤師	23	0	1	24
薬剤助手	0	0	2	2
臨床検査技師	23	3	2	28
診療放射線技師	27	0	0	27
臨床工学技士	39	0	0	39
事務員	29	47	43	119
診療録管理士	0	2	1	3
施設員	4	0	0	4
理学療法士	21	0	1	22
作業療法士	5	0	0	5
言語聴覚士	1	0	0	1
歯科衛生士	1	0	0	1
視能訓練士	5	1	2	8
視能訓練助手	0	0	2	2
相談員	2	2	0	4
洗濯員	0	0	1	1
保育士	0	6	3	9
保育補助	0	0	0	0
救急救命士	0	0	1	1
介護支援専門員	3	1	0	4
計	528	142	168	838

※せいい訪問看護ステーション佐倉・せいいケアプランセンター佐倉を含む
 ※欠勤・休職者含む

病院統計

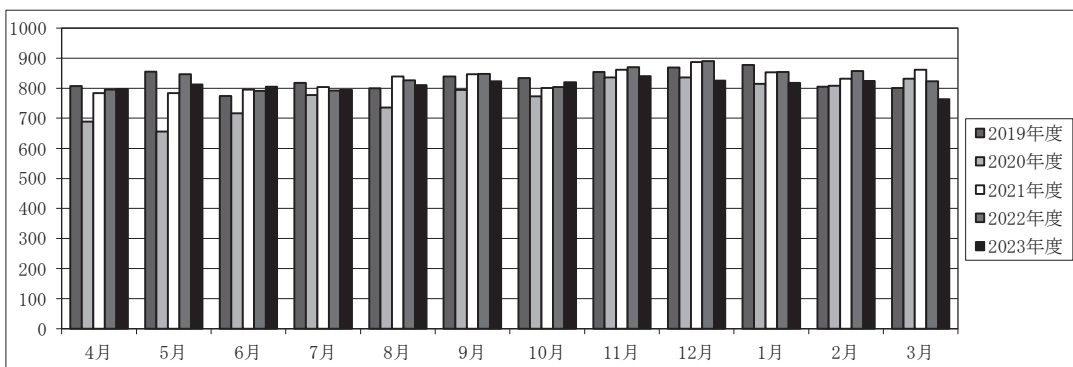
●1日平均入院患者数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	276.8	279.2	283.4	293.0	284.2	291.1	293.1	295.5	297.1	282.4	297.6	291.5	288.7
2020年度	259.3	196.4	233.0	257.1	251.4	247.8	262.4	286.3	274.7	273.1	290.9	270.9	258.4
2021年度	292.7	313.3	317.1	323.1	306.3	286.1	278.5	306.9	328.2	329.4	328.1	314.2	310.3
2022年度	307.4	293.0	298.2	279.9	298.5	294.3	281.7	303.5	292.4	270.4	298.6	294.5	292.6
2023年度	299.6	305.3	295.3	317.6	329.8	299.1	308.2	303.5	287.0	307.5	290.4	284.2	302.4



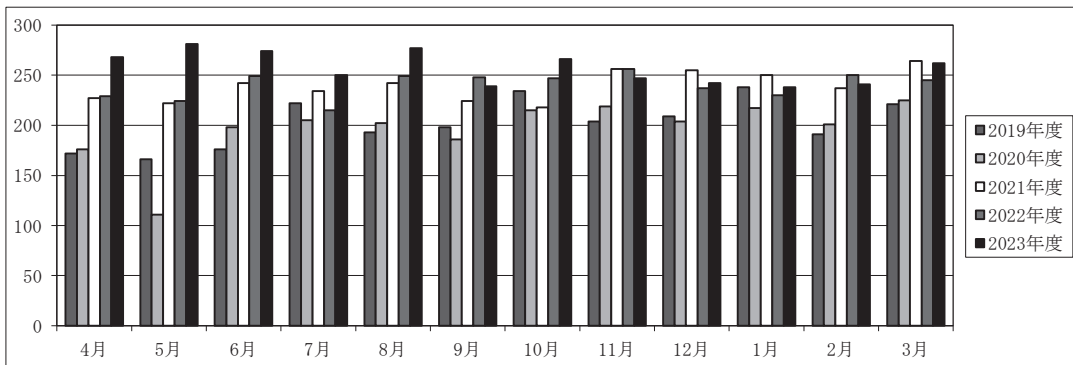
●1日平均外来患者数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	806.7	855.4	774.3	818.3	799.8	839.7	833.6	853.8	868.8	876.9	805.7	800.6	827.0
2020年度	688.8	656.3	716.8	777.6	735.9	794.6	773.6	835.4	836.0	814.1	808.4	831.5	771.9
2021年度	784.1	783.0	795.6	803.8	839.4	847.2	800.5	861.7	887.1	853.2	831.5	861.2	828.7
2022年度	795.7	846.5	790.8	792.6	826.7	847.5	804.0	870.6	889.9	853.7	856.7	822.7	832.1
2023年度	797.8	813.2	805.1	795.0	810.5	822.8	819.6	840.3	825.9	817.2	824.1	763.5	810.9



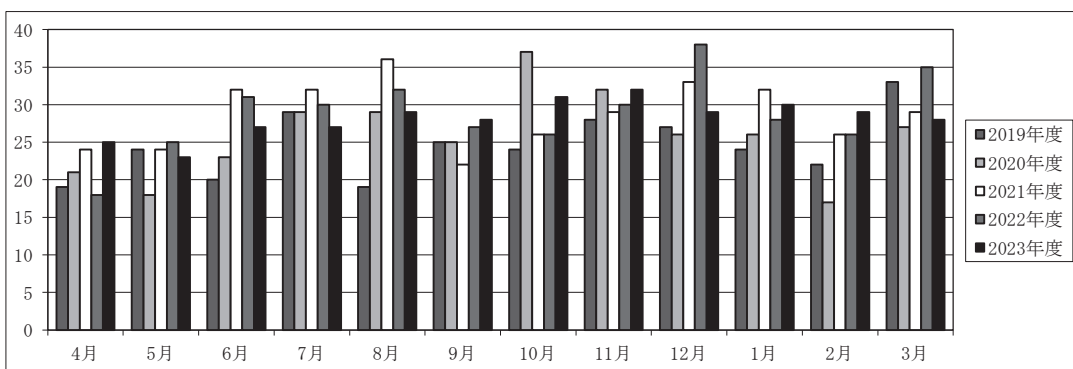
●入院手術件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	172	166	176	222	193	198	234	204	209	238	191	221	202.0
2020年度	176	111	198	205	202	186	215	219	204	217	201	225	196.6
2021年度	227	222	242	234	242	224	218	256	255	250	237	264	239.3
2022年度	229	224	249	215	249	248	247	256	237	230	250	245	239.9
2023年度	268	281	274	250	277	239	266	247	242	238	241	262	257.1



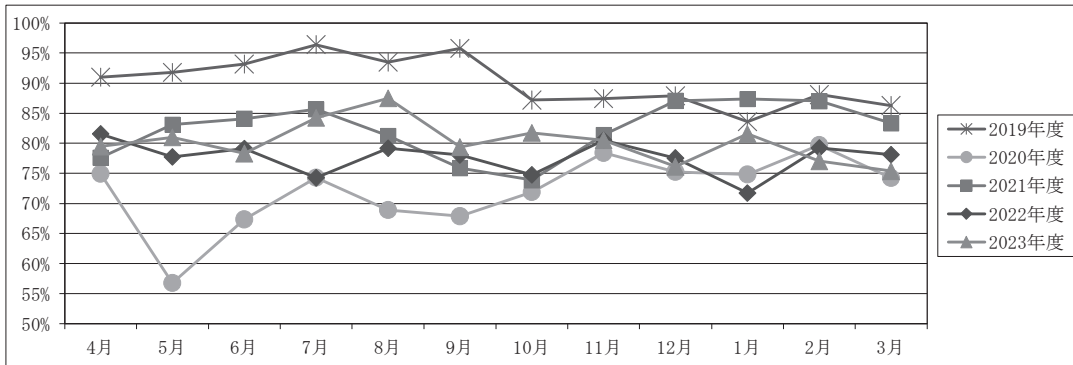
●外来手術件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	19	24	20	29	19	25	24	28	27	24	22	33	24.5
2020年度	21	18	23	29	29	25	37	32	26	26	17	27	25.8
2021年度	24	24	32	32	36	22	26	29	33	32	26	29	28.8
2022年度	18	25	31	30	32	27	26	30	38	28	26	35	28.8
2023年度	25	23	27	27	29	28	31	32	29	30	29	28	28.2



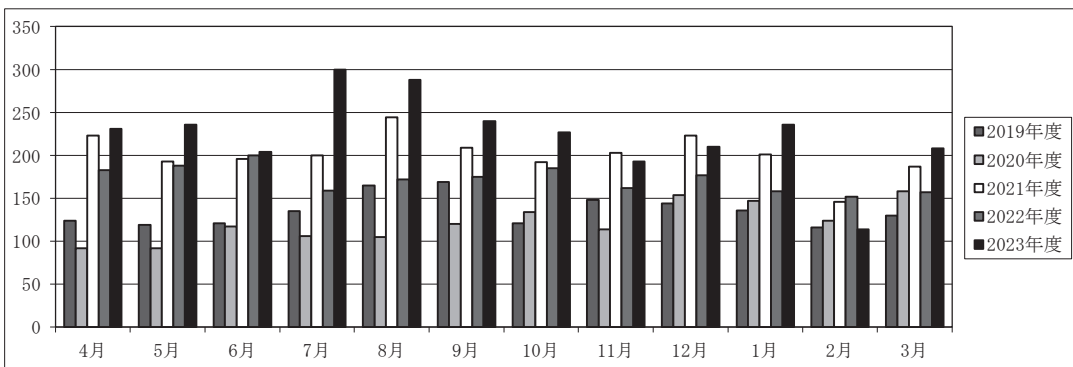
●病床稼働率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	91.0%	91.8%	93.2%	96.4%	93.5%	95.8%	87.2%	87.4%	87.9%	83.6%	88.1%	86.3%	90.0%
2020年度	75.0%	56.7%	67.4%	74.3%	68.9%	67.9%	71.9%	78.4%	75.3%	74.8%	79.7%	74.2%	72.0%
2021年度	77.6%	83.1%	84.1%	85.7%	81.2%	75.9%	73.9%	81.4%	87.1%	87.4%	87.0%	83.3%	82.3%
2022年度	81.5%	77.7%	79.1%	74.3%	79.2%	78.1%	74.7%	80.5%	77.6%	71.7%	79.2%	78.1%	77.6%
2023年度	79.5%	81.0%	78.3%	84.2%	87.5%	79.3%	81.7%	80.5%	76.1%	81.6%	77.0%	75.4%	80.2%



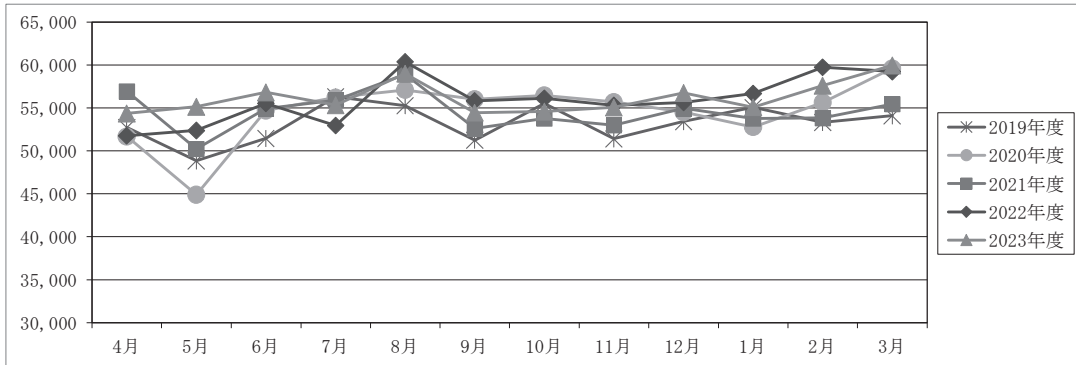
●救急車搬入件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	124	119	121	135	165	169	121	148	144	136	116	130	135.7
2020年度	92	92	117	106	105	120	134	114	154	147	124	158	121.9
2021年度	223	193	196	200	244	209	192	203	223	201	146	187	201.4
2022年度	183	188	200	159	172	175	185	162	177	158	152	157	172.3
2023年度	231	236	204	300	288	240	227	193	210	236	114	208	223.9



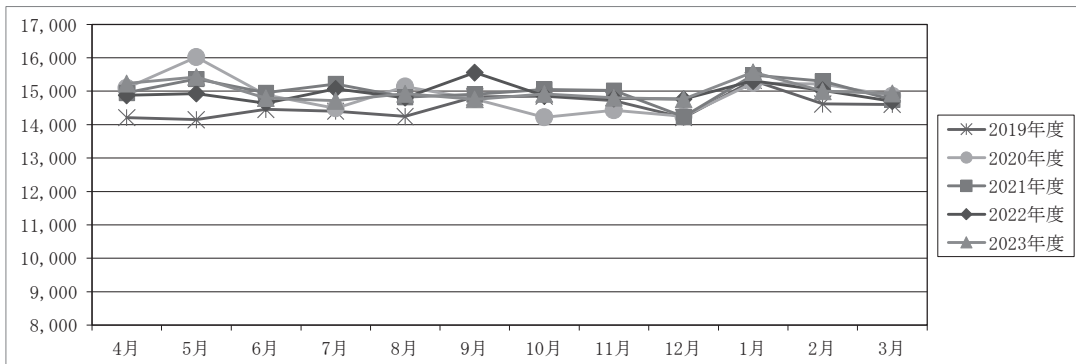
●入院平均単価推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	52,748	48,854	51,477	56,316	55,276	51,249	55,534	51,418	53,427	55,061	53,324	54,113	53,263
2020年度	51,677	44,895	54,691	56,217	57,099	56,009	56,472	55,701	54,506	52,789	55,657	59,617	54,838
2021年度	56,938	50,244	54,931	55,906	58,934	52,638	53,804	53,002	54,959	53,780	53,851	55,472	54,548
2022年度	51,777	52,395	55,530	52,986	60,383	55,842	56,133	55,300	55,637	56,687	59,740	59,243	55,956
2023年度	54,387	55,136	56,845	55,340	59,005	54,464	54,583	55,069	56,767	55,089	57,610	59,962	56,179



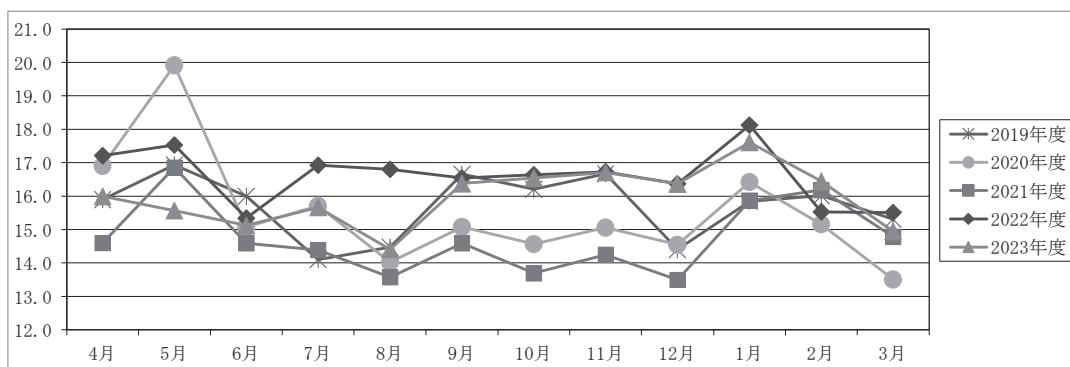
●外来平均単価推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	14,214	14,149	14,458	14,399	14,247	14,831	14,854	14,721	14,214	15,321	14,620	14,607	14,551
2020年度	15,104	16,023	14,896	14,489	15,134	14,770	14,224	14,428	14,245	15,248	15,211	14,863	14,852
2021年度	14,951	15,371	14,954	15,220	14,825	14,913	15,059	15,019	14,242	15,485	15,303	14,750	14,995
2022年度	14,879	14,932	14,645	15,071	14,807	15,558	14,859	14,785	14,764	15,309	15,026	14,700	14,940
2023年度	15,234	15,428	14,798	14,714	14,923	14,755	14,923	14,801	14,763	15,573	15,000	14,935	14,982



●平均在院日数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	15.9	16.9	16.0	14.1	14.5	16.7	16.2	16.7	14.4	15.8	16.0	15.3	15.6
2020年度	16.9	19.9	15.1	15.7	14.0	15.1	14.6	15.1	14.5	16.4	15.2	13.5	15.3
2021年度	14.6	16.9	14.6	14.4	13.6	14.6	13.7	14.2	13.5	15.9	16.2	14.8	14.7
2022年度	17.2	17.5	15.3	16.9	16.8	16.5	16.6	16.7	16.4	18.1	15.5	15.5	16.6
2023年度	16.0	15.6	15.1	15.7	14.4	16.4	16.5	16.7	16.4	17.6	16.4	14.9	15.9



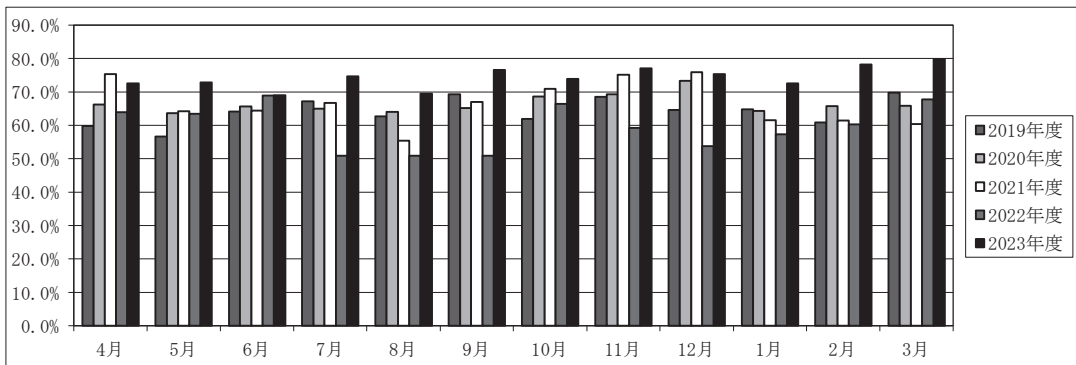
●病棟別在院日数

2023年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
A2病棟	8.0	9.0	7.1	8.7	7.8	8.5	8.3	9.3	7.8	10.4	10.0	8.5	8.5
A3病棟	25.8	23.0	21.4	24.3	19.6	21.8	20.9	25.5	25.1	23.4	21.3	22.3	22.7
A4病棟	23.1	20.2	17.3	16.1	17.5	19.8	21.9	15.1	16.1	20.7	16.2	16.2	18.1
A5病棟	17.0	18.4	15.9	17.5	17.4	17.0	16.1	17.2	14.1	19.3	13.7	14.3	16.4
B2病棟	16.1	12.7	13.1	15.4	16.2	12.9	9.5	8.7	8.7	9.7	9.3	7.7	11.0
B3病棟	20.7	21.2	16.8	15.8	17.5	19.0	20.3	21.2	19.9	22.2	14.4	14.3	11.0
B4病棟	13.8	17.0	20.0	22.3	14.7	18.1	23.4	21.6	26.5	19.9	26.3	22.1	20.1
B5病棟	8.3	7.1	8.6	9.0	7.8	9.3	12.7	14.6	11.8	15.2	16.7	11.9	10.2
C3病棟	15.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15.5

●紹介率推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	59.8%	56.6%	64.2%	67.2%	62.6%	69.3%	61.9%	68.5%	64.6%	64.7%	60.8%	69.8%	64.2%
2020年度	66.3%	63.7%	65.7%	64.9%	64.0%	65.1%	68.7%	69.3%	73.3%	64.3%	65.7%	65.9%	66.5%
2021年度	75.3%	64.2%	64.4%	66.8%	55.4%	67.0%	70.9%	75.2%	75.9%	61.5%	61.4%	60.3%	66.6%
2022年度	63.9%	63.5%	68.9%	50.9%	50.9%	50.9%	66.4%	59.2%	53.8%	57.3%	60.3%	67.7%	59.2%
2023年度	72.6%	72.9%	69.0%	74.6%	69.4%	76.6%	73.9%	77.0%	75.3%	72.5%	78.2%	79.8%	74.1%



●診療科別紹介率

2023年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
内科	66.1%	64.5%	80.2%	77.5%	58.2%	72.8%	68.6%	61.5%	46.6%	44.0%	65.3%	59.1%	62.8%
腎臓内科	72.2%	74.0%	60.0%	84.2%	70.7%	74.2%	72.9%	89.6%	80.4%	77.9%	78.3%	97.0%	77.3%
代謝内分泌科	94.1%	100.0%	71.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	85.7%	100.0%	75.0%	122.2%	96.7%
呼吸器内科	85.7%	100.0%	28.6%	87.5%	100.0%	60.0%	90.9%	75.0%	100.0%	40.0%	83.3%	100.0%	79.2%
消化器内科	92.0%	80.9%	84.6%	90.9%	85.2%	111.2%	86.2%	92.2%	90.6%	94.8%	94.8%	86.1%	90.8%
総合内科	37.7%	34.8%	29.5%	41.0%	42.1%	41.2%	40.2%	52.2%	46.2%	33.3%	45.3%	40.9%	40.5%
循環器科	94.1%	100.0%	81.3%	100.0%	90.0%	100.0%	100.0%	72.7%	92.9%	86.7%	100.0%	66.7%	88.9%
神経内科	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	133.3%	100.0%	104.0%
小児科	42.9%	40.3%	38.6%	41.1%	51.6%	32.2%	19.3%	34.9%	28.6%	51.4%	35.1%	52.9%	39.0%
外科	74.7%	70.4%	96.6%	76.6%	74.0%	81.0%	84.7%	91.4%	95.7%	94.0%	103.6%	109.5%	84.6%
乳腺外科	52.0%	51.9%	67.4%	83.3%	60.5%	59.0%	81.8%	71.8%	64.1%	85.3%	80.0%	76.7%	70.1%
血管外科	42.9%	61.5%	40.0%	45.5%	60.0%	75.0%	50.0%	14.3%	66.7%	85.7%	50.0%	40.0%	52.2%
皮膚科	22.2%	28.6%	23.8%	7.7%	11.8%	20.0%	21.4%	37.5%	12.5%	12.5%	22.2%	42.9%	20.6%
整形外科	94.4%	95.2%	91.9%	95.0%	88.6%	98.2%	96.5%	100.5%	97.0%	98.8%	98.6%	95.3%	95.7%
脳神経外科	35.1%	28.6%	27.3%	18.9%	19.2%	21.6%	43.6%	31.4%	22.6%	31.3%	37.9%	26.7%	28.9%
呼吸器外科	90.0%	100.0%	69.2%	80.0%	96.3%	115.8%	121.1%	100.0%	115.8%	94.4%	100.0%	100.0%	100.5%
泌尿器科	64.3%	81.3%	85.2%	78.6%	58.1%	87.5%	54.3%	51.5%	73.9%	80.0%	61.9%	65.4%	68.3%
眼科	81.3%	77.8%	83.3%	82.1%	65.3%	77.8%	84.6%	85.3%	89.7%	78.1%	89.2%	92.3%	82.2%
耳鼻咽喉科	42.2%	54.9%	42.6%	41.0%	48.9%	52.4%	31.3%	33.3%	34.4%	38.1%	44.0%	48.5%	43.1%
放射線診断科	95.9%	100.0%	100.0%	100.0%	98.3%	100.0%	98.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.0%	99.3%
放射線治療科	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
緩和医療科	200.0%	157.1%	183.3%	200.0%	144.4%	275.0%	171.4%	133.3%	150.0%	114.3%	140.0%	122.2%	157.1%
和漢診療科	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	53.8%
形成外科	42.9%	68.4%	50.0%	53.1%	60.0%	36.4%	57.5%	50.0%	73.9%	50.0%	61.9%	72.7%	56.2%
合計	72.6%	72.9%	69.0%	74.6%	69.4%	76.6%	73.9%	77.0%	75.3%	72.5%	78.2%	79.8%	74.1%

●診療科別逆紹介患者数

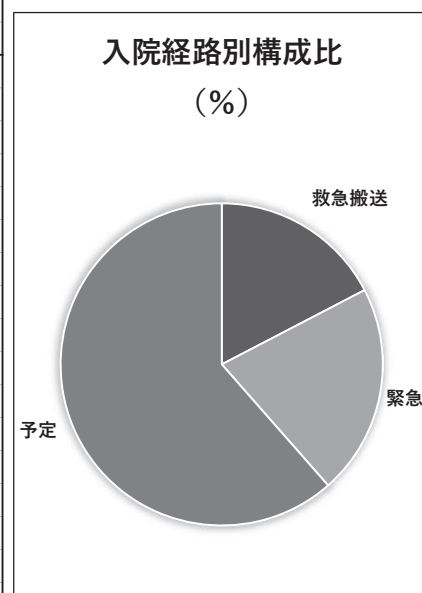
2023年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
内科	0	4	3	7	2	2	2	2	0	5	0	0	2.3
腎臓内科	71	81	74	70	68	48	67	74	57	53	46	46	62.9
透析科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.1
代謝内分泌科	18	13	13	12	10	11	8	8	12	14	8	8	11.3
呼吸器内科	15	11	9	10	5	9	7	9	5	4	4	4	7.7
消化器内科	31	40	33	30	44	44	26	35	40	25	36	36	35.0
総合内科	7	6	10	13	3	9	11	9	14	10	10	10	9.3
循環器科	36	28	46	28	35	25	36	34	31	36	39	39	34.4
神経内科	2	4	5	5	5	2	3	4	8	3	5	5	4.3
メンタルヘルズ科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.1
小児科	6	2	2	6	5	5	6	5	1	2	5	5	4.2
外科	19	20	20	17	13	22	20	11	22	18	13	13	17.3
乳腺外科	5	10	14	6	10	6	6	4	6	7	10	10	7.8
血管外科	2	3	3	1	0	3	3	2	2	1	1	1	1.8
皮膚科	7	4	5	2	4	6	4	7	6	1	5	5	4.7
整形外科	157	199	199	172	169	157	180	169	189	167	188	188	177.8
脳神経外科	15	16	17	20	15	14	22	7	11	18	18	18	15.9
呼吸器外科	46	34	25	27	27	16	20	16	19	18	14	14	23.0
泌尿器科	23	12	20	23	17	16	17	18	16	20	27	27	19.7
眼科	28	34	35	41	37	37	43	37	34	21	38	38	35.3
耳鼻咽喉科	12	16	22	12	22	21	11	15	22	14	68	68	25.3
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0.1
放射線診断科	67	73	76	81	77	98	85	95	95	81	89	89	83.8
放射線治療科	4	2	2	1	2	3	5	1	5	4	2	2	2.8
緩和医療科	4	1	1	0	1	2	2	3	1	0	2	2	1.6
和漢診療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
形成外科	7	6	6	5	5	2	11	3	5	1	4	4	4.9
合計	582	619	640	589	577	558	596	568	601	524	632	632	593.2

●入院経路別患者数

2023年度

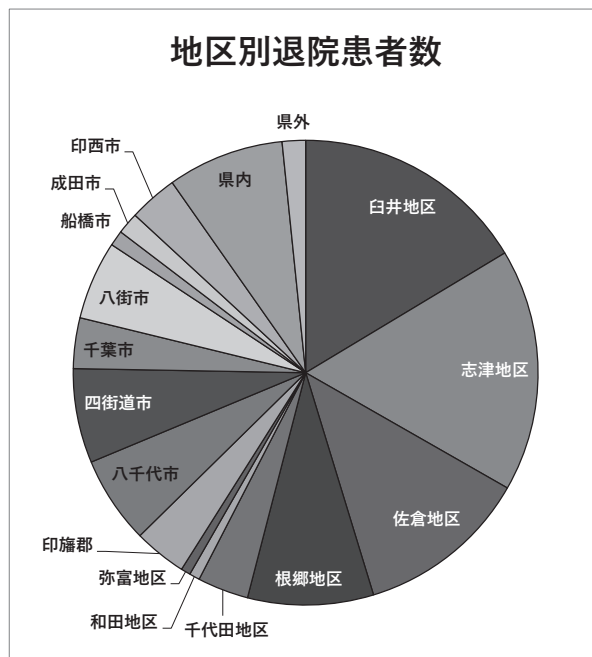
	件数（件）				構成比（％）		
	合計	救急搬送	緊急	予定	救急搬送	緊急	予定
腎臓内科	1,130	320	389	421	28.3%	34.4%	37.3%
呼吸器内科	53	21	26	6	39.6%	49.1%	11.3%
消化器内科	1,303	268	361	674	20.6%	27.7%	51.7%
総合内科	29	6	13	10	20.7%	44.8%	34.5%
循環器科	141	6	28	107	4.3%	19.9%	75.9%
小児科	135	4	73	58	3.0%	54.1%	43.0%
外科	441	49	87	305	11.1%	19.7%	69.2%
乳腺外科	247	12	19	216	4.9%	7.7%	87.4%
血管外科	31	0	3	28	0.0%	9.7%	90.3%
整形外科	1,735	447	301	987	25.8%	17.3%	56.9%
呼吸器外科	328	19	49	260	5.8%	14.9%	79.3%
泌尿器科	300	17	54	229	5.7%	18.0%	76.3%
眼科	919	1	17	901	0.1%	1.8%	98.0%
耳鼻咽喉科	134	17	35	82	12.7%	26.1%	61.2%
リハビリテーション科	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
放射線治療科	2	0	1	1	0.0%	50.0%	50.0%
緩和医療科	112	36	32	44	32.1%	28.6%	39.3%
合計	7,040	1,223	1,488	4,329	17.4%	21.1%	61.5%



●地区別患者数

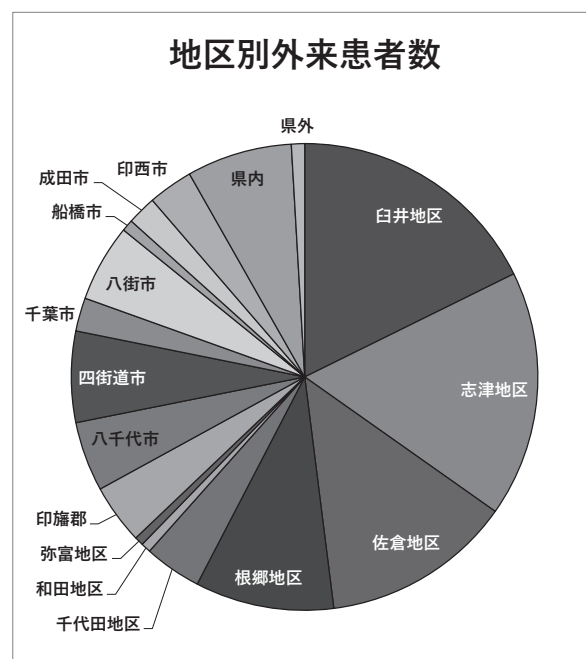
退院患者（2023年度実績）

地区	人数	比率
白井地区	1,154	16.4%
志津地区	1,188	16.9%
佐倉地区	847	12.0%
根郷地区	615	8.7%
千代田地区	251	3.6%
和田地区	51	0.7%
弥富地区	46	0.7%
佐倉市小計	4,152	59.0%
印旛郡	258	3.7%
八千代市	429	6.1%
四街道市	462	6.6%
千葉市	248	3.5%
八街市	385	5.5%
船橋市	76	1.1%
成田市	106	1.5%
印西市	239	3.4%
その他県内	572	8.1%
県外他	114	1.6%
合計	7,041	100.0%



外来患者（2023年度実績）

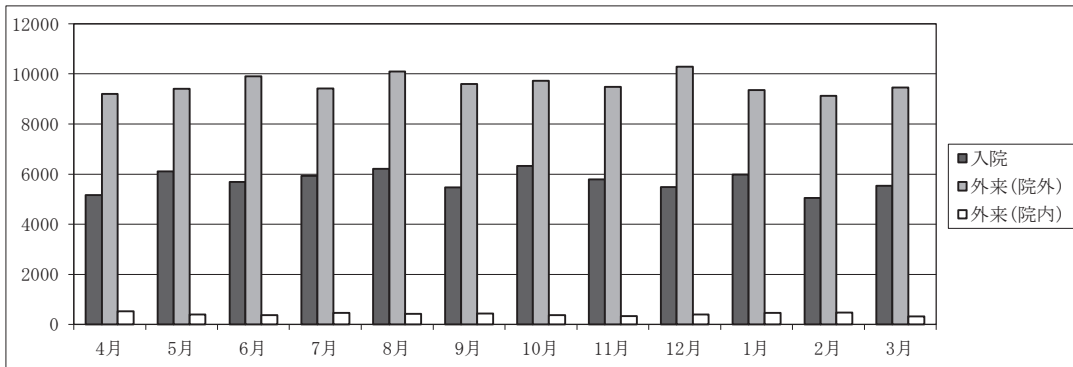
地区	人数	比率
白井地区	41,972	17.7%
志津地区	40,395	17.1%
佐倉地区	31,311	13.2%
根郷地区	22,771	9.6%
千代田地区	9,379	4.0%
和田地区	1,605	0.7%
弥富地区	1,491	0.6%
佐倉市小計	148,924	62.9%
印旛郡	9,786	4.1%
八千代市	11,479	4.8%
四街道市	14,945	6.3%
千葉市	5,446	2.3%
八街市	12,704	5.4%
船橋市	1,941	0.8%
成田市	4,800	2.0%
印西市	7,344	3.1%
その他県内	17,295	7.3%
県外他	2,157	0.9%
合計	236,821	100.0%



●処方箋枚数

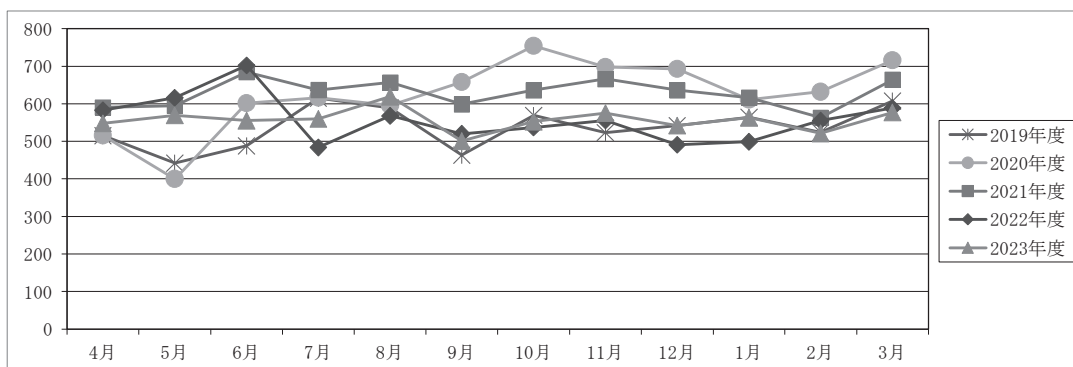
2023年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	5,161	6,105	5,679	5,929	6,210	5,464	6,325	5,787	5,484	5,979	5,046	5,535	5,725.3
外来(院外)	9,201	9,406	9,910	9,418	10,102	9,602	9,730	9,480	10,283	9,355	9,133	9,454	9,589.5
外来(院内)	526	399	375	454	419	432	373	326	397	451	470	321	411.9
合計	14,888	15,910	15,964	15,801	16,731	15,498	16,428	15,593	16,164	15,785	14,649	15,310	15,726.8



●服薬指導件数推移

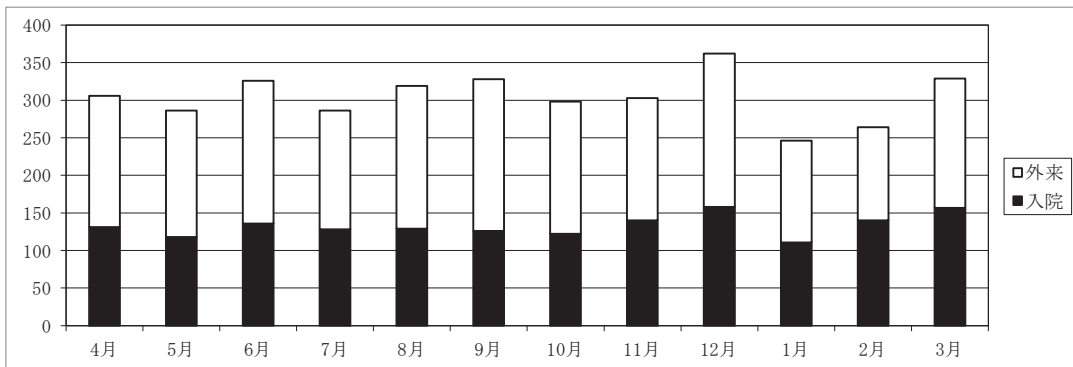
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	515	442	488	615	589	463	569	523	542	564	524	607	536.8
2020年度	516	400	602	616	596	658	754	698	693	611	632	716	624.3
2021年度	590	595	684	637	657	599	636	666	636	616	563	664	628.6
2022年度	583	616	702	484	568	520	537	556	491	499	555	589	558.3
2023年度	548	569	555	560	619	501	553	575	542	563	521	577	556.9



●栄養指導件数（入院・外来）

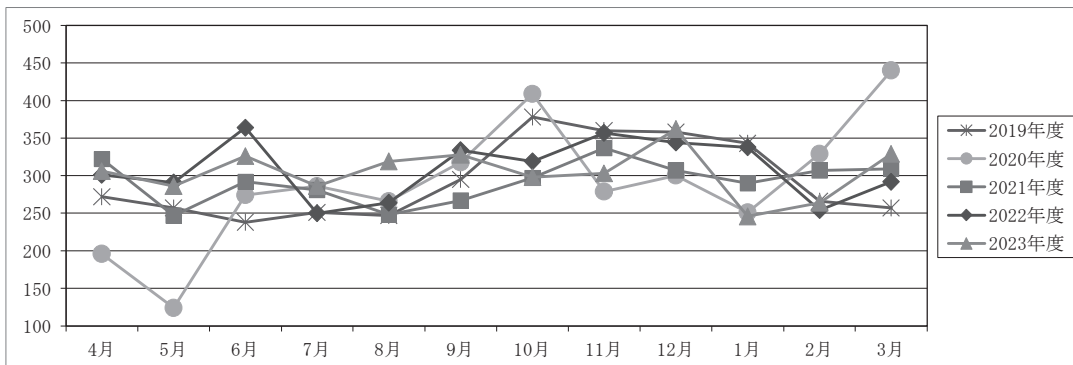
2023年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	131	118	136	128	129	126	122	140	158	111	140	157	133.0
外来	175	168	190	158	190	202	176	163	204	135	124	172	171.4
合計	306	286	326	286	319	328	298	303	362	246	264	329	304.4



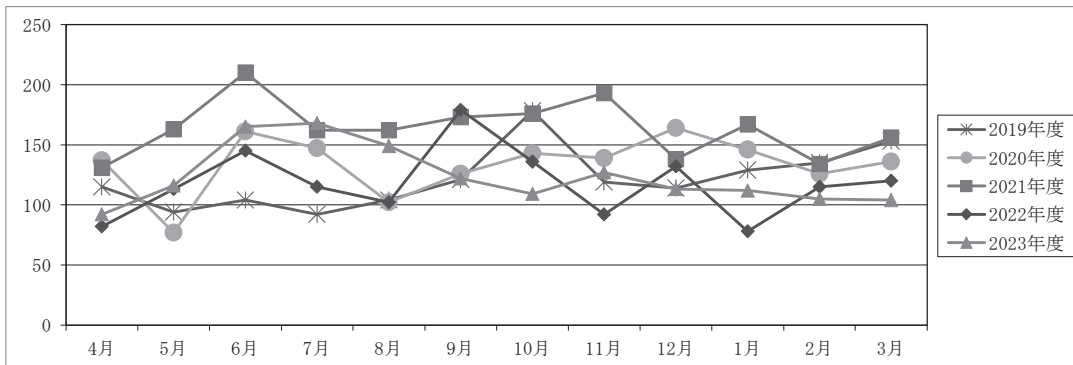
●栄養指導件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	272	257	238	251	247	295	378	360	358	343	266	257	293.5
2020年度	196	124	274	286	266	318	409	279	300	251	329	440	289.3
2021年度	322	247	292	281	248	267	297	337	307	290	307	309	292.0
2022年度	301	291	364	250	264	334	319	357	344	338	254	292	309.0
2023年度	306	286	326	286	319	328	298	303	362	246	264	329	304.4



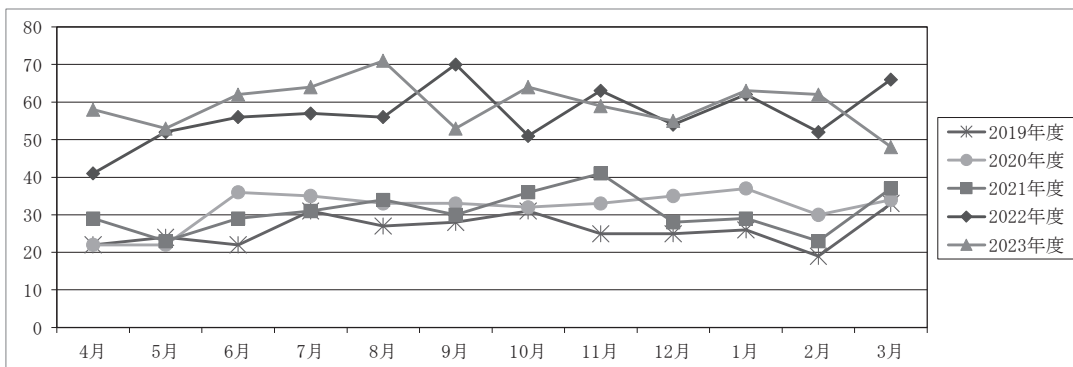
●NST加算件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	115	94	104	92	104	121	178	119	114	129	135	153	121.5
2020年度	137	77	161	147	102	126	143	139	164	146	126	136	133.7
2021年度	131	163	210	162	162	173	176	193	138	167	134	156	163.8
2022年度	82	113	145	115	102	179	136	92	132	78	115	120	117.4
2023年度	92	116	165	168	149	122	109	127	113	112	105	104	123.5



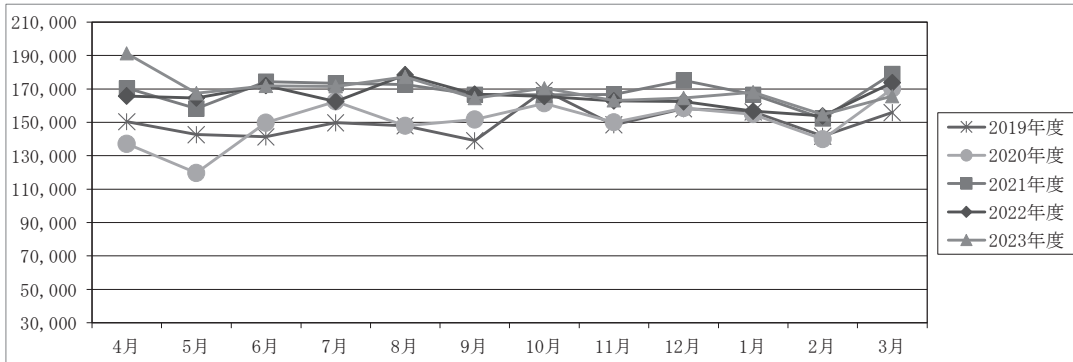
●糖尿病透析予防指導推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	22	24	22	31	27	28	31	25	25	26	19	33	26.1
2020年度	22	22	36	35	33	33	32	33	35	37	30	34	31.8
2021年度	29	23	29	31	34	30	36	41	28	29	23	37	30.8
2022年度	41	52	56	57	56	70	51	63	54	62	52	66	56.7
2023年度	58	53	62	64	71	53	64	59	55	63	62	48	59.3



●検体検査件数推移

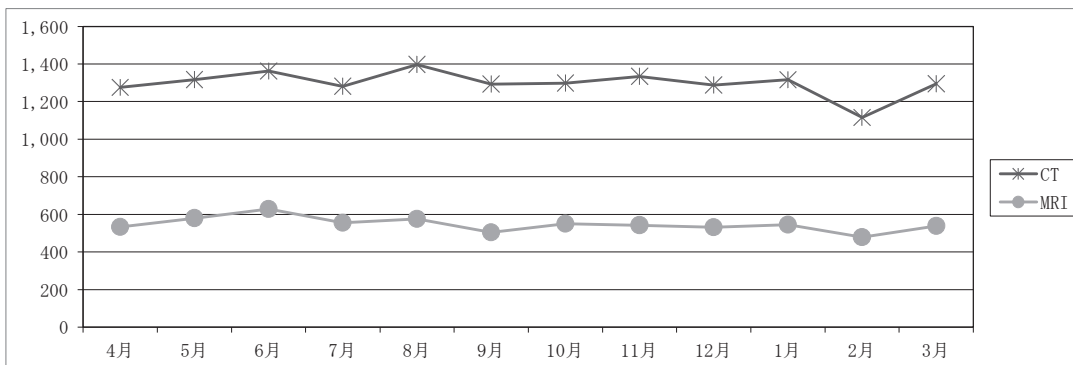
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	150,398	142,612	141,236	149,646	147,890	139,003	169,064	148,520	158,157	156,221	141,635	155,875	150,021.4
2020年度	137,103	119,634	149,756	162,483	147,903	151,609	161,332	150,030	158,423	154,741	139,977	170,167	150,263.2
2021年度	170,374	158,280	174,380	173,340	172,631	166,621	166,521	166,716	175,136	166,620	152,259	179,061	168,494.9
2022年度	165,765	164,518	172,064	162,457	178,421	166,856	165,512	162,739	162,348	156,610	153,758	173,653	165,391.8
2023年度	191,281	167,353	171,698	171,468	177,198	164,349	170,418	163,079	164,590	168,108	154,583	165,703	169,152.3



●画像診断件数 (CT・MRI)

2023年度

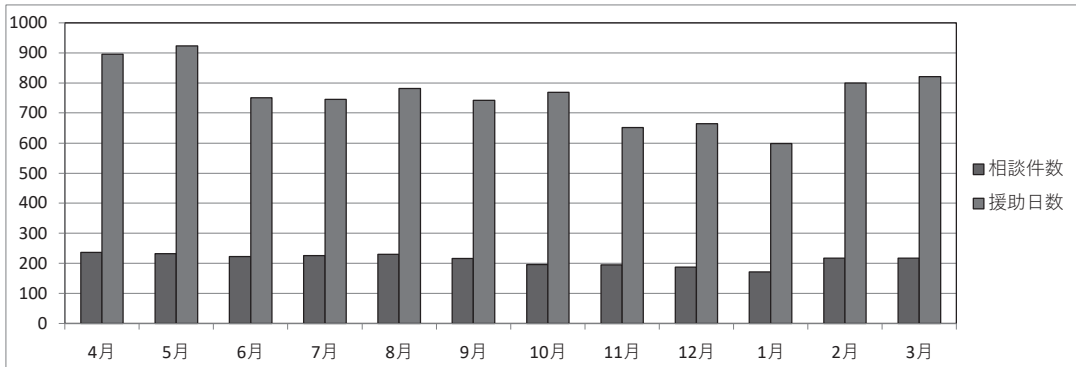
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
CT	1,276	1,318	1,362	1,281	1,397	1,294	1,298	1,335	1,289	1,317	1,116	1,295	1,298.2
MRI	532	580	628	556	576	504	550	542	531	544	478	538	546.6
合計	1,808	1,898	1,990	1,837	1,973	1,798	1,848	1,877	1,820	1,861	1,594	1,833	1,844.8



●医療相談件数

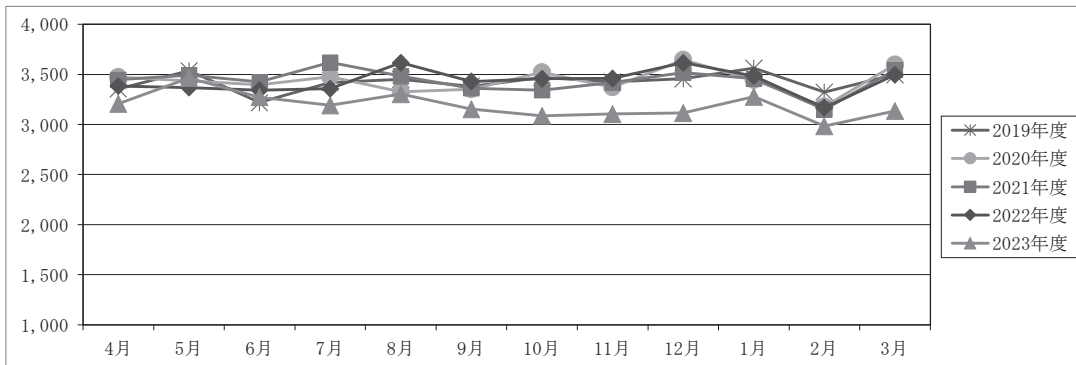
2023年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
相談件数	237	232	222	225	230	216	196	194	187	172	217	217	212.1
援助日数	895	923	751	746	782	742	768	652	664	598	800	821	761.8



●透析件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019年度	3,353	3,536	3,219	3,419	3,450	3,382	3,469	3,425	3,455	3,561	3,322	3,496	3,423.9
2020年度	3,473	3,436	3,395	3,477	3,325	3,351	3,520	3,370	3,645	3,444	3,179	3,597	3,434.3
2021年度	3,447	3,492	3,424	3,618	3,482	3,360	3,342	3,418	3,517	3,455	3,149	3,543	3,437.3
2022年度	3,383	3,367	3,343	3,357	3,616	3,429	3,457	3,458	3,615	3,484	3,167	3,495	3,430.9
2023年度	3,207	3,464	3,273	3,191	3,301	3,151	3,087	3,104	3,114	3,277	2,983	3,133	3,190.4



●診療報酬請求書件数

2023年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	888	957	923	959	1,025	887	905	886	878	862	874	896	911.7
外来	10,735	10,645	11,295	10,987	11,500	10,991	11,329	11,005	11,249	10,556	10,291	10,968	10,962.6
合計	11,623	11,602	12,218	11,946	12,525	11,878	12,234	11,891	12,127	11,418	11,165	11,864	11,874.3

部門報告

診療部	43
看護部	62
医療技術部	77
事務部	84
医療安全管理室	93
感染管理室	94
健診センター	95
せいの訪問看護ステーション佐倉	96
せいのケアプランセンター佐倉	97

《常勤スタッフ》

院 長	鈴木 理志	副 部 長	寺崎 紀子	医 師	森本 真有
院長補佐	藤井 隆之	医 長	山内 伸章	医 師	松永 宇広
部 長	田中 宏明	医 師	越坂 純也		

《診療内容》

当科は急性疾患・慢性疾患・全身疾患を問わず、腎臓に関わる幅広い疾患を扱っている。検尿異常もしくは原因不明の腎機能障害には積極的に腎生検を行い、個々の病態や病状に合わせた治療を行っている。生活習慣病に対しては腎保護的アプローチ、腎炎・ネフローゼ症候群には免疫抑制治療、生物学的製剤、血漿交換、LDL 吸着療法等を含めた積極的治療を行っている。また腎障害が進行した慢性腎臓病には、進展抑制、腎保護を目的とした集学的治療、末期腎不全期においては血液透析用・腹膜透析用のアクセスの作成と両治療の導入を行っている。腎移植を希望された方には移植施設に適切なタイミングで紹介している。血液透析、腹膜透析の維持管理も行っており、シャント PTA、腹膜透析の合併症にも対応している。

《取り組み》

2023 年度はコロナの 5 類移行後でもあり、千葉県 CKD 重症化予防対策による受診勧奨が本格的に開始され、保健所や印旛市郡の先生方、CKD 対策協力医の先生方から多くの患者さんをご紹介頂いた。腎生検による正確な診断、個別化した CKD 教育・治療などを行い、その上で逆紹介または二人主治医制として診療を行った。また全国 22 施設で行われた多職種介入による CKD 教育効果の共同研究にも参加し、その成果が認められ 2024 年度からの診療報酬加算という形で結実した。また腎代替療法選択においても、腎臓専門医 6 名、透析専門医 5 名、腎代替療法専門指導士 6 名が中心となり多職種による SDM を実践しており、2023 年度は腹膜透析治療の選択が新規に 5 名で全 21 名に増加し、腎移植も血液透析から 2 名、保存期から 4 名が希望され移植専門施設へ紹介となった。

《実績》

	入院患者	腎生検	シャント (※1)	透析導入 (HD, PD)	PTA	紹介患者数 (※2)
2019年度	1,152	48	62(3)	105(102, 3)	88	443(127, 230, 86)
2020年度	994	24	75(1)	78(77, 1)	125	336(76, 186, 74)
2021年度	1,088	42	62(3)	71(68, 3)	135	388(77, 216, 98)
2022年度	990	39	66(8)	77(70, 7)	170	387(106, 196, 85)
2023年度	1,130	46	44(7)	53(48, 5)	154	438(102, 244, 92)

※1:PD カテーテル挿入 ※2:検尿異常、急性腎障害もしくは保存期 CKD、透析関連

《常勤スタッフ》

名誉院長	佐藤 慎一	主任医長	矢挽 眞士	医 師	黒須 理恵
部 長	齊藤 将喜	主任医長	坂本 大		
副 部 長	住吉 良太	医 長	吉川 りょう		

《診療内容》

消化器疾患全般を対象として診療を行っている。消化管領域では内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、静脈瘤結紮術(EVL)、胆膵領域では採石術、ドレナージ・ステント留置術、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)を行っている。またウイルス肝炎に対して経口抗ウイルス薬(DAA)による治療、肝細胞癌に対して肝動脈化学塞栓術(TACE)、ラジオ波焼灼療法(RFA)を行っている。更に、手術適応とならない消化器悪性腫瘍に対する抗癌剤治療など、専門性の高い医療を提供している。

《取り組み》

- ① 内科医としてのしっかりした土台をつくりながら、特に消化管・胆膵の内視鏡治療、肝癌の集学的治療に力を入れている。
- ② 毎朝の消化器内科ミーティングを行い、科内で問題症例を把握し、また治療方針を共有できる体制にした。毎週外科との合同カンファレンスを行い、手術適応となる症例については密に連携を図り、患者さんにとって最適な医療が提供できるように努めている。
- ③ 超音波内視鏡関連手技(EUS-FNA: 穿刺吸引細胞診、EUS-CDS: 膵仮性嚢胞ドレナージ、EUS-BD: 胆道ドレナージ)を積極的に行っている。
- ④ 非切除消化器癌に対して診断、化学療法、ポート造設、緩和医療科と一連の治療を科内で行える体制を整えている。

《実績》

入院患者数：1,303 人
上部内視鏡(GF)：2,023 件
上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)：31 件
下部内視鏡(CF)：1,991 件
大腸粘膜切除術(EMR)：429 件
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)：177 件
超音波内視鏡(EUS)：30 件
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)：18 件
超音波内視鏡下胆道ドレナージ(EUS-BD)：3 件
ラジオ波焼灼療法(RFA)：6 件
肝動脈化学塞栓療法(TACE)：2 件

《常勤スタッフ》

医 長 山岸 一貴

《診療内容》

当科では2019年10月より常勤1名体制である。2020年度より月・木曜日午前午後（完全予約制）の外来診療を行っており、2022年度からは非常勤医師の金曜日診療が追加となり、日本医大千葉北総病院呼吸器内科から医師の派遣を受けている。外来では呼吸器内科一般の診療を行っており、症状では咳嗽、喀痰、安静時・労作時の呼吸困難、胸痛。疾患では気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、非結核性抗酸菌症、肺結核、細菌性及びウイルス性肺炎等の感染症、気管支拡張症、塵肺、間質性肺炎、びまん性汎細気管支炎などびまん性肺疾患、肺分画症等の先天的異常、肺動脈血栓塞栓症、肺動静脈瘻など肺循環疾患である。必要に応じ放射線・生理検査や呼気ガス分析、血液ガス分析、採血などを行い、治療や経過観察を行っている。なお、当科での精査加療が困難な胸部悪性疾患や手術を要する可能性のある気胸等は、呼吸器外科との連携を行った。

2020年から月曜日午後に認定看護師と共に行っている禁煙外来であるが、バニクレリン製剤へのニトロソアミン混入によるファイザー社の自主回収および出荷停止が継続しているが、ニコチン貼付剤により2023年度は月2～4人程度の新患を受け入れた。

《取り組み》

気管支喘息の治療は、引き続き診断、内服薬・外用薬による治療、分子標的薬による治療体制を整えている。背景に、放射線科・検査科との連携による各種検査がスムーズに行えていること、薬剤科においては、外来において薬剤調製および吸入などの薬剤の適切な使用に関する指導が円滑に行っていることや、患者限定採用等、医薬品の柔軟な入手が可能な体制を構築して頂いていることがあり、この場を借りて感謝したい。

また、2019年10月より常勤体制を構築したことに関連し、近隣開業医、近隣大学病院等との地域連携を深めるため、オンラインやハイブリッドの講演会を開催することができた。2023年5月8日にCOVID-19が5類感染症に変更になったことを受け、活発に講演会を行っており、2024年度も引き続き病診連携および医薬連携を推進していく。

2023年度については、呼気一酸化窒素検査の機器等により、気管支喘息の診断、治療について、地域をリードする医療を行うことができおり、地域医療機関からの紹介も増加傾向となっている。

《実績・他》

COVID-19 関連では、引き続き SARS-CoV-2 ワクチンの接種を分担した。月木外来では引き続き11時から17時頃まで、毎回30人程度の患者を診察している。

当院での業務時間外には、社会保険診療報酬支払基金より、審査委員会での保険者代表としての審査を委嘱されている。2023年度は任期満了に伴い再委嘱・再任され、継続して厳正公平で適正な審査を行うとともに、他の審査委員や事務職員とも相談しながら、県内各医療機関の特性に応じた多様な医療についての知見を得ることができている。

《常勤スタッフ》

部 長 徳山 権一

《診療内容》

循環器外来（虚血性心疾患大動脈弁狭窄症外来、動脈硬化症外来、不整脈外来、ペースメーカー外来）と心不全症例の外来、入院での管理、心臓カテーテル検査、治療、末梢血管形成術を中心に行っている。当院には心不全療養指導士が5名在籍しており、質の高い療養指導を通じて心不全患者に対して心不全療養支援外来を行っている。また、2023年度は3泊4日の心不全教育入院を新たに開始した。

主たる疾患 高血圧症および合併する生活習慣病、虚血性心疾患、弁膜症、心不全、不整脈（心房細動等）閉塞性動脈硬化症

外 来 検 査 心電図、心エコー、経食道エコー、頸動脈エコー、下肢静脈エコー、トレッドミル検査、血圧脈波、ABI、負荷心筋スペクト、心臓CT（64列）

入 院 検 査 心臓カテーテル検査、冠動脈造影、左室造影、大動脈造影、右心カテーテル検査、冠動脈血流予備能検査、冠動脈血管内超音波検査

入 院 治 療 経皮的冠動脈形成術、経皮的下肢動脈形成術、下大静脈フィルター留置、抜去、ペースメーカー植え込み術

《取り組み》

1. 生活習慣病症例においては重篤な循環器疾患等を発症しないように生活管理を含め、他科の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士等の多職種と連携しながら多面的に予防する。
2. 循環器疾患を疑われるような症例において他部門のスタッフと協力しながら迅速にかつ適切に診断できるように最大限努める。
3. 心臓カテーテル検査、治療、下肢動脈の血管内治療がより適正、安全に施行できるように多職種と連携する。
4. 患者さん、そのご家族が病状について十分理解できるようにわかりやすく説明するよう努力し、また安心して当院に通院、治療ができるよう診療体制を整備する。
5. 循環器チーム委員会を隔月開催し、患者さんの情報を多職種で共有し、よりよい医療を実践する。外来待合室に患者さん向けのビデオやポスターを設置し、循環器疾患の予防と病気の理解が深まるように啓発活動を行う。
6. 院内で年数回勉強会を開催し、循環器疾患に対する理解を深めることにより地域にさらに貢献できるように努める。

《実績》

2023年度心臓カテーテル検査および経皮的冠動脈形成術や血管内治療を115件、うち治療65件施行した。また心臓CT（64列）検査は78件、負荷心筋シンチを35件施行し、2022年度より心筋症等の評価目的で心臓MRI検査が新たにできるようになった。

外 科

部長 小池 直人
消化器外科部長 大島 祐二

《常勤スタッフ》

副 院 長 有田 誠司 部 長 大島 祐二 医 長 池口 文香
部 長 小池 直人 主任医長 武内 俊章 医 師 貝沼 駿介

《診療内容》

消化器外科を中心に消化器癌の抗癌剤治療、内視鏡治療等広い分野をカバーしている。増加する超高齢患者の外科治療も積極的に行っている。

《取り組み》

遠方の基幹病院まで行くことが億劫なお年寄りに対しても、状態を考慮しながら可能な限り高難度手術まで安全に行うように努めている。手術には腹腔鏡手術を積極的に取り入れている。2024年度は常勤医として千葉大内視鏡グループの貝沼医師が加わり、通常内視鏡加療も内科同様に行えるようになった。また、大学から手術指導の医師もこれまで同様派遣され、高度な手術でも腹腔鏡で対応可能である。昨今注目されているゲノム医療も基幹病院と連携しながら取り入れている。

《実績》

2023年度は2022年度と手術件数は同等であった。しかし、別表のごとく、胆嚢、消化管の手術はほぼ腹腔鏡手術となった。

ところで、当院は、膵癌に次いで難治性の悪性腫瘍である胆道癌の治療を積極的に行っている。胆道癌の切除後に発生した再発病変に対しては、孤立性の再発であっても複雑な解剖学的特徴により再切除術は容易でない。放射線療法も治療の選択肢であり、2023年は胆道学会にて、当院における胆道癌の術後孤立性再発に対する放射線療法を含めた集学的治療の経験について報告した。当科で、胆道癌切除後の孤立性の再発に対して放射線外照射を施行したのは6例で、原発部位は肝内胆管1例、肝外胆管2例、胆嚢1例、十二指腸乳頭部2例であった。再発の占拠部位はリンパ節3例、肝2例、腹壁1例で、2例で照射中にS-1内服を併用した。その結果、全例重篤な副作用なく予定照射を完遂できた。リンパ節再発の3例はいずれも照射終了後CRで7.5、4.5、2年生存中である。その他もSDまたはPRの奏効を得られたが、肝、腹壁再発は全例再発した。しかし、肝再発に対し照射を行った1例は、一度PRとなった後、更にその後に生じた孤立性のリンパ節再発に対しても照射を行い、こちらもPRとなり、標準的な化学療法に加え、放射線療法を併用することにより初回切除から4.7年の比較的長期生存を得ることができた。結果として、胆道癌の孤立性のリンパ節再発では長期生存を経験し、切除が困難な症例に対する治療オプションとして、また、集学的治療の一部として考慮すべきと考えられた。

		その他	腹腔鏡
食道	食道ヘルニア		1
胃	幽門側胃切除術	7	11
	胃全摘術	5	
	噴門側胃切除術	1	1
	胃部分切除術		1
	胃その他手術（十二指腸穿孔、 バイパス試験開腹）	2	5
	胃（ESD）		3
大腸	イレウス解除術	7	6
	虫垂切除術		15
	回盲部切除	1	14
	S状結腸切除	4	20
	右結腸切除	2	5
	バイパス		
	左（横行）結腸切除	1	7
	人工肛門造設術	7	6
	人工肛門閉鎖術	9	
	高位前方切除術		1
	低位・超低位前方切除術		10
	腹会陰式直腸切断術		
	経肛門的直腸腫瘍摘出術	2	1
	Hartmann手術		1
	大腸全摘・亜全摘術		1
	痔核、裂孔、痔瘻、直腸脱など	6	
	骨盤内臓全摘術	1	
肝胆膵	HPD		
	PD	1	
	膵全摘		
	膵体尾部切除		
	肝切除（部分切除）	1	
	肝切除（亜区域切除以上）	6	
	肝門部胆管癌手術	1	
	胆嚢癌手術		
	胆管空腸吻合術	1	
	胆嚢摘出術		51
	胆管切開術		
ヘルニア など	脾摘	1	
	鼠径ヘルニア	104	4
	大腿閉鎖孔ヘルニア		3
	腹壁ヘルニア	5	1
	汎発性腹膜炎手術	1	
	その他（局麻）	1	
	その他（全麻）	7	
合 計		184	168

《常勤スタッフ》

部 長 村上 敏史

《診療内容》

緩和医療は「生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族の QOL を、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチである」と定義されており（WHO 2002）、当科はこの定義に基づいて、患者さんとそのご家族に緩和ケアを提供している。当科の目標は次の通りである。

- ・ 痛みやその他の身体症状の緩和
- ・ 患者さん及びご家族の感情的および精神的な苦悩に焦点を当てる
- ・ 患者さんのケアを調整する
- ・ がん患者の生活の質を改善する
- ・ Advance Care Planning

《取り組み》

2023 年度も 2022 年度に引き続き、臨床、教育、研究を三本柱とした診療を行った。

臨床業務として一般病棟での入院対応、緩和医療科外来対応を中心とした緩和医療の提供を行ったほか、緩和ケアチームの一員として主治医や看護師などと連携し、患者さんとそのご家族に緩和ケアを提供した。また、在宅診療連携として近隣の医療施設が開催する研究会、勉強会の参加や講演等を通じた関係性の維持強化に努めた。

教育活動として日本緩和医療学会学術大会や同学会誌、国際的な専門誌の査読に従事したほか、医療従事者を対象とした講演・講義、講習会を実施した。

研究活動として東京慈恵会医科大学疼痛制御研究講座と連携した基礎研究及び臨床研究を継続した。

2024 年度事業計画には緩和ケア病棟再開が明記されており、緩和ケア病棟が再開次第、専門性の高い緩和ケアの提供を行う予定である。

《実績》

2023年度の緩和医療科入院患者は以下の通りである。

入院患者数 (n)		124
平均年齢		75.02 (50～92)
性別	男性	83
	女性	41
原発部位	肺	29
	膵臓	16
	大腸	15
	胃	14
	胆管	8
	前立腺	7
	頭頸部	6
	食道	5
	泌尿器科腫瘍	5
	乳房	4
	婦人科腫瘍	3
	甲状腺	3
	肝	1
	血液	1
	皮膚	1
	その他	6
ECOG-PS	0	1
	1	4
	2	17
	3	60
	4	42
入院時主訴	呼吸困難	29
	ADL 障害	28
	侵害受容性疼痛	22
	嘔気・嘔吐	9
	リンパ浮腫	5
	腹部膨満感	4
	倦怠感	4
	神経障害性疼痛	2
	便秘	1
	その他の身体的苦痛	4
	精神的苦痛	13
	なし	1
	その他	2
転帰	死亡退院	95
	転院	3
	自宅退院	26
	(自宅退院のうち) 在宅訪問診療移行	11

《常勤スタッフ》

院長補佐 眞崎 義隆
副部長 廣橋 健太郎

《診療内容》

常勤2名非常勤1名の体制で診療しており、月曜日から金曜日まで午前中外来診療を行っている。外来では呼吸器外科一般（肺悪性腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、肺嚢胞性疾患、自然気胸）、検診レントゲン異常陰影の精査、睡眠時無呼吸症候群の診療を行っている。定時手術日は月曜日で、その他気管支鏡検査、血管造影検査、準緊急手術は主に火曜、木曜に行っている。2023年度に行った呼吸器手術の約65%が悪性腫瘍によるものであった。全ての症例を完全胸腔鏡手術で行っている。手術適応のない進行肺悪性腫瘍に対しては患者さんに応じた最新レジメンによる抗がん剤治療を行っており長期生存している方も珍しくない。

睡眠時無呼吸症候群は診断後積極的に紹介医への逆紹介を心がけている

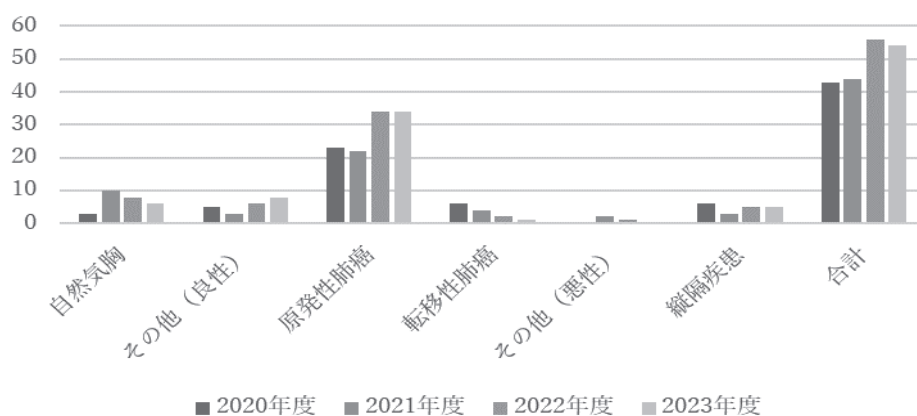
《取り組み》

肺癌に対して診断、外科治療、抗癌剤治療、放射線治療、緩和医療まで一貫して対応できる体制を整えており集学的治療など患者さん毎に最適な治療を提供するよう心がけている。

当院の特徴は早期の肺癌、特に術中に同定困難な末梢触知不能肺癌（疑）症例に対して、術前 ICG マーキング後に赤外蛍光強調胸腔鏡による精密な手術を行っていることである。肺癌に対しても全例に完全鏡視下手術を行っており、低侵襲で根治性の高い手術を行っている。

《実績》

疾患別手術件数の年度推移



2023年度手術件数は2022年度とほぼ同様に、年間全手術件数54件、肺癌34件であった。

《常勤スタッフ》

部 長 川島 太一
副 部 長 木谷 哲

《診療内容》

乳癌の検診・診断・手術・薬物療法・放射線療法の導入・緩和ケア・遺伝カウンセリング・美容まで総てをカバーし、患者を最初から最後まで診ることを理念としている。

《取り組み》

① 検診

定期的に健診センターに出向しマンモグラフィの読影を担っている。コンピュータ支援検出 (computer-aided detection) システムを併用し 2 名の医師による読影を原則としている。

② 診断

乳腺外科のメインフィールドは外来診療である。診察室を 3 ブース占有し月曜日から土曜日まで週 6 日 2 診外来を維持している。各ブースには超音波画像診断装置およびマンモグラフィ読影用 5M 高精細モニターが設置されている。穿刺吸引細胞診、針生検は即日実施可能であり数日以内での結果説明を実現している。遅ればせながら 2023 年度は吸引式乳房組織生検の体制を整えた。

③ 治療

手術は乳房温存から乳房切除、乳房再建に至るまでほぼすべての術式を可能としている。2023 年 9 月にオンコタイプ DX が保険収載され、癌組織の遺伝子検査をすることにより、治療の選択肢を一段と個別化することが可能となった。2023 年 12 月に早期乳がんに対してラジオ波焼灼術が保険収載された。これは超音波ガイド下に乳癌に電極針を挿入し 70 度以上加熱し癌細胞を凝固壊死させる治療である。標準的な手術と比較して乳房に創傷や変形が残りにくい特徴がある。施設認定に向けて準備中である。

《実績》 ※ ()内は 2022 年度

全手術件数 183 件 (177 件)

原発性乳癌 127 件 (133 件)

乳房部分切除 70 件 (59 件)

乳房切除 57 件 (74 件)

同時再建 5 件 (16 件)

センチネルリンパ節生検 111 件 (109 件)

腋窩郭清 11 件 (13 件)

マンモグラフィ 健診 5,271 件 (4,992 件) 診療 2,977 件 (2,936 件)

乳房超音波検査 健診 4,407 件 (4,282 件) 診療 3,777 件 (2,693 件)

《常勤スタッフ》

主任医長 宇井 啓人

《診療内容》

皮膚軟部組織の創傷診療が当科の業務の中心である。ラップ療法などの密封処置の危険性を説き、安全な治療法の啓蒙に力を入れている。外傷以外では粉瘤や脂肪腫、母斑などの腫瘍やケロイド、巻き爪、眼瞼下垂などを取り扱う。

《取り組み》

他科の併発疾患の診療が多いことが当科の特徴である。外来と手術室のみならず各病棟にも足を運ぶ。2023年度は特に近医との連携を意識するようにした。それらを遂行するためには幾つかの資格を維持しなくてはならない。

《実績》

2023年度の外来患者数は2022年度に比べると4%ほど増えた。また手術件数も2022年度に比べると12%ほど増えた。当科での手術件数の増加はすなわち地域クリニックの受診者数増加を意味し、地域住民のアクティビティ回復の反映でもあるのだと私は信じていたい。もはやコロナ禍ではないと実感させてくれた明るい1年であった。

創傷外科学会専門医など幾つかの資格更新も無事に済ますことができた。

唐突だが、アーチ構造というのは建築界に於ける偉大な発明である。梁を柱で支える従来の工法よりも構造的に安定しているため、巨大建造物を実現可能にした。ローマでは水道橋や教会のドーム天井などに応用された。

アーチ構造の代表作と言えばコロッセオだろう。リズミカルで美しいアーチ構造。しかし騙されてはいけない。気づいただろうか？ アーチ構造に加え、なぜか柱も附いているのではないか。実はこの柱はただ装飾で実際には上階を支えていない。ただの化粧なのだ。不要な筈の柱でも、それが視界に入ればなんとなく安心できたのだろう。いくら新工法の理論を頭で理解していても、心では受け入れられなかったのだろう。私も歳を重ねるにつれ、新しい技術に対する警戒心は増すばかりである。せめて自分はいつまでもコロッセオの柱のような信頼されるポジションでありたいと願う。



《常勤スタッフ》

部 長 金岡 健

《診療内容》

主に四肢の静脈と動脈疾患の診療を行っている。

最も多いのは下肢の静脈瘤である。皮膚所見、自覚症状とエコー検査所見をもとに弾性ストッキングなどによる圧迫療法を基本として、必要に応じて硬化療法や抜去術を行う。レーザーやラジオ波による焼灼、あるいはグルーを用いた血管内治療は、非常にまれではあるが深部静脈の血栓性合併症の危険性が指摘されていることから当院では行っていない。また、しばしば遭遇する下肢の深部静脈血栓症（DVT）は、種々の内服薬（Xa阻害薬）が近年開発されており外来で比較的安全に治療が行えるようになっている。その他比較的良好に相談を受ける疾患に浮腫があるが、実際のところ血管が影響している症例はそれほど多くはなく、運動や生活習慣の指導で対応することが多い。

一方、動脈疾患の代表的なものとして閉塞性動脈硬化症がある。治療は症状に応じてリハビリ、バイパス手術あるいはカテーテル治療が選択される。

《取り組み》

内訳はこれまで同様に静脈瘤が多く、治療成績も安定している。跛行症状がある動脈疾患では血行再建術を検討する。高齢であっても歩行能力が保たれている場合は、積極的に介入して日常生活の質向上に貢献したいと考えている。

《実績》

静脈瘤硬化療法	21 例
手術件数	32 例
静脈疾患	30 例
静脈瘤高位結紮・切除術	4 例
大伏在静脈瘤抜去術	26 例
動脈疾患	1 例
大腿下腿動脈バイパス術	1 例
その他	1 例
動静脈瘻閉鎖術	1 例

《常勤スタッフ》

名誉院長	南 昌平	主任医長	飯島 靖	医 師	水谷 雅哉
副 院 長	小谷 俊明	医 長	伊勢 昇平	医 師	結城 駿
院長補佐	岸田 俊二	医 師	井上 翔	医 師	清水 文也
部 長	佐久間 毅	医 師	植田 暢	医 師	土屋 太一

《診療内容》

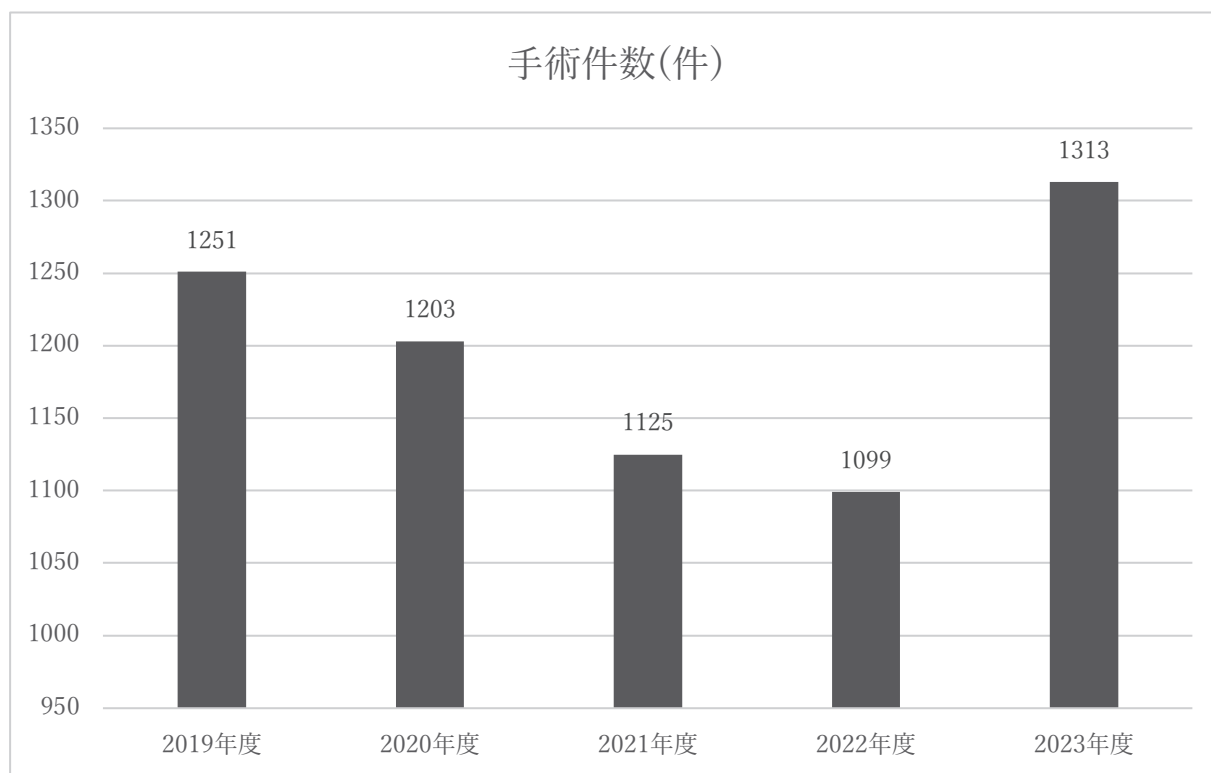
2023 年度は 13 人体制だった。脊椎・脊髄疾患、関節疾患、外傷症例に満遍なく取り組んだ。

《取り組み》

脊椎疾患では、全国的にも指折りの手術件数を誇る脊柱側彎症に対する矯正固定術に加え、腰部脊柱管狭窄症に対する低侵襲前後合併手術、脊椎圧迫骨折に対する椎体形成術や脊柱変形に対する前後合併矯正固定術といった最先端の脊椎・脊髄手術の件数が増加した。関節疾患では人工股関節、リバースショルダーといった人工関節手術に加えて、肩関節、手関節鏡視下手術が増加した。外傷手術も増加しており、手領域の腱損傷や開放骨折にも対応している。

《実績》

手術件数は年間 1,000 件前後を推移している。2023 年度は 1,313 件と過去最大の手術件数であった。



《常勤スタッフ》

副 院 長 川村 研 医 師 石倉（吉田） 麻里奈
副 部 長 鈴木 繁

《診療内容》

3人体制で病棟、外来、小児急病診療所当直業務を行っている。第1と第3土曜日を含めた午前中の一般外来は主に急性期疾患に対応する。午後は完全予約制であり、川村は「腎臓外来」・「低身長外来」、鈴木は「アレルギー外来」・「夜尿症外来」の専門外来を担当する。週に2回の乳幼児健診と予防接種は、感染症患者さんとの接触を避けるため午後に実施している。新型コロナウイルス感染患者の外来診察も積極的に受け入れており、低年齢の感染者診察は受付から診断治療まで小児科スタッフが担当している。

《取り組み》

医師・看護師・クラークが一丸となり丁寧な対応を心がけている。「腎臓外来」では、ネフローゼ症候群や慢性糸球体腎炎など、入院での検査（腎生検等）や治療（ステロイド治療等）の必要性も併せ総合的に判断している。低身長や思春期早発・遅発を診療する「低身長外来」ではホルモン分泌試験を行い成長ホルモン補充療法の導入や適切な思春期発来時期を検討、同意が得られた場合は臨床治験の参加も行う。自己注射治療導入時は看護師が介入し児と保護者に寄り添った指導を行い継続的なケアを行っている。「アレルギー外来」は主に食物アレルギーとアトピー性皮膚炎の診療を行っている。食物アレルギー診療では血液検査や経口食物負荷試験等の実施を検討し、安全に食べることを目的に管理栄養士も介入し治療を行う。アトピー性皮膚炎は外来での治療導入だけではなく、身体の洗浄や軟膏塗布を看護師指導のもと保護者に習得してもらうスキンケア入院プログラムも有する。難治性のアトピー性皮膚炎には免疫抑制薬や生物学的製剤の使用も行う。CAI（アレルギー疾患療養指導士）の資格を持つ看護師も在籍しており、個々の状況に合ったきめ細かい対応を行っている。舌下免疫療法は薬剤師が介入することにより安全に薬剤導入を行っている。夜尿症を専門的に診療する「夜尿症外来」も設置している。

佐倉市の他、印西市の乳幼児健診業務への参加や近隣医療機関での腎臓・一般外来も行っており地域医療の発展に貢献したい。

《実績》

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
腎生検（主に経皮的）	8 例	5 例	6 例	5 例
成長ホルモン分泌刺激試験等	24 例	27 例	17 例	27 例
食物経口負荷＋スキンケア入院	24 例	23 例	17 例	19 例

《常勤スタッフ》

副 部 長 稲原 昌彦 医 師 横塚 大和
医 師 福元 詩織

《診療内容》

（外来診療）月・火・水・木・金の午前と午後に行っている。

（外来担当医）

月曜日：稲原医師・遠藤医師（東邦大学）

火曜日：五十嵐医師・石塚医師（東邦大学）

水曜日：稲原医師・杉崎医師（東邦大学）

木曜日：福元医師・石橋医師

金曜日：五十嵐医師・福元医師もしくは横塚医師（交替制）

《取り組み》

病気だけではなく全人的な医療を提供することで、「今日、聖隷佐倉市民病院の泌尿器科を受診してよかった。」と言ってもらえる診療をモットーとしている。

2017 年度から近隣の医療機関と病診連携を活発に行った結果、手術を必要とする患者さんの受診が増えている。それに伴い当科で施行した手術件数も増加している。

特になん治療に関しては、開腹手術・腹腔鏡手術・経尿道的手術・薬物療法を過不足無く網羅している。当科では手術支援ロボット以外の最新医療機器は揃えており、常勤医には腹腔鏡技術認定と癌治療認定の資格を持つ医師がいるため、ロボット支援手術以外のあらゆる診療と手術に対応している。ロボット支援手術が適当な症例は近隣の大学病院やがんセンターに紹介し、患者さんに不利益が無いようにしている。

勿論、癌以外の泌尿器科疾患である排尿障害・尿路結石に対しても適切な手術療法・薬物療法を提供している。

《実績》

2018 年度から腎の手術に腹腔鏡手術を、2020 年度からレーザー砕石装置による尿路結石治療を導入し、それぞれ良好な治療結果を得ている。常勤医も 2024 年度から増えたため、増加する手術にもより一層対応できるようになった。

《スタッフ》

部 長 坂本 理之
副 部 長 吉田 いづみ

《診療内容》

2024 年度は 2023 年度より引き続き吉田医師と診療を行っています。2022 年より非常勤医師で来られている佐藤医師が月曜日・水曜日、2024 年度より藤田医師が木曜日、金曜日に来られるようになって非常に和気藹々と診療しております。

《取り組み》

2023 年度は吉田医師が赴任し、仕事を分担でき以前の激務がやや減少したような気がします。2024 年度は非常勤医師も増え、時間の余裕ができたなら更なる手術の研鑽、また論文作成などやっていきたいと考えています。診療においては、眼科では開業の先生が多いため、初診は開業の先生方に受診されます。また選定療養費の関係で当院眼科は初診患者さんの減少が危惧されます。より診療所、病院の仕事の分担が明確になります。当院では入院での治療ができることと、またより高度の治療ができるメリットを活かし、開業の先生方にも、紹介患者さんにも貢献できる医療を目指したいと考えます。

《実績》

2023 年度も手術件数は増加しております。当たり前ですが件数だけが重要ではないので今後もより精度の高い手術を目指してがんばりたいと考えます。

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
白内障単独	476 件	608 件	643 件
網膜硝子体手術（増殖硝子体手術も含む）	82 件	65 件	63 件
緑内障手術（白内障同時緑内障手術も含む）	118 件	179 件	203 件
その他手術	11 件	18 件	18 件

放射線治療科

部長 川上 浩幸

《常勤スタッフ》

部長 川上 浩幸 医師 高橋 光一郎
医師 瀬戸 一彦

《診療内容》

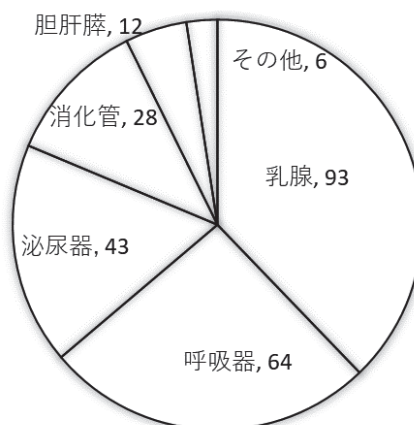
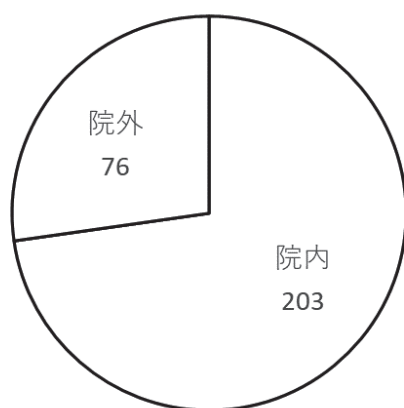
院内だけでなく、院外からの治療依頼も受け付け、月から金曜日まで週 5 日間、放射線治療を実施している。Varian 社高性能リニアックシステムに加え、QA 機器を備え、IMRT(強度変調放射線治療)、SRT (頭部および体幹部定位照射)等の高精度放射線治療が可能である。頭頸部がん、肺がん、食道がん、膵がん等に対する根治的放射線治療、乳がん術後照射等、周術期放射線治療、及び、脳転移、骨転移等への緩和的放射線治療まで、外部放射線治療全般に対応する他、放射性同位元素 ^{223}Ra による内用療法も実施している。

《取り組み》

日本放射線治療学会の認定施設である。IMRT、SRT 実施の施設基準を満たし、一般的には、大学病院、がんセンター等で実施される高精度放射線治療を市中病院として身近な環境で提供している。マーカー留置による肝腫瘍に対する定位照射を行える数少ない施設の一つでもある。2023 年度は、骨転移への IMRT を用いた体幹部定位照射にも力を入れた。2024 年度は、短期照射、院外患者に対しては当科入院受け入れを含めての緩和照射を積極的に行っていききたい。

《実績》

放射線治療	246 症例
高精度放射線治療	IMRT 97 症例 定位照射 52 症例 (体幹部 42 症例)
緩和治療	103 症例 (骨転移 54 症例 脳転移 21 症例)



《常勤スタッフ》

手術部・麻酔科 部長 設楽 敏朗
 医師 菊入 麻紀子

《診療内容》

患者の入院から手術を経て退院までの周術期に携わり、主に手術中の全身麻酔管理を行っている。当院は、公益社団法人日本麻酔科学会が認定する麻酔科認定病院で、同学会の認定する麻酔科専門医が常勤している。

《取り組み》

安全で質の高い医療を提供することを常に心がけているが、地域の中核病院として、柔軟かつ臨機応変に対処することに重点を置いている。また、近隣大学病院との連携をとっており、最近の高度化・専門化している手術治療にも対応できるように取り組んでいる。

《実績》

全手術件数	3,428件
うち麻酔科管理件数	1,929件
全身麻酔	1,701件
全身麻酔＋硬膜外麻酔	228件

《常勤スタッフ》

副 部 長 笹井 大督

《診療内容》

1. 組織診
2. 細胞診
3. 術中迅速診断
4. 剖検および CPC

《取り組み》

当科では下記のごとく年間 3,000 件程度の組織診、1,500 件程度の細胞診断を行っています。特に乳腺、呼吸器、消化管腫瘍は希少症例も散見され、新規抗体での免疫染色や、分子標的治療・免疫チェックポイント阻害薬の適応についても、一部外注を含めた遺伝子検査を加えての複合的な診断を行っています。病理解剖については、千葉大学病理科研修プログラムの一環として専攻医教育を実施、また、当院の全研修医が CPC での発表を行っています。

《実績》

診療実績 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

	外来	入院	健診	計
組織診断	1,571	1,324	224	3,119 (うち手術検体 753 例)
細胞診断	1,276	325	－	1,601
術中迅速	0	151	－	151
免疫染色	283	485	17	785

その他

剖検 3 例

CPC 実施 3 回

胃癌術後の縫合不全治癒後に心肺停止に至った 1 例 (2023, 10, 24)

ROSC 後 CT にて脳出血指摘され死亡した DM 腎症由来の透析患者の 1 例 (2023, 12, 27)

難治性腹水を伴い末期腎不全に至り不幸な転帰を辿った 1 例 (2024, 3, 4)

《はじめに》

看護部は、高稼働な病床利用と当院の持つ医療機能（急性期から在宅まで）を最大限に活用し、適切な医療・看護を提供し地域医療に貢献することをビジョンとしている。また、看護の質を維持し病院機能の充実を実現すること、ベッドサイドナースが患者の回復過程に寄り添い、治癒力を高める看護が思いっきり実践できる環境を整備し、専門職としての使命を念頭に市民の健康に寄与することを目指している。

《目標と実績・評価》

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類感染症へ移行し様々な体制が変革していく中、全病棟でのコロナ患者の受け入れやコロナインフルエンザ外来、ワクチン接種の継続により重点医療機関としての役割を遂行した。一般診療においては、救急車受入台数、入院患者数、手術件数ともに過去最高値が更新されたが、絶妙な病床管理や業務整理、タスクシフトの推進など、看護部の推進力が大いに寄与できた結果といえる。看護師の採用が充分進まない中、治療に効果的な看護提供を目標に、ベッドサイドでの記録時間確保への挑戦や、シーツ交換、メッセージャー、患者搬送など看護周辺業務を担当する看護補助者の配置を継続的に推進した。また、多忙な中でも“不機嫌禁止”を継承し相手を思いやるコミュニケーションを推進し続けた。その結果、部内の超過勤務時間の削減が実現できメンタルヘルス不調者が激減した。看護部目標にも掲げている職員の心身の健康を保ちつつ、より働きやすい職場づくりが進められた成果のひとつと考える。また、ベッドサイド滞在時間の延長は、患者の病状に応じたアセスメントや看護実践の展開、さらに看護部で大切に学習を重ねてきた援助的コミュニケーションが精力的に実践され、病気に罹患することによって抱く様々な患者の思いを受け止め、治療に向き合うプロセスに寄り添う看護が発揮された。それにより2023年度も多くの方々から「利用者の声」としてお褒めの言葉をいただくことができた。

人材確保とともにスタッフの定着が継続的な課題であるが、系統的な共育の充実を目指し、キャリアラダーの再構築を実施した。それによりベテラン看護師も含めた全スタッフがキャリアラダー取得を実現した。どの年代のスタッフも学び続けられる職場環境は看護部の強みであり、専門性の高い看護ケア提供のさらなる推進のためにも、挑戦し続けたい。

私たちは、今後も地域から選ばれる病院を目指し、看護力を結集し地域の皆さまの健康回復や安寧な暮らしに貢献し続けるチームであり続けたい。

《2023年度稼働実績》

病床稼働率:80.2% 平均在院日数:15.9日 入院患者数:302.4人
看護必要度:急性期一般 38.1% 地域包括:8.3%

A 2 病棟

課長 石井 早苗

《はじめに》

A2 病棟は、乳腺外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、緩和医療科の混合病棟である。重点目標を「患者の尊厳を守り、患者が自分らしく過ごせるように QOL を重視した医療を提供する」と掲げ、多職種と協働し看護を提供した。2023 年度の手術件数は、783 件（眼科 306 件・泌尿器科 245 件・乳腺外科 186 件・耳鼻咽喉科 45 件・整形外科 1 件）であった。診療科の垣根を超え、習得すべき技術や知識の向上に取り組み、臨機応変に多くの患者を受け入れることができた。本病棟は悪性疾患の治療を目的とした患者が多く、初期から終末期まで治療が多岐に渡り、長い期間を要することもあるため、患者の気がかりを傾聴し、不安が増強しないように周術期看護とともに精神的ケアに努めた。耳鼻咽喉科では、津田医師の「患者さん中心の医療」の精神のもと、摂食嚥下センターとして、誤嚥予防看護に努め、重度障害症例患者の QOL 向上につながった。今後も患者の想いに寄り添った意向支援をし、QOL を重視した医療の提供をしていく。

《目標と実績・評価》

1. 心身の健康を保ち、向上心を持って働く事ができる

お互いに思いやりを持ち、多様な価値観や働き方を尊重する職場風土を目指した。心理的安全性が守られたことで、率直な意見交換ができ、病棟の課題を全員で共有し、解決に向けて協力して働くことができた。ストレスによる離職者は 0 であり、患者からのお礼の投書を多数いただきスタッフのやりがいにつながった。業務形態として、ロング日勤を導入し業務改善をしたことで、超過勤務が最大 91%削減できた。有給休暇取得は平均 13.8 日であり、ワークライフバランスの充実につながった。今後も柔軟な勤務体制を整備していく。

2. 専門職としての役割を果たし、治療に効果的な看護が提供できる

多職種でのカンファレンスや勉強会、事例検討の実施により、患者の病態や症状のアセスメント力が向上した。せん妄時や末期がん患者の苦痛増強時の薬剤選択ができる様になったことで患者の苦痛が軽減できた。また、院内の排泄に関する画像超音波研修に 21 名参加し、画像診断からアセスメントすることで苦痛を伴う不要な処置が減少した。化学療法を安全に実施するため、がん化学療法院内認証看護師を 3 名育成し、計 7 名となり関連 IA 発生は 0 件であった。スタッフ全員が根拠を持ち、更に効果的な看護が提供できるような教育体制を整備していきたい。

3. 当院で治療を受けたいと思う患者のニーズに貢献する

予定・緊急入院含めて 1,330 名の患者を受け入れた。患者の想いを傾聴し、患者・家族の希望や価値観に添った看護の提供をするため、入退院支援カンファレンスの回数を増やし、入退院支援記録の記載を周知したことで、患者の情報を他職種と共有でき、連携して患者の望む場所での生活支援につなげることができた。

《2023 年度稼働実績》

病床稼働率:73.5% 看護必要度:39.1% 平均在院日数:8.5 日 入院患者数:34.6 人

《はじめに》

A3 病棟は急性期の整形外科病棟として、小児期から高齢者まで幅広い年齢層の患者を受け入れている。2023 年度 A3 病棟での手術件数は 527 件行われ、緊急・準緊急手術件数は 158 件であり、緊急入院や手術にも迅速に対応している。入院疾患の内訳は、側弯症をはじめとした胸腰椎疾患 323 件、頸椎疾患 36 件、大腿骨骨折を含む外傷 133 件であった。入院時より退院後の生活を見据え、患者、家族の意思決定を尊重しながら多職種とともに退院支援を行っている。骨粗鬆症における二次的骨折予防に関連した取り組みとして 2023 年度より骨折評価ツール FRAX を導入した。また、椎体骨折保存療法患者の地域連携の一環としてバイタルリンクが導入され、退院後も地域と連携しながら医療・看護を継続していくことで、退院後も患者が生き生きと生活できるよう支援している。

《目標と実績・評価》

1. 患者の病状に応じた安全で適切な看護が提供できる

院内外の研修に参加し、整形外科疾患以外の知識・スキル習得に向けた取り組みとして循環アセスメント・呼吸管理・抜管後の看護など急変を未然に防ぐための気づきができる教育を実施した。これにより看護師のアセスメント力が向上し適切なタイミングで医師に報告できるようになった。また、整形外科医師、小児科医師とともに症候性疾患・てんかんを既往とする患児の周術期体制の見直しを行い、ハイリスク患児が安全に手術できる体制を整備した。

2. アサーティブなコミュニケーションを図り、One チームとして互いの思いを尊重し合いながらそれぞれの役割を発揮できる

病棟内会議で意見を出し合いながらタスクシフト・シェアを行った。また、超過勤務時間削減に向けたロング日勤導入・日勤リーダーからメンバーへの申し送り廃止など業務基準を見直した。これによりスタッフの意識が変化し、勤務内で仕事を終えるためのタイムコントロールやスタッフ間の協力体制が強化され、超過勤務時間を大幅に削減することができワークライフバランスを大切にしたい職場風土を整えることができた。

3. 患者が希望するケアや意思決定を支援できるようベッドサイドケアを充実する

対人援助を大切にし、患者の苦しみに焦点をあてながら援助的コミュニケーションを図りケアすることに努めた。これにより患者の意思決定を尊重しながら退院に向けた支援を行うことができた。また、タスクシフトにより、受け持ち看護師が患者のベッドサイドに滞在する時間が増えたことで、不必要な抑制やセンサーコールの減少につなげることができた。

《2023 年度稼働実績》

病床稼働率:91.7% 看護必要度:43.0% 平均在院日数:22.7 日 入院患者数:40.3 人

《はじめに》

A4 病棟は腎臓内科、循環器科、総合内科を標榜する内科系混合病棟であり、混合病棟の強みを活かして医師や多職種と共にチーム医療を行っている。腎臓内科における主な入院の内訳は腎生検 21 件、シャント手術 28 件、シャント部経皮的血管形成術（PTA）92 件、慢性腎臓病（CKD）教育入院 54 件であった。また、透析を導入せず保存的腎療法（CKM）を選択する患者も増えてきているため、今後一層共同意思決定（SDM）を推進していくことが課題である。

循環器科では主に急性冠症候群に対し、冠動脈造影（CAG）50 件、経皮的冠動脈形成術（PCI）45 件、下肢 PTA20 件、心嚢穿刺 2 件、経食道心エコー下除細動 8 件の検査・治療を行った。また、新たな取り組みとして心不全教育入院のプログラムを整備し 2 件の患者のセルフケア支援に取り組むことができた。高齢化が進み、腎疾患・心疾患を併せ持つ患者が増加してきているため、引き続き診療科の垣根なく患者にとっての最善を目指していく。

《目標と実績・評価》

1. 専門職性を発揮し、患者一人一人の個別性を尊重した教育や看護実践を行う

勉強会は腎臓内科 7 回、糖尿病 3 回、循環器 7 回、ICLS2 回、退院支援 6 回実施した。急変対応事例の中でも特に循環器に関する症例を 5 例振り返り、対応が適切であったのか、改善すべき点はないかなど、病棟全体で共有することができた。今後は定期的に実際の症例に基づいた ICLS を実施し急変に強い病棟作りを行なっていくと共に、カテーテル治療室や透析室、外来と連携しスムーズに急変対応ができる体制を構築していく。

受け持ち看護師が役割を発揮し、患者の不安・気がかりを聴取しベッドサイドケアの強化に努める事ができた。退院支援カンファレンスは短期入院患者を含めて殆どの患者について実施することができた。

2. 看護師一人一人が円滑なコミュニケーションを図り、働きやすい職場環境を維持することが出来る

互いの意見や立場を尊重し、職場全体で新人看護師とプリセプターの成長を見守り育てた事により、2023 年度も人間関係のストレスによる離職や新人看護師の離職 0 を達成した。看護補助者から夜間補助者への業務委譲と業務改善を行なうことができた。

3. マニュアルを遵守し、安全に対するリスク感性を強化する

IA カンファレンスや抑制カンファレンスを週 1 回行い、適切なリスクアセスメント結果に基づいた看護実践を行うことができた。また、褥創リンクナースを中心として正しい褥創予防対策を実践し、褥創発生率は 0.9%と目標を達成することができた。

《2023 年度稼働実績》

病床稼働率:90.5% 看護必要度:27.4% 平均在院日数:18.1 日 入院患者数:39.8 人

《はじめに》

地域包括ケア病棟として、他職種と連携し安全で質の高いチーム医療の提供と病床を最大活用した安定運営を目指し、地域社会に貢献することを基本方針として質の高い退院支援・調整を行った。当院に限らず急性期治療を終了し、在宅や施設へ生活の場を移すことに不安がある方の受け入れを行い、安心して生活できるように質の高い退院支援・退院調整を行った。地域からのレスパイト入院やリハビリ目的の入院も受け入れ、住み慣れた地域で家族と生活できるように病床を利用してもらい、当院の地域包括ケア病棟が地域包括システムの一部となるように努めた。今後も患者の意志決定を支え、他職種や在宅関係者と連携し、患者と家族が安心して退院できる退院支援・退院調整を提供していきたい。

《目標と実績・評価》

1. 患者の意思決定を支え、退院後安心して生活できる質の高い退院支援・調整を行う
退院支援チームの役割を明確にし、チーム内で患者の退院に対する想いを共有できるシステムを作った。また、他職種を含めたカンファレンスの場で患者の想いを情報共有することで質の高い退院支援につながった。退院前に家族や在宅関係者とリハビリ見学や拡大カンファレンスを 67 件実施し、在宅環境を整えることができた。
2. 心身の健康を保ち、お互いを尊重し助け合える職場環境をつくる
お互いを気遣いながら働くことを心がけ、内部環境が影響する離職率は「0」であった。有給休暇取得平均 12.6 日/年、有休休暇消化率 70.2%となっており、心身ともに安定し生き生きと働くことができた。
3. 地域包括ケア病棟の安定した病棟運営
急性期治療を終了した患者を 528 件受け入れ、その後の退院支援へとつなげた。また、レスパイト入院について地域へ情報提供を行い 31 件の受け入れを行った。地域包括ケア病棟入院料 2 の要件を満たし、安定した病棟運営を行うことができた。
4. ベッドサイドケアの充実
患者の気がかりや苦しみに意識を向けコミュニケーションを行う事により、患者が退院についての想いを語る事ができたと考える。今後もチームで援助的コミュニケーションを学び、相手の苦しみを和らげる看護実践を行いたい。
5. マニュアルを遵守し安全対策を強化する
褥瘡発生に関するリスクアセスメントの理解を深め、褥瘡発生率は 0.4%（2022 年度 0.8%）と減少した。感染面において、患者の病状変化を早期に発見し病棟内での感染拡大を防ぐことができた。

《2023 年度稼働実績》

病床稼働率:91.0% 看護必要度:8.3% 平均在院日数:16.4 日 入院患者数:43.7 人
在宅復帰率:86.2%

《はじめに》

2023 年度は 10 月より眼科患者の受け入れを行い、緊急・予定入院患者が専門的で且つ最善の治療が受けられるベッドの選択と高稼働な病床利用に貢献することができた。また、眼科業務の標準化のため電子パスを導入し、医療安全・感染面で多職種一丸となり業務改善を行い、安全な診療体制を構築し運用している。眼科患者を手術室がある 2 階フロア（A2・B2 病棟）に集約することで、業務の効率化と患者動線の短縮化を図ることができた。

急性期・周術期看護の質向上のため、スペシャリストの育成に重きをおき、呼吸療法認定士 1 名、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会認定士 1 名、がん化学療法院内認証看護師新規 5 名を育成した。ストーマ造設患者に対し術前にストーマオリエンテーションを開始し、ストーマカンファレンス（WOC 介入）を実施することで、外来から退院まで切れ目のない継続看護の実践を実現することができた。

《目標と実績・評価》

1. 心身の健康を保ち、働き続けられる職場環境作り

2022 年度に引き続き、重点目標として取り組み、看護補助者へ入院時の病棟オリエンテーションの業務委譲を実施した。褥瘡ケアでは、ハイリスク患者に看護補助者へ保湿ケアとポジショニングをタスクシェアすることで、患者のベッドサイド滞在時間の延長と看護ケアの充実が図れた。有給休暇取得は、2023 年度は職場平均 15.6 日、有給消化率 53%であった。今後もワークライフバランスが保てるように、スタッフ一丸となって働きやすい職場環境を整えていきたい。

2. スタッフ個々が看護実践能力を発揮し、急性期・症状緩和ケアの質の向上を目指す

スタッフ全員（パート勤務者含む）が、「下部尿路、排泄に関する超音波研修」を看護技術習得のため受講を修了し、術後や症状発症時のアセスメントに活用し、異常時の早期発見に努めている。課題として、急変時の対応や急変の予兆のアセスメント能力の向上は、急務であり実践能力の向上に取り組む。

3. 安全対策を強化し、医療・看護の質を保証する

感染リンクナースを中心に、感染症疑い患者の PPE の着用 100%と手指衛生のタイミングは適切であり、アウトブレイクは発生しなかった。また、セーフティリンクナースを中心に PDA 使用率 100%とマニュアルの遵守は、今後の課題である。

《2023 年度稼働実績》

病床稼働率:80.9% 看護必要度:42.2% 平均在院日数:11.0 日 入院患者数:35.6 人

《はじめに》

B3 病棟は急性期の整形外科病棟として、小児から高齢者まで幅広い年齢層の急性期患者の受け入れを行っている。予期せぬ受傷や発症による不安のなか、受け入れを早期に行うことで地域の患者・家族が安心できる医療への貢献を念頭に、2023 年度は 968 件の予定入院と 363 件の緊急入院を受け入れた。2023 年度の手術件数は 686 件/全整形外科手術 1,316 件であった。

質の高い看護実践を疼痛管理の研究を通して実証し、患者の回復力を高める看護に活かすことができた。また、入院時から多職種カンファレンスを通して、患者・家族の希望に添えるような退院調整に努めた。今後も患者・家族が安心できるように迅速な入院の受け入れと、質の高い看護を提供し地域医療に貢献していく。

《目標と実績・評価》

1. 専門性の高い治療・ケアを患者が受けられるように病棟を運営する

緊急入院の受け入れを迅速に行い、治療に臨める入院環境の提供を継続することができた。基礎疾患を抱えた患者も多く、幅広い疾患の勉強会を定期的に行い、患者の状態変化を見逃さない看護実践能力の向上に努めたことにより、手術前後の状態変化に気づくことができた。今後は臨床推論につなげることができるように取り組んでいく。

2. 患者に質の高い看護を提供し、適切なリスクアセスメントをもとに安全対策を行う

毎週 IA カンファレンスを実施し、改善策をスタッフ間で共有することにより、リスク感性を高め再発防止に努めた。2023 年度はセンサーコール使用 0 件を目指し、センサーコール使用前後に、カンファレンスでセンサーコールの使用方法や、療養環境の整備、衝撃緩和マットの活用などの代替案について検討を行った。感染については手指衛生の適切なタイミングを再確認し、その都度感染マニュアルに沿った対策を行い感染拡大防止に努めた。

3. 心身共に健康を保ち、働きやすい職場環境

忙しい時にこそ声をかけ合い、次は自分が声をかけようという風土作りに取り組んだ。業務が円滑に遂行するように全体の業務を把握し、フォローの指示を出せるリーダー育成や業務改善を行い、超過勤務は月 14.4 時間であった。休み希望 100%の取得により、ワークライフバランスを保つ取り組みを行った。有給消化平均数は年 12.7 日であった。

《2023 年度稼働実績》

病床稼働率:93.1% 看護必要度:45.8% 平均在院日数:11.0 日 入院患者数:40.9 人

B 4 病棟

課長 小笠原 祐美

《はじめに》

B4 病棟は腎臓内科病棟として腎疾患の全ステージの患者と腎臓疾患以外の内科的疾患の患者を計 420 名受け入れた。主な入院患者は腎生検 30 件、慢性腎臓病（CKD）教育入院 89 件、シャント手術 16 件、経皮的血管形成術 62 件、腹膜透析（PD）導入 5 件、腎代替療法入院 9 名であった。PD は増加傾向にあり、患者の個別性に合わせた指導が重要であるため、カンファレンスで情報や患者の思いを共有することで個別性に応じた指導を行うことができた。多職種と連携し業務が円滑に行えるようにシステムの構築を図り、看護師の業務負担の軽減につなげることができた。また、CKD 教育に関しては、CKD 外来の看護師と連携し入院までの患者の情報を共有することで、継続看護につなげることができた。

《目標と実績・評価》

1. 倫理的視点を基盤とし、質の高い看護を提供する

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）、共有意思決定支援（SDM）、倫理事例検討や嚥下障害患者の「食べたい」という思いや、保存的腎臓療法（CKM）患者の看護を通して、日々のカンファレンスの中で多職種と情報共有を行い「ケア」と「キュア」の視点で考え看護実践を行うことができた。また、積極的に倫理検討を行いスタッフ間で生じる倫理的問題について共有したことで、看護ケアの方向性を統一することができた。また患者との関わりや自分の行ってきた看護を言葉で表現し共有することや、他者の看護について語りを聴く機会を設けたことで自分の看護を振り返ることができ、看護観の構築につながった。

2. 安全対策の強化

転倒転落アセスメントカンファレンスを実施し、状態変化に応じた対策をタイムリーに実施することで、転倒転落によるレベル 3 以上の IA は 0 件であった。

週 1 回の抑制カンファレンスを実施し不要な抑制を 0 件、抑制率 1.7%、抑制平均日数 14.3 日と 2022 年度より短縮することができた（2022 年度抑制率 2.0%、抑制平均日数 16.8 日）。また、褥瘡に対しては、定期的なカンファレンスや勉強会、小テストを行うことで個々の知識が向上し、それぞれが早期に予防対策を実施する意識付けにつながった。

3. 看護師一人ひとりがお互いを思いやり、働きやすい職場環境を作る

限られた人数で業務を遂行するために、業務の検討をスタッフ全員で行い、新たに勤務体制を整え有効的な業務改善につなげたことで、超過勤務時間平均 12.8 時間／年（2022 年度 15.6 時間／年）短縮することができた。また看護師と看護補助者間でハウレンソウを密に行い、どんなに忙しい時でもお互いが声をかけ合い思いやりの気持ちを持ち、協力体制を強めて業務を行うことができた。

《2023 年度稼働実績》

病床稼働率:65.3% 看護必要度:25.9% 平均在院日数:20.1 日 入院患者数:28.8 人

《はじめに》

B5 病棟は眼科を含む 3 科の診療科であったが、診療科の編成により 2023 年 10 月より消化器内科・小児科 2 科の診療科混合病棟に変更となった。「千葉県がん診療連携協力病院」である消化器内科は胆肝脾や大腸の疾患を中心として診断から治療まで幅広い医療提供を行っている。内科疾患でのがん化学療法を受ける患者は増加傾向にあり、がん化学療法が受けられる体制を整えた。様々な年代の患者・家族が安心して入院生活を過ごせるよう環境作りに重点を置いた看護を提供すると共に、「患者・家族が気持ちを話すことができ、聴いてもらえたと実感できる関わりを持つ」を職場方針に掲げ、患者・家族の想いを聴くことができるようになった。小児科では、長期休暇時は主に経口食物負荷試験や成長ホルモン負荷試験、腎疾患の診断や治療、通年で流行性の疾患を中心に受け入れている。

《目標と実績・評価》

1. 心身共に健康で働きたいと思う職場作り

スタッフ同士の『ちょっときてカンファレンス』を実施し、困りごとを迅速に解決することができた。16 時以降は、ロング日勤務者に緊急入院等の業務をタスクシフトし個々が意識してタイムスケジュール管理を行うことで超過勤務時間 34% の削減につながった。忙しいときこそ声をかけ合い円滑なコミュニケーションを保つためにアイメッセージで伝えていくことを推奨した。

2. 患者に必要な看護を提供する

専門的な知識を深めるため院内外問わず全員が研修に参加した。スタッフによる消化器内科看護や医師を中心とした小児疾患の勉強会を 14 回実施し統一した視点でケアが行えるようにした。看護計画情報用紙を用いて患者や家族の想いを聴き、継続看護を提供するために看護情報提供書はタイムリーに記載するようになった。院内認証制度を活用し、がん化学療法院内認証看護師 4 名を育成したことで消化器内科患者の化学療法治療を病棟で行えるように整えた。タスクシェアとして経鼻胃管再挿入院内認証看護師 3 名を育成した。2024 年度は、患者に選ばれる援助的コミュニケーションを実施するために実践した看護を言語化していく。

3. 地域へ貢献するために退院支援の推進

入退院支援カンファレンスを実施し入退院支援加算算定 638 件（2022 年度 299 件）・入院時支援加算算定 199 件（2022 年度 77 件）と 2022 年度より 150% 以上上昇した。今後は、係長を中心として ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の知識を習得し継続した患者主体の退院支援カンファレンスを実践していく。

《2023 年度稼働実績》

病床稼働率:87.6% 看護必要度:41.4% 平均在院日数:10.2 日 入院患者数:38.5 人

《はじめに》

新型コロナ感染症が5類となり、透析患者のそれぞれの営みも日常を取り戻してきている。しかし、コロナ感染症及び、それ以外の感染症も現れ始めてきているが、透析室入り口での体調確認を状況に応じながら継続した結果、感染拡大を防ぐことができています。今後も、新興感染症や自然災害に対して、透析患者が透析治療を継続しながら、日常の営みがつつがなく続けられるよう安全対策を強化し、適切で安心できる治療環境を提供していきたい。

2023年度の導入患者数は74名で、他院から治療目的での転入患者96名を受け入れた。現在227名の患者が通院透析を行っている。2023年度、透析治療開始後の療法選択により腎移植を選択した患者2名が制限のない社会生活を送ることができている。これからも、透析治療を継続することにより起こる様々な課題に患者自らが向き合い、治療を継続しながらも自分の“暮らし”に満足できるよう、ひとりひとりの患者に寄り添い、支え続けていきたい。

《目標と実績・評価》

1. 患者が充実した日常生活を送ることができるよう、質の高い透析看護を実践する

個別性に応じた看護計画を立案し継続看護を可視化した。2023年度227名全員の看護計画を立案し、個々に応じた透析看護の提供を実践してきた。下肢病変の予防にも積極的に取り組み、フットケアや透析中の運動療法を推進した。また、臨床推論力の向上を目指し、腎不全看護特定認定看護師によるスタッフ教育を行い、透析中の血圧低下や下肢つれなど不快症状のない安定した透析治療が提供できるよう努めた。

2022年度に引き続き、ベッドサイドケアに重点を置き、患者の透析治療に対する思いや治療継続によって起こる様々な困りごとを丁寧に聴き、個々に応じた援助を実践している。事前指示書をきっかけとしたACPも継続し、現在23名の患者が自分の望む治療や自分らしく生きることについて想いを語り、そのうち7名が継続して変わらぬ意思を明確に表示している。ACPに介入できるスタッフの育成にも力を入れ、現在11名が実践できている。また、高齢化が進み、通院が困難となる患者も増加傾向にあるが、当院を選んでくれる患者に安定した透析治療を提供し、元気で通い続けられるよう下肢筋力低下予防と下肢末梢動脈疾患の早期発見に努めている。現在、透析中の運動療法は50名が参加している。2023年度、待望の腎不全看護特定認定看護師が1名誕生した。透析治療を継続しながら生活をしている透析患者が、自分らしく生きることができるよう、専門性の高い看護を提供し支援を続けていきたい。また、千葉県透析研究会に3演題発表し、実践を可視化することができた。

2. 心身の健康を保ち、笑顔で働きつづけられる職場作り

業務整理を継続しながら時間管理を促し、超過勤務を平均6時間削減することができた。また、不機嫌禁止を徹底し、安心できる職場環境を維持することに努めた。

《はじめに》

2023 年度は新興感染症による諸々の影響が減退した事で、手術依頼の動向も流行前の状態へ戻ってきた。手術室を安定稼働するため、手術室職員一丸となって運営の維持に努めた結果、大きな事故も発生せず一年を終える事ができた。

手術件数は長期的にも増加傾向であり（2023 年度手術件数 3,425 件、2013 年度手術件数 1,749 件、比+1,676 件）、毎年何らかの対策を講じてきた。2023 年度は大型洗浄機の導入と眼科手術器材の追加、術前情報収集及び術前訪問の徹底と麻酔科医との協働による危機管理、術前検査内容の改訂等、殆どが手術室高稼働の維持を目的とした対策だった。

個別性のある手術看護を目指し、2022 年度から術前訪問対象を全ての入院手術患者へと拡大した。取り組みが定着した事により、身体的特徴や術式に依存し易い手術看護から全人的な苦痛を捉えた周術期看護へとスタッフ全体の共通した認識が持て、術前訪問から手術実践の一連を継続させた看護実践の充実が図れている。

《目標と実績・評価》

1. 心身の健康を保ち、働きやすい職場作り

公平に休暇が取得できるよう、2 ヶ月前から日程調整と個別・曜日別統計による可視化を反映させた結果、有休消化率は 74%となった。一方、10%の超過勤務時間削減を目標に様々な業務整理を実施して看護実践時間を確保したが、手術件数の増加（2022 年度比+204 件）に伴う手術患者在室時間の増加（2022 年度比+195.5 時間）により超過勤務時間は 2.2%（32 分/月/人）増加した。

2. 治療に効果的で安心・安全な手術看護を提供する

セーフティリンクナースを中心に IA レポート入力を強化し、2023 年度は 234 件（2022 年度比+38 件）の報告があった。有害事象へつながる危険な事例については、速やかに対策を樹立し実践を継続した結果、類似した事例の再発防止へつながった。感染リンクナースは感染に関する勉強会や積極的な手指衛生啓蒙活動により、スタッフの感染防止に対する意識も向上した。結果、手指消毒剤使用量は増加し（2023 年度実績 58,420ml、2022 年度比+8,170ml）、滅菌手術器材は目視徹底され、滅菌器材のリコールや重篤な術後感染は発生しなかった。褥瘡リンクナースを中心に長時間腹臥位による褥瘡発生を振り返り、効果的な体圧分散材料の選択と除圧方法を再検討し、看護実践へ反映させている。

3. 多職種・病棟と連携を図り、円滑な手術室を運営する

時間管理に焦点をあて、臨床工学部門・清掃業者・洗浄業者との連携による各手術室の非稼働時間短縮、同日に複数使用する器材準備を効率化させる洗浄依頼シートの運用化を開始した結果、予定手術に加え年間 699 件の追加手術を受け入れる事ができた。

《はじめに》

外来は、限られた時間の中で、信頼関係を構築し、患者の個別性や気がかりを大切に専門性の高い看護を提供することを基本方針としてきた。患者の視点を忘れず、わかりやすく、丁寧に説明を行うこと、患者や家族が納得して治療を選択し継続できるように介入すること、その人らしい暮らしや生活ができるように支え続けることに全力で取り組んできた。患者にとっての最善を支援し、患者のニーズに貢献するために、医学的知識や実践的知識の向上を目指し努力している。

また救急外来では 2023 年度 2,687 件の救急車を受け入れ、地域の救急要請に迅速に対応し地域に貢献することに努めてきた。

待ち時間短縮に向けて対策を検討し、診療開始時間の徹底、予約枠の見直し、診察の進行状況の案内、予約日時の調整を行なった。最大待ち時間が 20～30 分減少し、17 時以降待合の混雑状況も回避できるようになっている。

2024 年度も地域医療に貢献し、患者がのぞむ地域で生活できることを支援するため看護専門外来のさらなる拡充と、個別性のある患者中心の継続看護の実現を目指していく。実績は以下の通りである。

生活習慣病 支援外来	CKD・ HD 予防外来	CKD 支援外来	腎代替療法	骨粗鬆症 再骨折予防外来	退院支援
231 件	525 件	282 件	40 件	220 件	21 件
心不全 療養支援	禁煙外来	救急 トリアージ	アレルギー 相談	排尿自立支援	継続看護
33 件	20 件	32 件	15 件	28 件	108 件

《目標と実績・評価》

1. 専門性の高い外来看護の提供

患者が自らの意向や価値観に添って意思決定ができるように、適切な情報提供と説明を行い、不安なことや在宅での生活について、繰り返し話し合うことができた。継続看護では、患者自身が治療と向き合い、どのように生きていくかを選択できるように支援することができた。今後も患者と共に考えるプロセスに丁寧に関わっていきたい。

2. 地域医療への貢献

小児科外来では、学校検尿、保育園検診、各種集団ワクチンなど地域の活動に参画し生活指導なども継続することができた。救急車の応需については、地域貢献を目指し 2,687 件を受け入れることができた。

3. 働きやすい職場づくり

多忙な時ほどお互いを思いやる声をかけることで、チーム力の向上につなげることができた。心理的安全性を推進すること、お互いの成長を支援する風土を醸成すること、アサーティブなコミュニケーションを強化すること、気持ちの良い挨拶を明るく、いつでも、相手より先に、そしてひと言を添えて実践することでさらに働きやすい職場環境を目指していきたい。

《はじめに》

2023 年度画像・内視鏡外来では、専門性を発揮しながら治療に効果的な看護実践が行えるよう取り組んできた。心臓カテーテル検査を受ける患者の検査前訪問を再開し、患者の気がかりや不安に目を向けケアへとつなげることができた。また、循環器委員会と協働し、心臓カテーテル検査における急変シミュレーションの訓練を多職種とともに実施できた。今後も画像内視鏡特有のスキルや知識などを活かしながら、患者の検査や治療に伴う苦痛、羞恥心が最小限となるよう治療環境を整えていきたい。

	内視鏡件数	画像系検査数	放射線治療	検査説明数
2023 年度	4,705 件	5,444 件	3,570 件	5,650 件
2022 年度	4,979 件	5,520 件	4,954 件	6,213 件
2021 年度	5,339 件	4,655 件	4,668 件	6,366 件

《目標と実績・評価》

1. 働きやすい職場環境を整える

2023 年度の職場スローガンを「NO 不機嫌、NO ハラスメント、思いやり 100%」とし、職場にふさわしくない言動やコミュニケーションを許さない風土を維持し、不適切な言動が生じた場合には、その場で注意喚起した。スタッフ個々が互いの尊重と多様な働き方を理解し、多職種との協力体制を維持できたことで、超過勤務時間の平均は 10 時間以内であった。また、2023 年度の有給休暇消化率は 80%と 2022 年度より上昇し、プライベートの時間を確保することができた。

2. 画像内視鏡外来の専門性を活かし、診療・治療に効果的な看護を提供する

2023 年度より心臓カテーテル検査の検査前訪問を再開し、検査に伴うリスクを未然に防ぎ安全な検査体制を確立するために、関連部署との継続看護を充実させ、治療環境を整えることができた。また、患者の気がかりや苦しみに目を向け看護実践に活かすことができた。2022 年度の急変事例の振り返りをもとに、多職種と協働して血管造影室での急変を想定したシミュレーションを段階的に実施でき、スタッフ個々のスキルアップと役割の再認識へとつながった。今後はその学びが活かされているか実践を通して評価していく。タスクシフトでは、放射線科エリア内での看護補助者の搬送業務を確立し、病棟への搬送業務の負担軽減につながった。

3. マニュアルを遵守し、医療・看護の質を保証する

感染リンクナースの働きかけにより、適切なタイミングでの手指衛生や感染防護具の着脱を実施することができ、スタッフが感染源になることやスタッフ自身が感染することとはなかった。内視鏡エリアでの患者認識バンドの確実な装着と確認により、患者誤認・誤薬等の IA は起きなかった。

《はじめに》

2023 年度は、9 領域 11 名の認定看護師（CN）、2 名の特定看護師（慢性疾患管理モデル：糖尿病ケア、腎不全看護）が活動した。主な活動として、院内の困難事例への看護実践とケアの質向上を目指し、以下の取り組みを行った。

《目標と実績・評価》

1. CN が各領域における困難事例を受け持ち、役割モデルとなる。

領域	活動内容	実践/相談件数	
糖尿病看護 （特定看護師）	①特定行為の実施 ②外来診察同席 ③生活習慣病支援外来 ④在宅療養指導料 ⑤糖尿病透析予防外来 ⑥フットケア	高橋 弥	①5,832 件/426 (232) 名 ②248 件/45 名
		長谷川	③498 件 ④183 件 ⑤125 件 ⑥99 件
がん放射線療法	①放射線治療外来 ②IC 後個別面談 ③入院患者支援	神尾	①846 件/258 名 ②445 件/258 名 ③2 件/2 名
認知症看護	①入院患者支援受け持ち	金川	実践件 127 名 相談件 27 名
皮膚・排泄ケア	①ストーマケア（病棟＋外来） ②ストーマサイトマーキング ③スキンケア ④フットケア ⑤褥瘡ハイリスク ⑥褥瘡・創傷回診 ⑦褥瘡・創傷ケア ⑧排尿自立支援	青木	①118 件/71 名 ②18 件/18 名 ③17 件/17 名 ⑤971 件 ⑥341 件 ⑦157 件 ⑧48 件/26 名
		高野	①8 件 ②2 件 ⑤24 件 ⑥17 件 ⑦10 件
慢性心不全看護	①心不全療養支援 ②心不全予防支援	穴倉	①25 件/25 名 ②150 件/47 名
救急看護	①外来実践 ②ICLS 指導・運営	森田	①757 件 ②中止
感染管理	①学習会実施 ②ICT ラウンド	安間	①8 回 ②2 回/月
がん化学療法	①困難事例介入 ②院内認証看護師育成	杉本	①外来：12 件 病棟：24 件 ②新規 15 名育成（計 35 名）
腎不全看護 （特定看護師）	①特定行為の実施 ②透析管理実践 ③腎代替療法意思決定支援	永田	①手順書作成中 ②37 件 ③3 件

2. 治療に効果的な看護の提供

- 1) 院内教育に必要な勉強会を開催（WEB・ポスター含む）皮膚・排泄ケア：40 件、救急看護：7 件、感染管理：8 件、慢性心不全看護：3 件、認知症看護：1 件、糖尿病看護：1 件
- 2) 効果的なコンサルテーションに向けて「CN 通信」を 4 回発刊したが、閲覧は約 7 割に留まっていた。また、アンケート調査では認定看護師の活動内容や窓口が不明瞭とされている看護師が数名いたことがわかった。

3. 安全対策の強化

看護スタッフに対し、各 CN 療育における IA や最新の情報を共有した。

4. 看護の力で地域に選ばれる病院および院内への周知

外来の待ち時間で視聴できる掲示モニターに認定活動の紹介を 3 ヶ月クールで 7 領域実施した。地域広報誌 STaD は年 1 回掲載した。

5. CN がいきいきと活動するための職場づくり

CN 会議での相互支援と意見交換を実施した。円滑なコミュニケーションのために会議では、1 人 1 人意見を述べることにし、否定する姿勢はなく様々な視点で考えることができ円滑なコミュニケーションにつながった。

《はじめに》

退院支援カンファレンスを入院後 7 日以内に実施し、退院困難な要因に関するスクリーニングをより多くの患者に実施できるような体制づくりに取り組み、安定稼働に至った。2023 年度は、入院早期から継続した退院支援を行うことができるよう、退院支援に関する人材育成を目的とした教育体制の構築に取り組んだ。病棟看護師育成のため、退院支援質向上プロジェクトやリンクナース会での知識・スキル習得のための勉強会・動画視聴・事例検討等を行い、退院支援についての知識を深めることができた。今後も退院支援研修の充実を図り、患者が地域で暮らし続けることができるための支援を行えるような人材育成を続ける。

《目標と実績・評価》

1. 患者が安心して安全に入院生活を送るために、入院時支援を充実させる

患者支援センターでの入院説明のために、タブレットでの動画を取り入れた。呼吸訓練機器を用いた呼吸訓練方法等、説明用動画を 11 本作成し活用した。説明用紙だけの説明に比べ実際の呼吸訓練の状況を視聴でき、図等も大きく表示されるため、わかりやすい患者説明につなげることができた。

2. 退院後も住み慣れた場所で日常生活が継続できるよう入退院支援を充実させる

	入退院支援加算	入院時支援加算	介護支援等連携指導料
2021 年度	1,275 件	403 件	46 件
2022 年度	3,109 件	1,571 件	61 件
2023 年度(2022 年度比)	4,615 件(148%)	2,307 件(146%)	79 件(129%)

退院支援カンファレンスの定期開催数や院内外多職種カンファレンス件数が増えたことにより、入退院支援加算、入院時支援加算、介護支援等連携指導料は、2022 年度より増加した。院外多職種とのカンファレンスでは、退院前に詳細な情報交換やケアの検討をすることができるため、安心して退院するための支援が充実してきたと考える。今後さらに、院内外多職種カンファレンスを積極的に行う。教育体制については、退院支援研修の基盤作りのため、1 病棟に対して研修を実施した。研修用に学習動画を 7 種類 11 本作成し、配信した。研修後は、意思決定支援の自己評価得点の上昇等の効果がみられた。退院支援研修としての教育体制構築を進める。

3. 外来患者や地域の人々が医療資源・社会資源を活用できるよう情報を提供し、多職種や地域と連携して、患者中心の個別性に合わせた療養支援をスムーズに行う

がん相談窓口、ACP 問い合わせ窓口として役割拡大をするために勉強会を実施し、様々な患者に対しての看護実践を行った。相談や外来患者への医療福祉サービス導入に関しては、地域・関連部署と連携し、迅速に丁寧な対応を行った。

・訪問診療導入 9 件（2022 年 15 件）・訪問看護導入 23 件（2022 年 25 件）

《スタッフ》

臨床検査技師 28 名 准看護師 1 名 事務受付 3 名

《資格取得者数》

超音波検査士（循環器 1 名 消化器 1 名 体表臓器 2 名 健診 3 名） ME2 種 1 名
心電図検定 1 級 2 名 心電図検定 2 級 1 名 心電図検定 3 級 1 名 細胞検査士 2 名
国際細胞検査士 1 名 認定病理検査技師 1 名 千葉県糖尿病療養指導士 1 名
有機溶剤取扱者 1 名 特定化学物質取扱者 1 名 毒物劇物取扱責任者 2 名
化学物質管理者 1 名 日本乳がん検診精度管理中央機構乳房超音波講習会 A 判定 3 名
ピンクリボンアドバイザー初級 1 名 二級臨床検査士（臨床化学 1 名 血液 1 名
微生物学 1 名 免疫血清学 2 名 病理学 3 名 循環生理学 1 名） 緊急検査士 4 名
POCT 測定認定士 1 名 骨粗鬆症マネージャー 2 名 臨地実習指導責任者 2 名

《業務内容》

採血業務、健診センター業務、一般検査、血液検査、生化免疫学検査、生理検査、
病理検査、輸血検査、細菌検査（培養・同定・感受性を BML へ委託）。また、検査業務
以外に、糖尿病教室、腎臓病教室、骨粗鬆症再骨折予防外来、感染対策、NST、治験業
務等へ積極的に参加している。

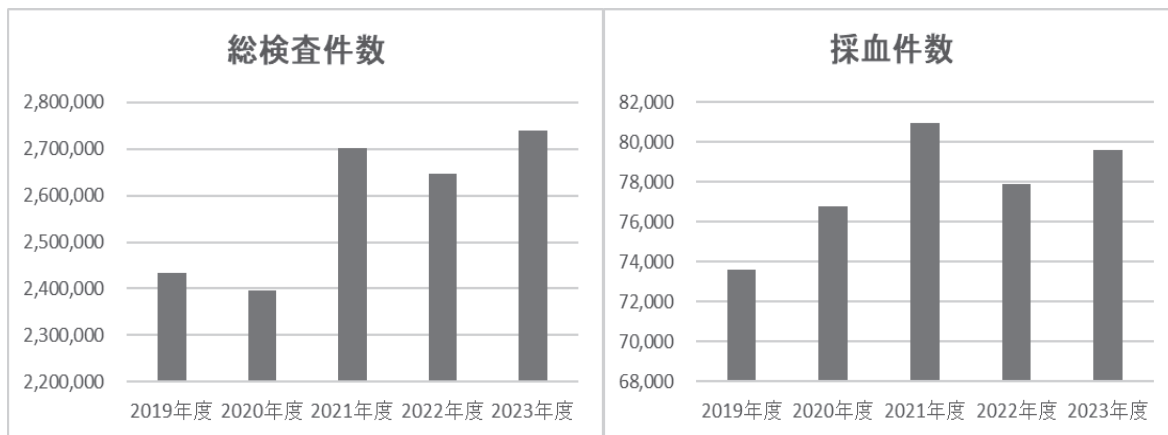
《取り組み》

新型コロナウイルス定性検査を導入し、スクリーニングから PCR 検査まで診療のニー
ズに沿った検査を行うことで待ち時間の短縮や負担軽減に貢献した。また、超音波検査
では予約枠以外の検査を受け入れ、診療に貢献した。

外部精度管理（日本医師会、日本臨床検査技師会、全衛連等、各メーカーサーベイ）
においては、2023 年度も高い評価が得られた。

《実績》

2023 年度は総検査数が 2,738,337 件と過去最高件数となった。また、採血件数は 2022
年度より 1,682 件増の 79,605 件となった。



《スタッフ》

視能訓練士 8 名（パート 2 名含む） 眼科コメディカル 2 名（パート）

《業務内容》

- ・眼科一般検査
視力検査・眼圧検査・角膜内皮細胞検査・角膜形状解析検査・動的量的視野検査
静的量的視野検査・眼底カメラ検査・蛍光眼底造影・光干渉断層撮影
自発蛍光撮影・網膜電位図・検影法・色覚検査・眼軸長測定・眼鏡処方
- ・斜視弱視検査
眼位眼球運動検査・両眼視機能検査・網膜対応検査・立体視検査
抑制除去訓練・輻輳訓練・弱視訓練
- ・ロービジョンケア（低視力者に対して視機能評価、視覚補助具の選定と指導）
- ・健診センター業務（視力検査・眼圧検査・眼底カメラ検査）

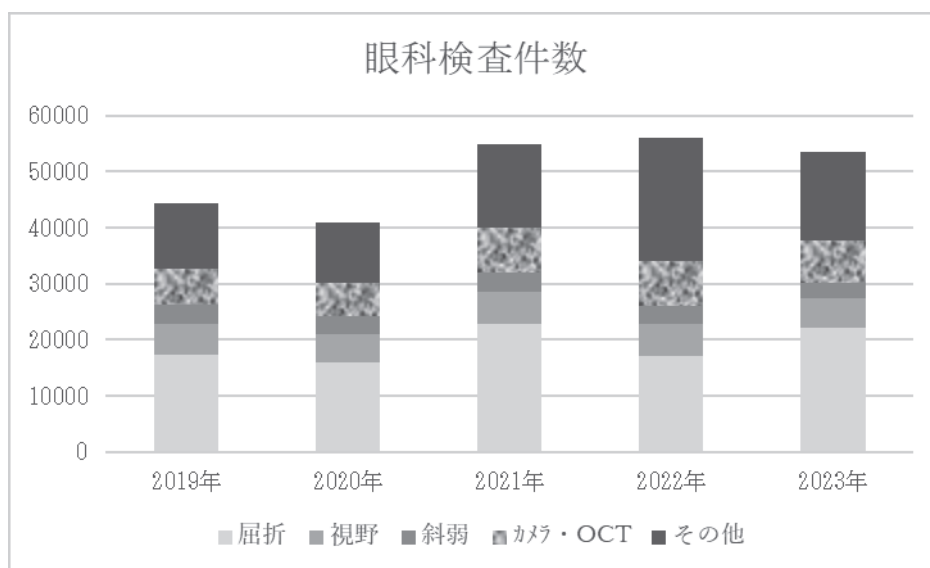
《取り組み》

2023 年度は常勤医師が 2 名となり、より多くの疾患に対応できるようになった。そのため近隣の医療機関からの紹介も増え、地域連携も確立できている。新型コロナウイルスが 5 類に移行したが、感染対策を続け、安全な医療の提供を行えた。

2024 年度は、特にロービジョンケアに力を入れていきたいと考えている。学会や勉強会に積極的に参加し、知識や技術の取得をスタッフ全体で行い、より患者さんに寄り添った質の高い医療の提供を行えるよう視能訓練士も日々精進していく。

2024 年度も引き続き、眼科医師、看護師、事務員と連携してチーム医療を推進し、待ち時間短縮にも努めていきたい。

《実績》



《スタッフ》

薬剤師 24 名 事務 1 名 薬剤助手 2 名（パート含む）

《資格取得者数》

がん薬物療法認定薬剤師 1 名 外来がん治療専門薬剤師 1 名
 感染制御認定薬剤師 1 名 抗菌化学療法認定薬剤師 1 名
 腎臓病療養指導士 2 名 腎代替療法専門指導士 1 名 実務実習指導薬剤師 5 名
 日病薬病院薬学認定薬剤師 3 名 骨粗鬆症マネージャー 2 名
 NST 専門療法士 6 名 周術期管理チーム薬剤師 1 名 心不全療養指導士 1 名

《業務内容》

調剤業務、製剤業務、薬剤管理指導業務、医薬品情報業務、抗がん剤調製業務、通院治療室・手術室・透析室常駐、ICT や NST、褥瘡回診などチーム医療への参画、医薬品の購入・在庫管理業務、治験実施への関与、薬学生実務実習受入

《取り組み》

2023 年度は、薬に関する防災対策として、行政・医薬品卸・調剤薬局との防災連携協議会を発足させ、緊急時連絡体制の構築や薬剤備蓄リストの作成に取り組んだ。また、TPN（中心静脈栄養法用輸液）無菌調製業務を開始して運用構築し、新たに HMG-CoA 阻害薬のフォーミュラリーを導入した。医薬品の流通状況に応じて院内へのアナウンスをはじめ薬剤の手配等、柔軟に対応した。レジメンに関する勉強会の開催をはじめ定期的な情報共有の場を設け、近隣薬局との連携に取り組んだ。

2024 年度は、安全な薬物治療と業務の効率化のための新たな PBPM（プロトコルに基づく薬物治療管理）の導入を検討していく。また、導入から年月を経た疑義照会簡素化プロトコルについて、近隣医療機関と共に連携して見直しを行っていく。さらに各部署における配置薬の見直し等、適正な医薬品管理を実践していく。

《実績》

【処方箋枚数、各種件数】

項目	2023 年度
入院 処方箋枚数	68,704
外来 院内処方箋枚数	4,943
外来 院外処方箋枚数	114,726
院外発行率	95.9%
入院 注射箋枚数(セット分)	83,821
TDM 解析報告数	87
薬剤管理指導料 2	623
薬剤管理指導料 3	6,060
病棟薬剤業務実施加算 1	16,786

項目	2023 年度
抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (処方箋料)	3,497
外来 抗がん剤調製件数	1,815
入院 抗がん剤調製件数	219
連携充実加算	1,086
持参薬鑑別件数	4,299

放射線診断科 放射線科

医師 瀬戸 一彦
技師長 園田 優

《スタッフ》

放射線診断医 1 名 非常勤医師 12 名 診療放射線技師 26 名 事務員 4 名

《資格取得者数》

検診マンモグラフィ認定技師 6 名 X 線 CT 認定技師 3 名 放射線機器管理士 2 名

肺がん CT 検診認定技師 2 名 胃がん X 線検診技術部門 B 資格 3 名

放射線管理士 2 名 放射線治療品質管理士 1 名 放射線治療専門放射線技師 1 名

臨床実習指導教員 1 名 日本磁気共鳴専門技術者 2 名 胃がん検診認定技師 2 名

胃がん X 線検診読影部門 B 資格 3 名 血管撮影・インターベンション専門技師 1 名

骨粗鬆症マネジャー 1 名 医療安全管理者 1 名 ピンクリボンアドバイザー 1 名

《業務内容》

医 師：読影業務、放射線安全管理

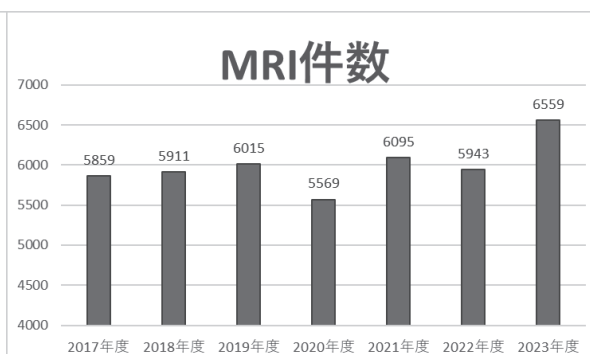
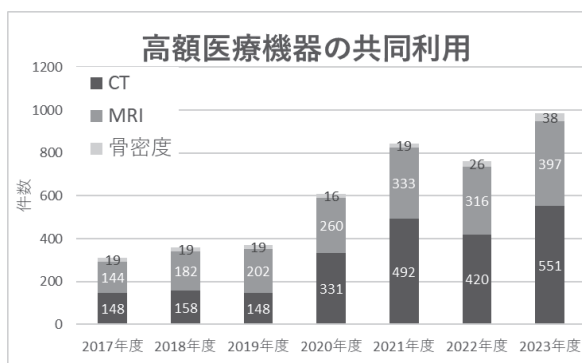
技 師：一般撮影、透視検査、骨密度測定、CT、MRI、血管造影、核医学検査、マンモグラフィ、放射線治療、健診センター業務、受付業務、画像診断、読影管理業務

《取り組み》

- ① 高額医療機器の施設共同利用（地域診療所からの検査委託）の推進のため、地域医療連携室と協働し地域医療の貢献を目指した。
- ② MRI 検査では院内や共同利用などの要望に答えるために当日検査の受入を強化した。
- ③ 画像診断報告書の未確認が社会的な問題になり、放射線科で画像診断報告書の確認を強化した。

《実績》

- ① 高額医療機器の施設共同利用は 986 件（対 2022 年度比 224 件増）
- ② MRI 検査数は 6,559 件（対 2022 年度比 616 件増）
- ③ 画像診断報告書は 18,480 件中 322 件については検査後に主治医や共同利用医師などにフィードバックを行った。



《スタッフ》

管理栄養士 12 名 栄養士 3 名 調理師 6 名 事務 1 名 調理助手 6 名
食器洗浄 15 名（パート、学生アルバイト、就労支援 6 名含む）

《資格取得者数》

NST 専門療法士 2 名 骨粗鬆症マネジャー 4 名 がん病態栄養専門管理栄養士 1 名
心不全療養指導士 1 名 病態栄養認定管理栄養士 1 名 日本糖尿病療養指導士 1 名
がん病態栄養専門管理栄養士研修指導師 1 名 在宅訪問管理栄養士 1 名
特定保健指導担当栄養士 2 名 給食用特殊料理専門調理師 1 名

《業務内容》

① フードサービス（食事提供に関連する業務）

院内食事基準管理、献立作成、食材管理、調理、配膳、下膳、食器洗浄、食数管理、
食品衛生に関する業務、給食システムの管理、市場調査、ミールラウンド（患者訪問）
嗜好調査、治療食・行事食・特別食メニューの提供、院内保育園への食事提供、

② クリニカルサービス（栄養管理に関連する業務）

外 来 疾病別個別栄養指導、患者支援センター入院前問診、
骨粗鬆症リエゾンサービス関連業務、摂食嚥下造影検査関連業務
入 院 栄養状態の評価、栄養管理計画書の作成、疾病別個別栄養指導、
個別対応のプランニング、ミールラウンド（患者訪問）、
カンファレンスへの参加、教育入院に関連する業務、
食物アレルギー負荷試験

チーム活動 NST、摂食嚥下、褥瘡対策、緩和ケア、骨粗鬆症リエゾンサービス、
循環器疾患

《取り組み》

2022 度より取り組んできた献立リニューアルに加え、10 月より特別メニューの提供を開始した。今後は緩和ケア食の提供に向けて準備を進めている。10 月に行われた事業団内施設対抗料理対決ではテーマの挽肉でガパオライスを作成し、理事長賞を獲得した。科内全体でコスト削減に取り組み、節電の呼びかけや厨房機器の消費電力の調査を行い院内の費用削減に貢献した。管理栄養士の 1 病棟 1 名配置にむけて準備を進めている。

《実績》

食事提供数（平均） 22,694 食／月
（一般食 11,258 食 特別食 10,770 食 濃厚流動食 329 食 その他 337 食）
栄養指導件数（平均） 外来（初回） 27.8 件／月、（2 回目以降） 143.5 件／月
入院（初回） 103.8 件／月、（2 回目以降） 29.3 件／月
NST 加算件数（平均） 123.5 件／月
学生実習受入れ 5 校（延 15 名）

《スタッフ》

臨床工学技士 39 名

《資格取得者数》

血液浄化専門臨床工学技士 2 名 透析技術認定士 14 名

認定血液浄化臨床工学技士 3 名 日本アフレス学会認定技士 1 名

呼吸療法認定士 7 名 消化器内視鏡技師 5 名 心血管インターベンション技師 1 名

臨床検査技師 3 名

《業務内容》

- ・医療機器全般の保守点検・定期点検の実施、トラブル時の対応
- ・手術室の機器操作介助、保守点検、トラブル時の対応、外回り補助業務
- ・内視鏡室・健診センターでの使用前点検・操作介助、使用后点検、保守管理
- ・心臓カテーテル検査における清潔介助、体外循環等機器操作、ポリグラフの操作
- ・ペースメーカー外来でのプログラマーの操作、緊急時の対応
- ・透析実施全般、透析装置保守管理、透析用水に関わる業務、特殊血液浄化療法実施、シャントエコー

《取り組み》

透析センターでは患者負担軽減を目指して穿刺関連業務を見直し、再穿刺率を 0.95% から 0.4% まで改善することができた。内視鏡分野では夜間の ERCP 症例への対応を開始した。また整形外科の超音波骨折治療に参入し、治療件数の増加につながった。

2024 年度以降も各分野での協力体制を維持・向上し、臨床工学技士としての強みを活かしたタスクシフト・シェアに取り組む。

《実績》

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
手術室立ち会い業務件数	1,288	1,218	1,230
ペースメーカー業務件数	166	155	185
内視鏡立ち会い件数	4,524	4,857	4,413
心臓カテーテル業務件数	141	129	113

血液浄化実施件数

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
血液透析	41,701	41,249	38,404
その他血液浄化療法	13	82	122
腹水濃縮濾過再静注法	21	3	12
シャントエコー	738	737	730
VAIVT	158	170	154

リハビリテーション室

室長 白井 智裕

《スタッフ》

理学療法士 21 名 作業療法士 4 名 言語聴覚士 1 名 歯科衛生士 1 名
リハビリテーション室受付・業務補助 4 名

＜資格取得者数＞

運動器認定理学療法士 3 名 スポーツ理学療法認定理学療法士 1 名
代謝認定理学療法士 1 名 3 学会合同呼吸療法認定士 2 名
骨粗鬆症マネージャー 1 名 腎臓リハビリテーション指導士 4 名
NST 専門療法士 4 名 認知症ケア専門士 1 名 福祉用具プランナー 1 名
日本口腔ケア学会 3 級認定者 1 名 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 1 名

《業務内容》

① 入院・外来患者に対するリハビリテーションの実施

＜対象＞ 脊椎、肩・手・股関節疾患、上下肢骨折、慢性腎臓病、廃用症候群、呼吸器疾患、認知症、摂食嚥下障害、言語障害

② 病棟カンファレンスへの参加 ③ 各委員会活動 ④ 退院前カンファレンス

《取り組み》

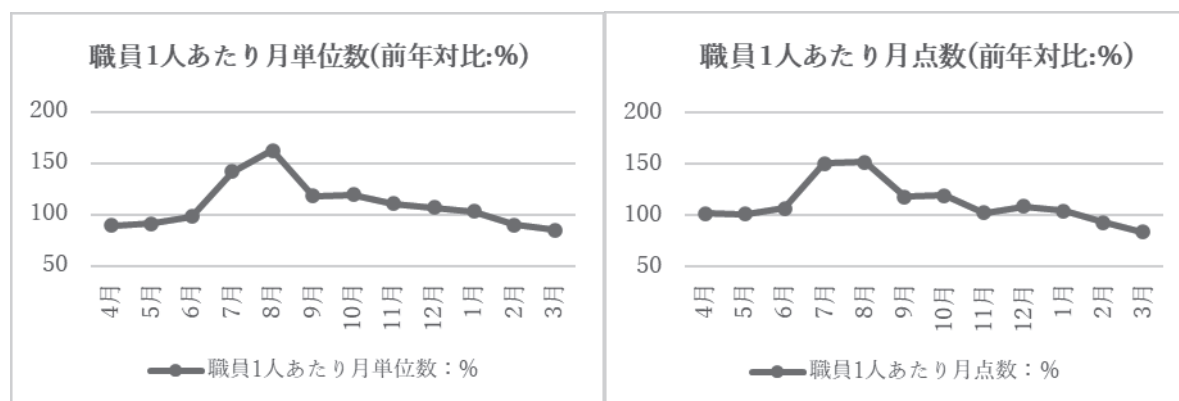
理学療法部門は、主に整形外科領域（脊椎・肩・股関節疾患や外傷）や腎臓内科領域、内科・外科由来の廃用症候群、呼吸器疾患の急性期に対し理学療法を実施している。作業療法部門は主に整形外科領域（脊椎・肩・手関節疾患）の術後、廃用症候群の急性期に対し作業療法を実施した。言語聴覚部門は摂食嚥下障害、呼吸器疾患、廃用症候群の急性期において入院を中心に実施した。歯科衛生部門は、主に摂食嚥下障害、化学療法患者さんへの口腔ケアを中心に実施した。

地域包括ケア病棟では、在宅復帰に向けた支援やリハビリを中心に実施した。

研究活動は主に整形外科、腎臓内科、摂食嚥下分野にて活動し、質向上に努めた。

《実績》

下記は、2023 年度の職員 1 人あたり月の総単位数・点数の 2022 年対比を示したものである。年度末を除き、概ね 100%以上の結果となった。



《スタッフ》

事務職員 6 名（パート 1 名含む）

《業務内容》

経営企画業務、システム管理業務、広報業務、その他新規事業企画業務など

《取り組み》

●経営企画業務

- ・3 ヶ年計画の目標であった「2023 年度黒字化」を達成することができた。総合企画室として増患策、単価アップ策、経営に関する情報発信などの取り組みを行った。
- ・管理会議にて将来構想の検討を行い、次期 3 ヶ年計画の策定を行った。
- ・事業計画の策定プロセスを変更し、事業計画アクションプラン検討会議を開催した。

●システム管理業務

- ・2024 年 2 月 23 日～25 日に電子カルテシステムおよび部門システムのシステム更新を行った。大きなシステムトラブルも無く、一部システムにおいては 2023 年度内に検収を行うことができた。
- ・2023 年より保健所の立入検査要綱の項目にサイバーセキュリティ確保のための取り組み状況の確認が追加された。対策チェックリストに基づき連絡体制図を作成した。
- ・院内ネットワーク機器の更新、旧 B3 病棟への無線環境構築、健診システム更新支援などの対応を行った。

●広報業務

- ・コロナウイルスが 5 類に移行したことに伴い、市民公開講座や腎臓病・糖尿病教室を再開した。市民公開講座は「がん治療の充実と推進のために」をテーマに開催し、41 名の方が参加した。
- ・社内報 SEIREI 事業部最前線にて開院 20 年の振り返りを掲載した。
- ・看護師採用サイトやキャンサーレターの制作支援、院内掲示物の運用見直し、動画編集・情報発信などの対応を行った。

●その他

- ・2023 年度より、ACP 推進ワーキング、がん医療支援センター会議、20 周年プロジェクトに参画している。

《スタッフ》

施設課員 4 名 委託設備員 6 名 委託警備員 6 名 委託清掃員 52 名

《資格取得者数》

第 1・2 種電気工事士 8 名 2 級ボイラ技士 4 名 乙種危険物取扱主任者 5 名
 第 3 種冷凍機責任者 2 名 乙種消防設備士 2 名 乙種防火管理者 1 名
 エネルギー管理員 1 名 特別管理産業廃棄物管理責任者 1 名
 特定高圧ガス取扱主任者 1 名 第 1 種高圧ガス販売主任者 1 名
 高圧ガス製造保安責任者乙種機械 1 名 防災管理点検資格者 1 名
 第二種消防設備点検資格者 1 名 第一種衛生管理者 1 名

《業務内容》

- ・建築物、電気設備、衛生設備、空調設備、医療ガス設備、消防用設備、搬送設備
中央監視設備等の維持管理、車両管理
- ・各種工事、外構、緑地、産業廃棄物、感染性廃棄物、清掃業務(委託)等管理
- ・院内外修繕業務、光熱水管理業務、省エネルギー推進業務、各種自主点検業務
各種法定点検及び官庁諸手続き業務等
- ・院内外の巡視警備

《取り組み》

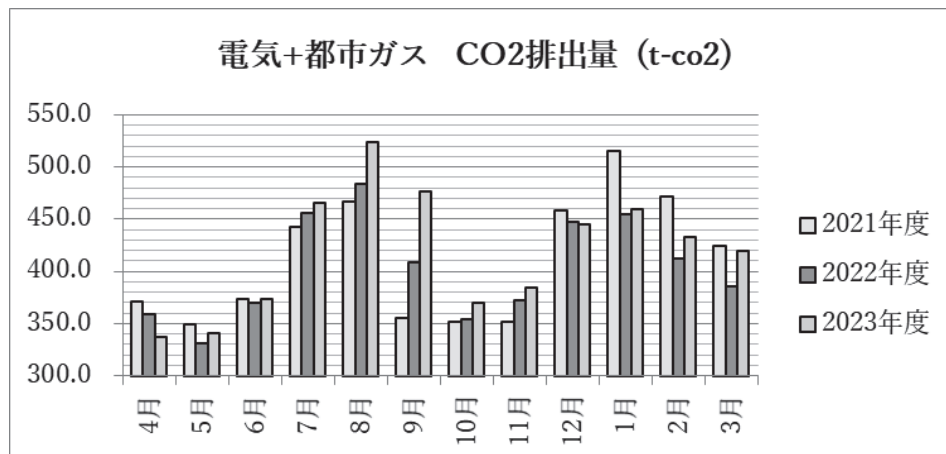
- 老朽化による設備改修計画や非常用電気設備の整備、修繕を行った。
- 地震防災訓練や夜間火災訓練を行った。
- LED 照明を交換し、全体の 64%整備した。
- 2023 年度は老朽化した空調整備を実施した。(C3 病棟入れ替え工事など)

《課題》

- ・2024 年度計画している A 号館病棟空調入れ替え工事については広範囲に影響が
予想されるため施設課だけでなく他職場との連携が必要である。

《実績》

- ・光熱水費高騰が続き省エネ活動を積極的に行った。



《スタッフ》

職員数 計 25 名

課長 1 名 総務担当 10 名 事務当直者 3 名 司書 1 名 保育士 9 名

保育助手 1 名

《業務内容》

職員募集・採用・異動等の人事管理、人件費予算管理、給与計算・社会保険手続き・健康管理等の労務管理、各種届出・補助金・イベント対応・電話交換・その他庶務業務、医局・図書室の管理、入院基本料等施設基準の管理、医師臨床研修に関する業務、互助会代行事務・宿舍管理・院内保育園運営等の福利厚生に関する業務

《取り組み》

2023 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類となり、一般診療としての体制を構築しつつ人員配置の適正化に取り組んだ年であった。

職員採用においては、採用を全職種積極的に採用する方針とし、通年での採用活動を実施した。一定の補充を実施したが、看護師、看護補助者の採用においては引き続き課題が残ることとなった。看護職採用に向けた取り組みとしては、新たな採用専用ホームページの作成や募集要項の見直しを行った。また、就職説明会においては新規地域への参加や回数を増やすなどの取り組みを行った。引き続きさらなる採用強化に努めていく。

初期研修医において 2023 年度も定員 4 名の採用に至ったことは、広報活動の強化を含め臨床研修体制が認知されてきた結果と捉えている。

労務管理においては、「医師の働き方改革」の一環として 2022 年度明確に打ち出した、医師による出退勤打刻率の向上、超過勤務ルールに関して一定の成果が出せた。また、2023 年度末、新勤怠システムを導入した。今後さらに精度を高めて行き、多職種を含め病院全体の働き方改革に向け、継続的に取り組んでいく。

院内保育園においては、地域にて新型コロナウイルス感染症が蔓延し、近隣の保育園、幼稚園が一時閉園となった時、出勤可能職員を確保するため職員の園児を一時的に預かる体制を整え病院運営に貢献できた。

なお、2022 年度課題となっていた課内の体制、減員状態は 2023 年度末解消することができた。引き続き、安定的な課内体制を継続していきたい。

《スタッフ》

事務職員 3 名

《業務内容》

一般経理

小口現金出納業務、銀行取引業務、会計帳簿の記録・整理・保管、予算立案・管理、月次・年次決算業務、固定資産等財産管理

窓口会計

医療費の請求、窓口出納業務、未収金管理・督促

《取り組み》

当院の経営改善の 3 ヶ年の最終年として予算必達に向け予算管理を徹底した。特に費用管理について都度各部署と密に行い適正な導入に努めた。そして経営状況に応じて効果的な投資を行い、各部署で今まで懸案事項だった案件や要望を進めることができた。また当院の将来構想の下、今後の 3 ヶ年計画について立案し承認を得ることができた。

10 月にはインボイス制度の開始に伴い、関係各所と適正な請求書や領収書の整備、対応を行った。

未収金においては経年の課題の一つ、医事システムと財務システムとの未収金差異をなくす取り組みを行ってきたが、毎月原因を把握し、差異をなくすことができた。

《実績》

2023 年度について、入院では手術件数が好調で過去最高の患者数となった月もあれば、コロナ発症の影響や電子カルテ更新作業に伴い受け入れ制限をせざるを得ない月もあり、結果として予算未達となった。一方で救急患者の受け入れに力を入れた結果、受け入れ率や入院移行率については 2022 年度より増加した。健診事業は受診控えが回復し、職員受診率向上と外部機関契約増加へも取り組み予算達成となった。費用について、人件費は一定の採用は行なうも退職もあり予定人員には至らず予算未達となった。電気・ガスについては激変緩和措置による単価減で大きく抑えられた。結果としてコロナ関連の補助金による収益増加もありつつ、適正な費用管理が行えたことにより、補助金を抜きにしても黒字決算となり、最終の当期活動増減差額は対予算 +841,959 千円といった好結果となった。

単位：千円

	2022 年度 実績	2023 年度 予算	2023 年度 実績	2022 年度比
サービス活動収益	11,162,251	11,339,800	11,917,730	106.8%
サービス活動費用	10,906,734	11,264,200	10,943,638	100.3%
うち人件費	5,911,799	6,170,700	5,986,584	101.3%
経常増減差額	223,016	61,000	960,110	430.5%
税引前当期活動増減差額	161,083	2,000	841,959	522.7%

《スタッフ》

事務職員 計 6 名

購入管理担当者 5 名 手術室クランク担当者 1 名

《業務内容》

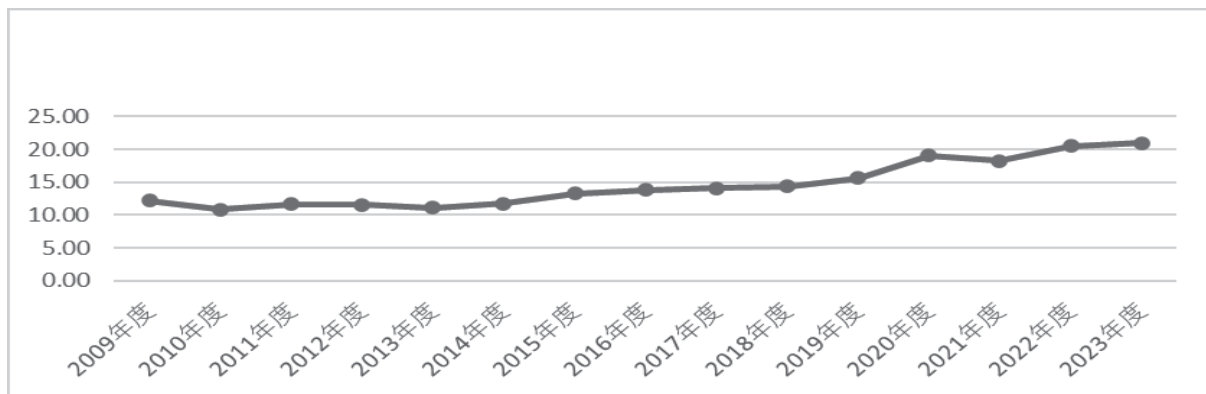
資材課は医療機器・診療材料・事務用品等の購入や価格交渉と、手術室クランク業務（手術室物品管理や台帳作成等）を主とし、病棟、外来アメニティなども委託会社を通し、管轄として業務を行っている。

《取り組み》

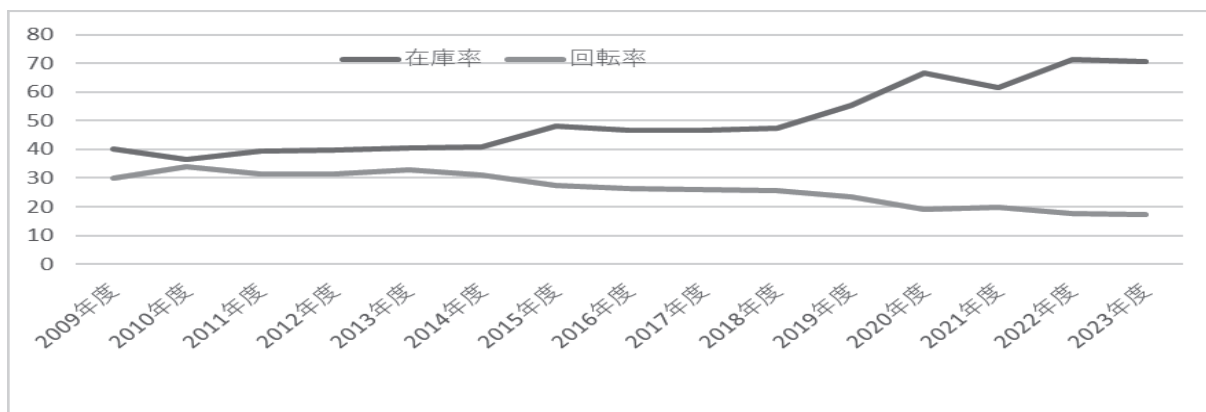
2023 年度は、物価上昇による値上げ品に対する価格交渉と物品の見直しを行い、費用抑制に努めた。手術室にて、材料キットを新規に導入することにより、ピッキング作業等の準備時間の短縮化を図り、手術室スタッフの負担軽減、手術室効率的運用へ寄与することができた。また、病棟ベッド、外来待合ソファの更新を行い患者アメニティの向上に努めることができた。

《実績》

- ・ 診療材料 在庫日数



- ・ 診療材料 在庫回転率及び在庫率



《スタッフ》

事務職員 6 名（パート含む）

《主な業務内容》

- ・ 医療機関・施設等より患者さんの診療受入相談（外来、入院、時間外、転院）に伴う前方支援連携
- ・ 高額医療機器共同利用の受付、他医療機関への受診や検査予約取得案内
- ・ 紹介元医療機関への診療結果報告書の返書管理、診療情報提供書の受付
- ・ 広報活動（訪問、キャンサーレター発行）

《体制と取り組み》

5 月に他部署へ異動となった職員が兼務として戻り 6 名体制となったが 2023 年度は真新しい業務に挑戦と言うよりも今ある仕事を確実にやり、信頼され選ばれる病院として地域の先生方より多くの患者さんを安心して紹介いただけるように以下の取り組みを重点的に行った。

【診療結果報告書 7 日以内返書の取り組み】

2021 年度より返書率 100% を目標に取り組み、3 年目になるが各診療科の特性や医師の記載タイミングにより微妙にずれが生じて、結果として目標達成とはならなかった。しかし部署内では記載をよりスムーズに行うための仕組み改善や、個別に医師サポート対応を行う等、各スタッフの努力の結果もあり返書率 100% に近い数字で推移という成果を得られた。今後は更に地域のニーズに応えられるよう、最終報告も含めて精度の高い返書管理の仕組み作りを目指していきたい。

【CT・MRI 高額医療機器共同利用と放射線治療の紹介増加の診療科協同での取り組み】

CT・MRI 共同利用における地域からの紹介依頼件数は年々増加の一途をたどっている。一方で、紹介元医療機関の拡大も長年の課題であった。これに対して診療放射線技師同行の上、営業活動を行い、新たに 2 件の新規紹介元を開拓することができた。また丁寧な検査対応や返信も評価され、紹介件数の増加につなげる事ができた。放射線治療科でも近隣の病院に医師同行での営業を計画した。件数こそ多くはないが継続して紹介を頂く事ができた。

最後に、日々のルーティン業務を行いながら、地域からの緊急紹介患者の相談に際しては、可能な限り受け入れを目指し奔走した少数精鋭のスタッフに敬意を表したい。

《2024 年度に向けて》

当院は 2024 年 3 月に創立 20 周年を迎えた。時代の変遷と共に成長してきた地域医療連携室だが、ひとつの節目を迎えるにあたり 2024 年度は、これからの地域社会に即したチーム作りを目指して活動できる年としたい。

《スタッフ》

管理者 1 名 医療福祉相談員 4 名 事務員 1 名

〈資格取得者数〉

社会福祉士 4 名

《業務内容》

通院、入院中の患者さん、ご家族、患者さんに関わる関係者の方々に対し、医療福祉相談室では療養上の生活に関する不安や心配事などを伺い、様々な福祉制度(介護保険、身体障害者福祉、障害年金、健康保険、社会保障制度等)の紹介、解決に向けた援助を行っている。相談内容としては、1. 医療費・生活費問題 2. 退院援助 3. 受診・入院相談 4. 療養中の生活諸問題 5. 在宅ケア諸サービス 6. 人間関係に関する援助 7. 心理的問題 8. 診断治療理解決定 9. 就労就学支援 10. 苦情受付 等となっている。相談内容に応じて医師や看護師、リハビリ等のコメディカルスタッフ、事務部門と連携、相談し、必要に応じて地域の関係機関や専門の相談機関の紹介も行っている。

《取り組み》

2023 年度は人員減のなか、退院支援加算 1 を維持することができ、退院調整が必要な方の早期発見、病棟およびコメディカルスタッフとの活発なコミュニケーション、多職種協働による退院支援を継続して実施することができた。相談者実人数も、人員減にも関わらず、2022 年度より 125 名増えている。また、地域関係機関からの依頼により高齢者虐待の被虐待者の受け入れ調整も 2 ケース行うことができ、地域包括ケア病棟も活用の上、適切な環境下への退院も調整することができた。社会福祉法人が母体である医療機関としての使命もいっぺん担えたのではないかと考えている。

地域包括ケア病棟受け入れ窓口業務が 2022 年 10 月より加わり、運用方法を試行錯誤してきたが、2022 年度よりも大幅に相談件数が増え、30 件から 72 件(うちリハビリ目的 37 件、レスパイト目的 35 件)と、2.4 倍となった。現在受け入れ窓口担当者が 1 名体制となっているが、多くの方に病棟を活用して頂けるよう、担当医、病棟課長と相談をしながら、速やかに柔軟性をもって対応していきたい。これからも地域の社会資源のひとつとして、皆さんから気軽に相談して頂ける相談室を維持し、謙虚な姿勢で業務に取り組んでいきたい。

《実績：相談延べ人数／実人数》

2023 年度 9,142 件／2,545 名 (2022 年度 9,081 件／2,420 名)

《スタッフ》

事務職員 計 47 名（育休中 2 名含む）
課長 1 名 外来医事 3 名 ドクタークラーク 5 名
外来クラーク 27 名 外来受付 9 名 透析クラーク 2 名

《業務内容》

受付、書類対応、予約・診療に関する問合せ対応、外来医療費の計算、診療報酬請求、透析室事務、外来診察室事務、学術・研究支援

《取り組み》

・紹介受診重点医療機関

7 月に千葉県より紹介受診重点医療機関の指定を受けた。12 月より初診時選定療養費を 7,000 円に変更したが、院内外に丁寧な説明を行った結果、大きなトラブルもなく、スムーズに開始することができた。今後は、外来患者数の推移、紹介・逆紹介率等管理を行い、院内へ報告を行っていく。

・待ち時間対策

一部診療科において診察に必要な患者の問診情報をカルテへ入力し、一人あたりの診察時間の短縮を図った。また、予約枠の管理を事務で行い待ち時間が短くなったというご意見をいただいた。患者数が年々増加している眼科については、手術申込みの代行入力を開始し、医師の負担軽減を実施した。

・課内体制強化

2022 年度から取り組みを行っている課内体制強化 3 カ年計画はそれぞれの業務を他チームと共有し互いが協力し業務の振り分けを行っている。外来クラークは内科・外科・整形外科の 3 チームに分けドクタークラークと共同し書類作成、整形外科のデータ入力を開始した。他にも外来受付では 2023 年度から開始している腎臓内科のレセプト点検、透析患者の算定業務を習得中であり、全面委託であった外来請求を一部分であるが職員化することにより、請求業務がわかる人材育成を現在進行中である（3 名から 5 名への増員）。2024 年度は、3 カ年計画の最終年を迎える年であるため、課内一丸となって目標達成を目指す。

《実績》

件 名

外来患者数	810.9 人／日
外来単価	14,982 円
レセプト枚数（保険請求分）	10,962 枚／月
外来手術件数	32.25 件／月

入院医事課

課長 加藤 雄揮

《スタッフ》

事務職員 計 23 名（パート含む）

入院算定 8 名 診療録管理室 5 名 病棟クラーク 10 名

＜資格取得者数＞

診療情報管理士 4 名

《業務内容》

入院受付：入院に関する事務手続き全般の説明

入院算定：入院医療費の計算、診療報酬請求、施設基準管理

診療録管理室：DPC 調査データ登録提出、院内がん登録、NCD 登録、死亡統計、ICD 別統計、疾患別データ抽出、カルテ開示、診療録管理体制加算に係る業務

病棟クラーク：病棟での入院患者手続き等の事務全般

《取り組み》

2023 年度はコロナ感染症が 5 類感染症へと移行され公費の取り扱いへの新たな対応が求められた。看護師や看護補助者不足により各種加算のための配置基準の管理を看護部と協力して加算を維持することができた。診療録管理士を 1 名採用する事ができ診療録管理体制加算 1 の再取得を行う事ができた。

入院受付：入院受付待ち時間対策として入院時書類一式を入れる封筒に持ち物チェック欄を追加して書類忘れによる再記入の時間を削減した。

入院算定：査定の対応に力を入れ再審査請求の件数が 2022 年度 3 件だったが 2023 年度は 29 件となった。

診療録管理室：診療録管理士を 1 名採用することにより、より多くの業務対応が可能になった。診療録管理体制加算 1 の再取得をおこなった。

病棟クラーク：入院患者数の増加による業務負担軽減のためパート職員を増員しスタッフの残業時間抑制を行った。

《実績》

件 名		件 名	
入院患者数	302 人／日	入院単価	56,179 円
病床稼働率	80.2%	入院手術件数	257 件／月
退院患者数	7,039 件	カルテ開示件数	45 件
退院サマリ完成率（14 日）	98.3%	退院サマリ完成率（30 日）	100.0%
院内がん登録件数	812 件	NCD 登録件数	1,854 件

《スタッフ》

専従：看護師（医療安全管理者）1名

専任：医師（室長兼副院長）1名 看護師1名 薬剤師（医薬品安全管理者）1名

臨床工学技士（医療機器安全管理責任者）1名 事務1名

＜資格取得者数＞

医療安全管理者養成研修修了者7名（医師1名 看護師6名）

《業務内容》

病院基本方針の「安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供」を目的に、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、事務が医療安全管理者となり多角的視点から医療安全対策を行うための取り組みを行っている。

《具体的な取り組み》

- ・2023年度、医療安全管理者に変更となったため、医療安全管理室のメンバー紹介の動画を作成して配信を行った。動画配信により、医療安全管理者の顔が見えるようになった。また、全職員にアンケートを実施し、医療安全の研修や勉強会の希望を2024年度の年間計画に反映した。
- ・インシデント、アクシデント報告内容の事例共有と対策の提案を行っている。インシデント・アクシデント報告から業務改善をした事例が3例あり、再発防止につながった。
- ・医療安全管理室会議を毎週1回開催した。
- ・医療安全管理室委員会を毎月1回開催した。

《実績》

- ・医療安全対策マニュアルの全項目を見直し、34項目のマニュアルを改訂した。
- ・インシデント・アクシデント報告年間件数3,147件（2022年度2,700件数）であった。
- ・暴力・防犯対応研修を3回実施し、合計345名が参加した。研修を受講したアンケートの結果、実践で活かせる満足した結果だった。

（アンケート結果）

大変満足	満足	どちらでもない	不満
195	55	0	0

- ・コメディカル対象のBLS実技講習を毎月2回開催し、467名が参加した。
- 全体の实技講習の参加率は88%、病院内の職員の实技講習参加率は100%であった。
- ・医療機器医薬品安全研修の受講実績は99.7%だった。

2024年度は、医療安全の醸成を図ることを目的とし、リスクマネージャー対象の研修を行い、職場の安全風土を高める活動を積極的に行っていく予定である。

《スタッフ》

医師 2 名 看護師 2 名 薬剤師 1 名 臨床検査技師 1 名 事務 1 名
(専任、専従含む)

《資格取得者数》

ICD(infection control doctor) 2 名
ICN(infection control nurse) 1 名
感染制御学修士 1 名

《業務内容》

新型コロナウイルス感染症対策、院内感染防止対策マニュアルの作成・改訂、ワクチン接種事業(コロナ・インフルエンザ)、職員の抗体値管理、感染対策の院内研修、ICT ラウンドの実施と環境評価

《取り組み》

2021 年から続くコロナワクチン接種(特別臨時接種)が 2023 年度末に終了した。これまで 50,000 回を超える接種を実施、感染防止に係わる地域貢献ができた。

院内における感染症発生や耐性菌の把握に努め、各部署のモニタリングと環境整備・培養等を行い、感染拡大防止に努め、アウトブレイクの発生はなかった。

サーベイランス活動としては、薬剤科を中心に 2023 年度より J-SIPHE 登録・参加開始した。2024 年度は抗菌薬適正使用推進チーム(AST)設置を見据えた体制整備に取り組みたいと考える。

印旛地区における感染対策カンファレンスには 6 回(うち 1 回は新興感染症を想定した訓練)参加し、各種ベンチマーク比較や地域の感染状況を共有した。院内では年 2 回の感染対策講習会を実施し、病院職員の院内感染防止対策の知識向上に貢献した。

2024 年度からは千葉県より新興感染症発生時に対応する、第一種協定指定医療機関(病床の確保)、第二種協定指定医療機関(発熱外来)として指定されることとなった。引き続きコロナを含む感染症拡大防止に努めていく。

《実績》

■コロナワクチン接種：計 51,907 回(うち小児 1,534 回)

- ・2021 年度：32,314 回(うち小児 329 回)
- ・2022 年度：12,551 回(うち小児 1,025 回)
- ・2023 年度：7,042 回(うち小児 180 回)

《スタッフ》

所長(兼副院長) 有田 誠司 主任医長 太田 智雄
副部長 久保田 亨
非常勤医師 6名 保健師 4名 看護師 13名 臨床検査技師 14名
診療放射線技師 12名 事務職員 35名 (病院との兼務及びパート含む)

＜資格取得者数＞

日本人間ドック学会人間ドック認定医 3名 労働衛生コンサルタント 1名
産業医 3名 日本認知症予防学会専門医 2名 健康スポーツ医 1名
産業カウンセラー 1名 人間ドック健康情報管理指導士 4名 衛生管理者 1名
超音波検査士 4名 検診マンモグラフィ認定技師 3名 胃がん検診専門技師 2名
日本乳がん検診精度管理中央機構認定技師 2名 肺がん CT 検診認定技師 2名
医療経営士 1名

《診療内容》

健診センターは「利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します」を理念とし、1 日人間ドック・脳ドック・スペシャルドック（人間ドック＋脳ドック）、プレミアムドック、生活習慣病予防健診、健康診断及び特殊健康診断、市町との契約による各種がん検診などの健診事業を行っている。

また、企業へ出向いての出張健診も行っている。

《取り組み》

COVID-19 が 5 類となったことで、当日の医師による結果説明や保健師等による対面での保健指導の件数を徐々に戻し、アフターフォローまで行き届いた健診センターを目指した。ご希望が多い胃内視鏡の予約枠を拡大するなど受診者受け入れ拡大にも力を入れ、健康保険組合との新規契約を行いながら、地域の皆様のニーズに応え、健康をサポートできる施設を目指した。

また、2024 年 4 月に健診システムの変更を行い、判定基準の見直し等も行うことで、更なる受診者満足を目指す。

《実績》

年間収益・・・2023 年度：882,208 千円（2022 年度：832,213 千円、前年比 106%）

受診者数・・・2023 年度：52,582 名（2022 年度：49,322 名、前年比 106.6%）

せいいい訪問看護 ステーション佐倉

所長 竹澤 英恵

《はじめに》

せいいい訪問看護ステーション佐倉は、利用者・ご家族の意向を尊重し、病気や障害があっても住み慣れた地域でその人らしい生活が送れることを目標に取り組んでいる。

2023年度は横のつながりを大切に院内外の連携強化に努めてきた。今後も地域の皆さんが安心安全に過ごすことができるよう職員一丸となり在宅医療・介護サービスの充実を図り、地域に貢献できるよう邁進していく。

《目標と実績・評価》

1. 訪問実績の評価

スタッフ数は看護師6名、作業療法士1名、理学療法士1名、事務員1名にて活動。
実績は下記表参照。

【医療 訪問件数実績】＊医療 訪問件数予算 175 件

2023 年 4 月	165	2023 年 8 月	154	2023 年 12 月	134
2023 年 5 月	184	2023 年 9 月	138	2024 年 1 月	124
2023 年 6 月	201	2023 年 10 月	109	2024 年 2 月	137
2023 年 7 月	147	2023 年 11 月	107	2024 年 3 月	122

【介護 訪問件数実績】＊介護 訪問件数予算 445 件

2023 年 4 月	330	2023 年 8 月	442	2023 年 12 月	459
2023 年 5 月	340	2023 年 9 月	433	2024 年 1 月	465
2023 年 6 月	393	2023 年 10 月	448	2024 年 2 月	462
2023 年 7 月	348	2023 年 11 月	457	2024 年 3 月	483

2023 年 4 月より看護師 1 名を増員し、大幅に訪問件数が増加し事業拡大につなげることができた。

病院に併設された訪問看護ステーションとして、利用者が安心して、外来通院・入院・在宅へ戻り療養生活が送れるよう、病院内での研修会の開催や病棟スタッフの同行訪問などを通し連携強化を図った。

また、訪問看護の質の向上を目標に、新入職員の教育プログラムの作成・実施や e-ラーニングを使用した学習を取り入れ計画的に実施した。

今後も地域で生活する利用者・ご家族の望む生活が維持できるよう、院内だけでなく院外とも連携を密にとり療養生活の充実を目指していく。

2. 会議参加状況・広報活動

臼井・千代田圏地域事業所連絡会、地域別ケア会議参加
千葉県訪問看護ステーション協会印旛・山武地区部会

せいれい ケアプランセンター佐倉

所長 金子 綾子

《はじめに》

2019年6月に開設され、まもなく5年目に入ろうとしている。地域にも当事業所の存在が周知されるようになり、年々依頼件数も増加している。2023年度も地域の方々に安心を与えられるよう「病院に併設している居宅介護支援事業所にできることは何か？」と自らに問いかけ、「気持ちは熱く、頭はクールに」をモットーに支援していく。

《業務内容》

- ・居宅サービス計画書の作成
- ・介護サービス提供事業所や行政機関との連絡、調整
- ・利用者の生活状況の確認
- ・介護保険の申請代行
- ・支給額限度額の確認と利用者負担額の計算など

《実績》（※2023年4月～2024年3月末までの累計人数）

介護度別担当割合

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
支援1	11	13	15	19	20	21	22	21	21	21	18	21	223
支援2	25	32	33	35	38	38	38	40	39	39	37	33	427
介護1	24	24	27	27	33	37	37	33	35	34	33	35	379
介護2	22	24	25	28	28	26	24	25	23	22	27	29	303
介護3	11	11	11	11	13	9	11	10	13	12	13	11	136
介護4	3	5	7	6	10	10	11	10	10	9	9	10	100
介護5	4	4	2	1	2	2	2	2	2	2	4	4	31
実績	100	113	120	127	144	143	145	141	143	139	141	143	1,599

《これからの取組み》

2024年度も引き続き、特定事業所の役割を果たせるように定期的な研修や地域会議にも参加していく。また、2024年度には介護保険の法改正もあり、BCPや高齢者虐待について更なる専門的な取り組みが必要となるため、院内の研修、委員会の参加、同じ在宅部である訪問看護ステーションとの連携を強化し、専門性が高く、柔軟性のあるケアマネジャーを目指せるように取り組んでいく。

研究・業績

診療部

【腎臓内科】

『論文』

- 雑誌名 : BMC Nephrol.
題名 : Predicting dry weight change in Hemodialysis patients using machine learning.
著者 : Inoue H, Oya M, Aizawa M, Wagatsuma K, Kamimae M, Kashiwagi Y, Ishii M, Wakabayashi H, Fujii T, Suzuki S, Hattori N, Tatsumoto N, Kawakami E, Asanuma K.
巻、ページ、年度 : 2023 Jun 29;24(1):196. doi: 10.1186/s12882-023-03248-5
- 雑誌名 : 腎と透析
題名 : 多彩な合併症がありながら PD で安定した管理ができていたミトコンドリア病の 1 例
著者 : 寺崎紀子、藤井隆之、松永宇広、山内伸章、森本真有、越坂純也、田中宏明、鈴木理志
巻、ページ、年度 : 95 巻別冊 腹膜透析 2023 P266-7

『国際学会』

- 学会名 : 60th ERA-EDTA congress
開催日 : June 15-18 2023
会場所 : Mirano, Italy
演題 : Efficacy and safety of monthly-steroid pulse therapy combined with tonsillectomy in patients with IgA nephropathy
演者 : Takayuki Fujii, Noriko Terasaki, Takahiro Matsunaga, Nobuaki Yamauchi, Jyunya Koshizaka, Mayu Morimoto, Hiroaki Tanaka, Satoshi Suzuki

『国内学会』

- 学会名 : 第 66 回日本腎臓学会学術総会
開催日 : 2023 年 6 月 9 日～11 日
会場所 : 神奈川県横浜市
演題 : IgA 腎症に対する monthly ステロイドパルス治療の有用性
演者 : 藤井隆之、寺崎紀子、松永宇広、山内伸章、越坂純也、森本真有、田中宏明、鈴木理志
- 学会名 : 第 66 回日本腎臓学会学術総会
開催日 : 2023 年 6 月 9 日～11 日
会場所 : 神奈川県横浜市
演題 : 千葉県内血液透析患者 71 例の腸内細菌叢の解析
演者 : 若林華恵、石井公祥、井上宏子、相澤昌史、浅沼克彦、藤井隆之、佐藤純彦

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会 日： 2023 年 6 月 16 日～18 日 所： 兵庫県神戸市 題： 血液透析患者に対するイバンドロネート製剤中止後の骨密度および骨代謝 マーカーの推移の検討 者： 藤井隆之、松永宇広、越坂純也、山内伸章、森本真有、寺崎紀子、 田中宏明、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会 日： 2023 年 6 月 16 日～18 日 所： 兵庫県神戸市 題： 千葉県内血液透析患者の腸内細菌叢に関する検討 者： 若林華恵、石井公祥、井上宏子、相澤昌史、浅沼克彦、藤井隆之、 佐藤純彦
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会 日： 2023 年 6 月 16 日～18 日 所： 兵庫県神戸市 題： 不明熱精査中に突然死した重症大動脈弁狭窄症合併透析患者の一例 者： 山内伸章、笹井大督、松永宇広、越坂純也、森本真有、寺崎紀子、 田中宏明、藤井隆之、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 日： 2023 年 9 月 16 日～17 日 所： 宮城県仙台市 題： MPO-ANCA 陽性の血管炎の治療中に腹腔内出血で死亡し、剖検によって 診断された結節性多発動脈炎の 1 例 者： 面大地、越坂純也、松永宇広、森本真有、山内伸章、寺崎紀子、 田中宏明、藤井隆之、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 29 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 日： 2023 年 9 月 30 日～10 月 1 日 所： 東京都江東区 題： 透析導入後虚血性心疾患を契機に感染症と出血症状を繰り返し、気腫性 胆嚢炎で死亡した腹膜透析患者の一例 者： 藤井隆之、寺崎紀子、松永宇広、面大地、越坂純也、山内伸章、 田中宏明、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 50 回千葉県透析研究会 日： 2023 年 12 月 3 日 所： 千葉県千葉市 題： 血液透析患者に対するイバンドロネート製剤中止後の骨密度および骨代謝 マーカーの推移の検討 者： 藤井隆之、松永宇広、越坂純也、山内伸章、森本真有、寺崎紀子、 田中宏明、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 50 回千葉県透析研究会(座長) 日： 2023 年 12 月 3 日 所： 千葉県千葉市 題： 若手医師の PD の実践 者： 藤井隆之

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 50 回千葉県透析研究会 日： 2023 年 12 月 3 日 所： 千葉県千葉市 題： 嚢胞感染により敗血症性ショックで急死した ADPKD の血液透析患者の一例 者： 森本真有、藤井隆之、越坂純也、松永宇広、山内伸章、寺崎紀子、田中宏明、鈴木理志
-----------------------	--------	--

『講演』

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： 宇都宮市医師会学術講演会～ CKD 治療における地域連携について～ 日： 2023 年 4 月 21 日 所： Web 名： より良い CKD 診療を探る～ SGLT2 阻害薬への期待～ 者： 藤井隆之
-----------------------	------------------	---

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： CKD 診療の日常診療を考える会 日： 2023 年 4 月 27 日 所： 千葉県千葉市(Web) 名： より良い CKD 診療を探る～ SGLT2 阻害薬への期待～ 者： 藤井隆之
-----------------------	------------------	--

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： 世界高血圧デーに降圧治療を考える 日： 2023 年 5 月 17 日 所： 千葉県千葉市 名： 腎保護を考慮した CKD 患者さんの高血圧治療を考える 者： 藤井隆之
-----------------------	------------------	--

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： 第 1 回 CKD セミナー in 佐倉 日： 2023 年 5 月 24 日 所： 千葉県佐倉市 名： 慢性腎臓病の診断と治療のエッセンス 者： 藤井隆之
-----------------------	------------------	--

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： かなん(霞南) CKD 連携セミナー 2023 ～稲敷・牛久・龍ヶ崎地区 病診連携講演会～ 日： 2023 年 5 月 31 日 所： Web 名： より良い CKD 診療を探る ～ SGLT2 阻害薬への期待～ 者： 藤井隆之
-----------------------	------------------	---

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： ARNI 高血圧 Web Symposium in 千葉 日： 2023 年 6 月 1 日 所： 千葉県千葉市 名： 腎保護を考慮した CKD 患者の高血圧治療を考える 者： 藤井隆之
-----------------------	------------------	---

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名： HyperKalemia Summer Seminar 日： 2023 年 6 月 6 日 所： Web 名： 千葉県 CKD 重症化予防対策の現況と課題 者： 藤井隆之
-----------------------	------------------	---

講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 69 回佐倉薬剤師セミナー 2023 年 6 月 7 日 千葉県佐倉市 より良い糖尿病性腎臓病治療戦略を考える 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	印旛 腎・代謝フォーラム 2023 2023 年 6 月 21 日 千葉県佐倉市 より良い CKD 診療を探る～ SGLT2 阻害薬をどう使う？～ 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	Hypertension Expert Meeting ～腎臓内科・糖尿病内科の視点から～ 2023 年 6 月 23 日 千葉県成田市 腎保護を考慮した CKD 患者さんの高血圧治療 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	Joint Meeting on CKD in Chiba 2023 年 6 月 27 日 千葉県千葉市 CKD 進展抑制を考えた今できる治療 ～貧血治療の重要性を含めて～ 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	新たな高血圧治療の Strategy を考える ～腎臓内科の視点から～ 2023 年 8 月 2 日 千葉県千葉市 高血圧患者さんの腎保護を意識した治療戦略を考える 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	心腎治療 Update Seminar in ASAHI 2023 年 8 月 25 日 千葉県旭市 CKD 治療戦略の中での高カリウム血症対策 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 2 回 CKD セミナー in 佐倉 2023 年 8 月 30 日 千葉県佐倉市 慢性腎臓病診療の実際～高血圧を中心に～ 田中宏明
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	心腎の観点から考える治療戦略 ～ Cardio-renal Collaborative Seminar ～（座長） 2023 年 8 月 31 日 Web DKD の病態を考慮した糖尿病診療 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	Sakura CKD Joint Conference 2023 年 9 月 8 日 千葉県佐倉市 腎性貧血治療における中枢性甲状腺機能低下症 面大地

講演会	名 :	相模原大和 CKD 医療連携講演会
開催	日 :	2023 年 9 月 13 日
場所	所 :	Web
講演	名 :	より良い CKD 診療を探る ～ SGLT2 阻害薬への期待～
講演	者 :	藤井隆之
講演会	名 :	第 6 回腎疾患と代謝疾患を考える会
開催	日 :	2023 年 9 月 22 日
場所	所 :	千葉県成田市
講演	名 :	安全性を考慮した IgA 腎症の効果的な治療法 ～ monthly steroid pulse 治療の有用性～
講演	者 :	藤井隆之
講演会	名 :	CKD エキスパートセミナー
開催	日 :	2023 年 9 月 27 日
場所	所 :	Web
講演	名 :	CKD トータルケアを考える
講演	者 :	藤井隆之
講演会	名 :	Core Symposium 2023 in Chiba・Saitama ～ To conquer Kidney Disease ～ (座長)
開催	日 :	2023 年 10 月 3 日
場所	所 :	千葉県千葉市
講演	名 :	地域から透析導入を減らす戦略
講演	者 :	藤井隆之
講演会	名 :	千葉県腎疾患対策 Web 講演会 2023 ～腎臓病療養指導士制度を活用した今後の腎疾患対策について～
開催	日 :	2023 年 10 月 12 日
場所	所 :	千葉県千葉市
講演	名 :	腎専門職が知っておくべき CKD 治療に効果的な薬剤について
講演	者 :	藤井隆之
講演会	名 :	慢性腎臓病予防講演会
開催	日 :	2023 年 11 月 6 日
場所	所 :	千葉県佐倉市
講演	名 :	腎臓病を知って守ろう
講演	者 :	藤井隆之
講演会	名 :	CRM Forum
開催	日 :	2023 年 11 月 28 日
場所	所 :	千葉県千葉市
講演	名 :	より良い DKD 治療戦略を考える
講演	者 :	藤井隆之
講演会	名 :	これからの電解質管理を考える会
開催	日 :	2023 年 11 月 29 日
場所	所 :	千葉県成田市
講演	名 :	CKD 治療戦略の中での高カリウム血症対策
講演	者 :	藤井隆之
講演会	名 :	CKD 医療連携セミナー (座長)
開催	日 :	2023 年 12 月 7 日
場所	所 :	千葉県佐倉市
講演	者 :	藤井隆之

講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 3 回印西・佐倉・成田 DM トータルケアを考える会 2023 年 12 月 9 日 千葉県成田市 初診時には価値観のすれ違いが見られた 2 型糖尿病の臨床検討 総合司会 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	みんなで考える CKD 診療 2023 年 12 月 12 日 Web CKD 診療における疑問を解消する 症例提示とパネリスト 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	2 型糖尿病合併慢性腎臓病のマネジメント ー地域医療連携を踏まえてー（座長） 2023 年 12 月 21 日 千葉県佐倉市 糖尿病関連腎臓病の治療の現状：MR 拮抗薬のエビデンスとベネフィット をどのように生かすか 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	血液透析患者における高血圧・心不全を考える会 2024 年 1 月 12 日 千葉県千葉市 (Web) 血液透析患者における高血圧・心不全治療の課題とこれから 司会 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	血液透析患者における高血圧・心不全を考える会 2024 年 1 月 12 日 千葉県千葉市 (Web) 血液透析患者の血圧・心不全管理 ARNI の可能性 田中宏明
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	糖尿病性腎症の発症予防を考える会 2024 年 2 月 15 日 千葉県佐倉市 より良い DKD 治療戦略を考える 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	第 76 回佐倉市薬剤師セミナー 2024 年 3 月 6 日 千葉県佐倉市 保存期から透析期にかけての CKD - MBD 管理のポイント 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	成田 CKD セミナー 2024 年 3 月 12 日 千葉県成田市 地域で取り組む CKD 診療 ～ CKD ガイドライン 2023 を踏まえて～ 藤井隆之
講 開 場 講	演 催 演	会 演	名： 日： 所： 名： 者：	テルモ PD Web セミナー 2024 年 3 月 21 日 千葉県千葉市 腹膜透析 - 聖隷佐倉市民の場合 - 寺崎紀子

講演会	名：	CKD-MBD Symposium
開催	日：	2024 年 3 月 22 日
場所	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	CKD-MBD のトータルマネジメント
講演	者：	藤井隆之

講演会	名：	CKD-MBD オンラインセミナー
開催	日：	2024 年 3 月 28 日
場所	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	CKD-MBD のトータルマネジメント
講演	者：	藤井隆之

【呼吸器内科】

『講演』

講演会	名：	Severe Asthma Expert Seminar
開催	日：	2023 年 4 月 18 日
場所	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	重症喘息の複雑性から考える新たな治療戦略 －抗 TSLP 抗体テゼスパイアの使い方－
講演	者：	山岸一貴

講演会	名：	テゼスパイア 東日本 WEB セミナー Tezspire SmiLe for Patient
開催	日：	2023 年 4 月 25 日
場所	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	重症喘息の複雑性から考える新たな治療戦略 －抗 TSLP 抗体テゼスパイアの使い方－
講演	者：	山岸一貴

講演会	名：	喘息 WEB 講演会 (GSK)
開催	日：	2023 年 6 月 13 日
場所	所：	千葉県千葉市
講演	名：	気管支喘息プライマリケアエッセンス 「なぜ私が初診で3剤吸入薬を投与するのか？」 喘息吸入薬の導入・選択・吸入指導と共に
講演	者：	山岸一貴

講演会	名：	Severe Asthma WEB Seminar(GSK)
開催	日：	2023 年 10 月 10 日
場所	所：	千葉県千葉市
講演	名：	重症喘息の病態を考慮した治療 ～メボリズムの導入ポイントと位置付け～
講演	者：	山岸一貴

講演会	名：	サノフィ社内レクチャー
開催	日：	2023 年 10 月 20 日
場所	所：	千葉県千葉市
講演	名：	重症喘息治療について
講演	者：	山岸一貴

講 演 会	名 :	喘息 WEB 講演会 (GSK)
開 催	日 :	2023 年 10 月 27 日
場 所	所 :	千葉県千葉市
講 演	名 :	気管支喘息の最新の診断と治療 ～吸入薬の選び方～
講 演	者 :	山岸一貴

【循環器科】

『講演』

講 演 会	名 :	循環器疾患 WEB セミナー
開 催	日 :	2023 年 5 月 18 日
場 所	所 :	Web
講 演	名 :	脳卒中を予防するために循環器内科がすべき薬物療法と侵襲的治療
講 演	者 :	徳山権一

講 演 会	名 :	心不全治療 UP TO DATE (座長)
開 催	日 :	2023 年 6 月 30 日
場 所	所 :	Web
講 演	名 :	急性心不全 up-to-date
講 演	者 :	徳山権一

講 演 会	名 :	Pharmacist Seminar ～心不全診療を考える～
開 催	日 :	2023 年 12 月 11 日
場 所	所 :	千葉県佐倉市
講 演	名 :	当院における心不全薬物治療の現状
講 演	者 :	徳山権一

【緩和医療科】

『論文』

雑 誌	名 :	Annals of Palliative Medicine
題	名 :	Increased pain after palliative radiotherapy: not only due to cancer progression.
著 者	者 :	Murakami S, Kitani A, Kubota T, Uezono Y.
巻、ページ、年度	度 :	2024 Jan;13 (1) :18-21.

『講義』

講 義	名 :	緩和ケア研修会
開 催	日 :	2023 年 9 月 30 日
場 所	所 :	東京慈恵会医科大学附属第三病院
演 題	題 :	コミュニケーション、がん疼痛事例検討、療養場所の選択と地域連携 (グループワーク協力)
演 者	者 :	村上敏史

講 開 場 演 演	義 催	名： 緩和ケア研修会 日： 2023 年 10 月 29 日 所： 国保多古中央病院 題： 療養場所の選択と地域連携、コミュニケーション、がん疼痛事例検討 (グループワーク協力) 者： 村上敏史
講 開 場 演 演	義 催	名： 緩和ケア研修会 日： 2023 年 12 月 9 日 所： 東京慈恵会医科大学附属第三病院 題： コミュニケーション、がん疼痛事例検討、療養場所の選択と地域連携 (グループワーク協力) 者： 村上敏史
講 開 場 演 演	義 催	名： 緩和ケア研修会 日： 2024 年 1 月 27 日 所： 独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院 題： e-learning の復習・質問、ファシリテーター 者： 村上敏史
講 開 場 演 演	義 催	名： 緩和ケア研修会 日： 2024 年 2 月 4 日 所： 独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院 題： 全人的苦痛に対する緩和ケア、ファシリテーター 者： 村上敏史

『講演』

講 開 場 講 講	演 催 演 演	名： Breast Cancer Web Seminar in Sakura 日： 2023 年 6 月 13 日 所： ウィンストンホテル・ユーカリ 名： 診療連携 スムーズな関係をつくるには 者： 村上敏史
講 開 場 講	演 催 演	名： 第 13 回緩和ケア病棟講習会(座長) 日： 2024 年 2 月 29 日 所： 聖隷佐倉市民病院 者： 村上敏史

『その他』

そ 日 氏	の	他： 千葉県がん診療連携協議会 緩和医療専門部会委員 付： 令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日 名： 村上 敏史
そ 氏	の	他： 日本緩和医療学会 専門医症例報告書事前審査委員 名： 村上 敏史
そ 氏	の	他： 日本緩和医療学会学会誌 論文査読 名： 村上 敏史

そ の 他 : Journal of Palliative Medicine 論文査読
氏 名 : 村上 敏史

そ の 他 : Annals of Palliative Medicine 論文査読
氏 名 : 村上 敏史

【外科】

『国内学会』

学 会 名 : 第 5 回千葉肝胆膵サージカルフォーラム
開 催 日 : 2023 年 5 月 20 日
場 所 : 千葉県千葉市
演 題 : 胆管内発育型肝細胞癌の 2 切除例
演 者 : 小池直人、大島祐二、武内俊章、岡田晃一郎、池口文香、有田誠司、
笹井大督

学 会 名 : 第 96 回千葉県外科医会
開 催 日 : 2023 年 7 月 22 日
場 所 : 千葉県千葉市
演 題 : 食道裂孔ヘルニア嵌頓に伴う幽門狭窄に対して腹腔鏡下ヘルニア修復術
演 者 : 岡田晃一郎、小池直人、池口文香、武内俊章、久保田亨、有田誠司

学 会 名 : 第 59 回日本胆道学会
開 催 日 : 2023 年 9 月 14 日
場 所 : 北海道札幌市
演 題 : 孤立性再発胆道癌に対する放射線療法の経験
演 者 : 小池直人、大島祐二、川上浩幸

学 会 名 : 第 85 回臨床外科学会
開 催 日 : 2023 年 11 月 16 日
場 所 : 岡山県岡山市
演 題 : 当科における消化管 GIST に対する手術加療例の検討(ワークショップ)
演 者 : 小池直人、大島祐二、武内俊章、岡田晃一郎、池口文香、有田誠司、
笹井大督

学 会 名 : 第 85 回臨床外科学会(座長)
開 催 日 : 2023 年 11 月 16 日
場 所 : 岡山県岡山市
演 題 : 一般演題(示説) 32「胆嚢・膵臓・脾臓・門脈⑬」
演 者 : 小池直人、砂川宏樹

学 会 名 : 第 19 回がんワクチン研究会
開 催 日 : 2023 年 12 月 17 日
場 所 : 東京都千代田区
演 題 : 当院における自家がんワクチン療法の経験
演 者 : 小池直人、大島祐二、武内俊章、岡田晃一郎、池口文香、有田誠司、
岩淵康雄

学 開 場 演 演	会 催	名： 印旛市郡外科医会 特別講演座長 日： 2024 年 2 月 15 日 所： 千葉県佐倉市 題： 高度進行大腸癌に対する治療戦略 者： 有田誠司、大平学先生(千葉大学食道胃腸外科診療教授)
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 29 回千葉内視鏡外科研究会 日： 2024 年 2 月 17 日 所： 千葉県千葉市 題： 胃 GIST に対する腹腔鏡切除の治療経験 者： 池口文香、小池直人、有田誠司、武内俊章、岡田晃一郎、笹井大督
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 29 回千葉内視鏡外科研究会(座長) 日： 2024 年 2 月 17 日 所： 千葉県千葉市 題： セッション IV 下部消化管、泌尿器科 者： 小池直人、神谷直人
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 98 回千葉県外科医会 日： 2024 年 3 月 9 日 所： 千葉県千葉市 題： 肝硬変に合併した被嚢性腹膜硬化症の 1 例 者： 酒井清将、小池直人、池口文香、大島祐二、武内俊章、岡田晃一郎、有田誠司

『講演』

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会	名： VTE Live Symposium 日： 2023 年 7 月 6 日 所： 千葉県成田市 名： 当科における VTE 症例の経験 者： 小池直人
講 開 場 講 講	演 催 演 演	会	名： 千葉北 BTC Seminar 日： 2024 年 3 月 1 日 所： 千葉県千葉市 名： オープニングリマークス 者： 小池直人

『その他』

そ 日 場 題 氏	の	他： 月刊 医療経営士 付： 2023 年 5 月号 所： P1-3 名： 教えて医療経営士の育て方 名： 有田誠司、伊藤公隆
そ 日 場 題 氏	の	他： 月刊 医療経営士 付： 2023 年 7 月号 所： P34-39 名： 医療経営士が考える地域資源との共創による健「幸」まちづくり 名： 有田誠司、池田孝行

そ 日 場 題 氏	の	他： 月刊 医療経営士 付： 2023 年 11 月号 所： P22-23 名： 各診療科の責任者を集めて経営報告と軌道修正を繰り返し病院の赤字経営脱却に貢献 名： 有田誠司
---------------------------	---	---

【乳腺外科】

『国内学会』

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 31 回日本乳癌学会学術総会 日： 2023 年 6 月 29 日～7 月 1 日 所： 神奈川県横浜市 題： Foundation One CDx で HER2 過剰発現の結果を得た BRCA2 遺伝子に病的バリエントを有する HER2 陰性再発乳癌の 1 例 者： 木谷哲、川島太一、笹井大督、富田歩子、宮内充
---------------------------	--------	--

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 31 回日本乳癌学会学術総会 日： 2023 年 6 月 29 日～7 月 1 日 所： 神奈川県横浜市 題： HER2 陽性早期乳癌に対するペルツズマブを含む術前薬物療法の検討 者： 川島太一、木谷哲、有田誠司、富田歩子、笹井大督、宮内充
---------------------------	--------	---

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 36 回日本放射線腫瘍学会学術大会 日： 2023 年 11 月 30 日～12 月 2 日 所： 神奈川県横浜市 題： T4 食道癌に対する放射線治療成績 者： 惣田梨加奈、高橋健夫、山野貴史、早川豊和、齊藤美音、金森信祐、町田史晴、松本優介、森田大也、上野周一、内海暢子、西村敬一郎、本戸幹人、村田修、木谷哲
---------------------------	--------	---

学 開 場 演 演	会 催	名： 印旛郡市外科医会 日： 2024 年 2 月 15 日 所： 千葉県佐倉市 題： エリブリンにより 3 年以上 PR を維持した BRCA2 病的バリエント陽性再発乳癌の 1 例 者： 松浦靖晃、川島太一、有田誠司
---------------------------	--------	--

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名： 中外製薬社内研修会 日： 2024 年 3 月 11 日 所： 千葉県千葉市 題： HER2 陽性早期乳癌に対する術前化学療法について 者： 川島太一
---------------------------	--------	--

『講演』

講演会	名：	がん治療と緩和ケアセミナー～乳がん患者さんの症状緩和を考える～
開催	日：	2023 年 5 月 16 日
場所	所：	Web
講演	名：	乳がん診療と緩和ケア
講演	者：	木谷哲

講演会	名：	Breast Cancer Symposium 2023
開催	日：	2023 年 9 月 5 日
場所	所：	Web
講演	名：	乳がん診療におけるがん遺伝子パネル検査を考える (Discussion)
講演	者：	地曳典恵、南村真紀、黒住献、増田紘子、木谷哲

講演会	名：	Daiichi-Sankyo Next Generation Forum
開催	日：	2023 年 9 月 23 日
場所	所：	Web
講演	名：	乳がん治療と緩和ケアの両立
講演	者：	木谷哲

講演会	名：	市民公開講座
開催	日：	2023 年 11 月 18 日
場所	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	わが国のがんの現状とがん医療の進歩について
講演	者：	木谷哲

講演会	名：	Chugai Breast Cancer Symposium 2024
開催	日：	2024 年 2 月 14 日
場所	所：	千葉県成田市
講演	名：	皮下注剤への期待 ～時間毒性の観点より～
講演	者：	地曳典恵、川島太一

【呼吸器外科】

『講演』

講演会	名：	高齢者の肺癌診療を考える会 (座長)
開催	日：	2024 年 2 月 1 日
場所	所：	千葉県佐倉市
講演	名：	高齢がん患者に対する臨床的諸問題
講演	者：	眞崎義隆

【整形外科】

『論文』

- 雑誌名 : Spine Surg Relat Res
題名 : Impact of Brace-Related Stress on Brace Compliance in Adolescent Idiopathic Scoliosis: A Single-Center Comparative Study Using Objective Compliance Measurement and Brace-Related Stress
著者 : Asada T, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Nakayama K, Inage K, Shiga Y, Akazawa T, Minami S, Ohtori S, Koda M, Yamazaki M.
巻、ページ、年度 : 13;7(4):377-384. 2023
- 雑誌名 : Spine (Phila Pa 1976)
題名 : Machine learning algorithms for predicting Cobb angle beyond 25 degrees in female adolescent idiopathic scoliosis patients
著者 : Ohyama S, Maki S, Kotani T, Ogata Y, Sakuma T, Iijima Y, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Inoue M, Arai T, Toshi N, Tokeshi S, Okuyama K, Tashiro S, Suzuki N, Eguchi Y, Orita S, Minami S, Ohtori S.
巻、ページ、年度 : Online ahead of print 2024
- 雑誌名 : Spine Surg Relat Res
題名 : Median Arcuate Ligament and Origin of the Celiac Artery Proximity Change in Patients after Surgery to Correct Adult Spinal Deformity: Potential Risk Factors for Acute Celiac Artery Compression Syndrome
著者 : Ohyama S, Kotani T, Iijima Y, Sunami T, Okuwaki S, Sakuma T, Ogata Y, Iwata S, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S.
巻、ページ、年度 : 9;7(6):512-518. 2023
- 雑誌名 : World Neurosurg
題名 : Incidence and Potential Risk Factors of Superior Mesenteric Artery Syndrome After Spinal Corrective Surgery in Patients with Adult Spinal Deformity
著者 : Ohyama S, Kotani T, Iijima Y, Okuwaki S, Sunami T, Iwata S, Sakuma T, Ogata Y, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S.
巻、ページ、年度 : 180:e591-e598. 2023
- 雑誌名 : Cureus
題名 : The Association Between Corrective Surgery for Adult Spinal Deformity and Serum Levels of Hepatobiliary Enzymes
著者 : Sakashita K, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Okuyama K, Ohyama S, Minami S, Ohtori S, Koda M, Yamazaki M.
巻、ページ、年度 : 15(8):e43444. 2023
- 雑誌名 : World Neurosurg
題名 : Anatomical Analysis of the S1 Neural Foramen Using Three-Dimensional Computed Tomography Imaging: Insights for Effective S1 Nerve Root Block
著者 : Suzuki N, Kotani T, Sunami T, Sakashita K, Okuwaki S, Ohyama S, Iwata S, Iijima Y, Sakuma T, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S.
巻、ページ、年度 : 181:e459-e467. 2024

雑誌名 : Asian Spine Journal
 題名 : Analysis of Rod Fracture at the Lumbosacral Junction Following Surgery for Adult Spinal Deformity
 著者 : Tsuyoshi Sakuma, Toshiaki Kotani, Yasushi Iijima, Tsutomu Akazawa, Seiji Ohtori, Shohei Minami
 巻、ページ、年度 : 2024 Feb;18(1):79-86.

雑誌名 : Asian Spine J
 題名 : Assessment of the Initial Diagnostic Accuracy of a Fragility Fracture of the Sacrum: A Study of 56 Patients
 著者 : Umeda R, Iijima Y, Yamakawa N, Kotani T, Sakuma T, Kishida S, Ueno K, Kajiwarada, Akazawa T, Shiga Y, Minami S, Ohtori S, Nakagawa K.
 巻、ページ、年度 : 17(6):1066-1073. 2023

雑誌名 : BMC Musculoskelet Disord
 題名 : Instrumentation failure following pediatric spine deformity growth-sparing surgery using traditional growing rods or vertical expandable prosthetic titanium ribs
 著者 : Yokogawa N, Demura S, Ohara T, Tauchi R, Takimura K, Yanagida H, Yamaguchi T, Watanabe K, Suzuki S, Uno K, Suzuki T, Watanabe K, Kotani T, Nakayama K, Oku N, Taniguchi Y, Murakami H, Yamamoto T, Kawamura I, Takeshita K, Sugawara R, Kikkawa I, Kawakami N.
 巻、ページ、年度 : 8;25(1):115. 2024

雑誌名 : Spine Surgery and Related Research
 題名 : The optimal patient position on the surgical table for lateral lumbar interbody fusion in adult spinal deformity using three-dimensional computed tomography: A retrospective study
 著者 : Yosuke Ogata, Toshiaki Kotani, Takahiro Sunami, Shun Okuwaki, Shuhei Ohyama, Yasushi Iijima, Kotaro Sakashita, Shuhei Iwata, Kohei Okuyama, Tsuyoshi Sakuma, Tsutomu Akazawa, Shohei Minami, Seiji Ohtori, Masao Koda, Masashi Yamazaki
 巻、ページ、年度 : 2024; 8(2): 181-187

雑誌名 : 東京都予防医学協会年報 2023 年版
 題名 : 脊柱側弯症検診の実施成績
 著者 : 南昌平
 巻、ページ、年度 : 52、35-39、2023

雑誌名 : 東京都予防医学協会年報 2024 年版
 題名 : 脊柱側弯症検診の実施成績
 著者 : 南昌平
 巻、ページ、年度 : 53、35-41、2024

雑誌名 : 千葉県学校保健集団検診報告書
 題名 : 脊柱側弯症検診
 著者 : 南昌平
 巻、ページ、年度 : 令和 3 年度、7-8、2023

雑誌名 : 千葉県学校保健集団検診報告書
 題名 : 脊柱側弯症検診
 著者 : 南昌平
 巻、ページ、年度 : 令和 4 年度、7-8、2024

- 雑誌名：ミレニアム 千葉県医師会
 題名：ジョギング・ランニングの効用
 著者：南昌平
 巻、ページ、年度：85: 5、2023
- 雑誌名：脊椎脊髄ジャーナル
 題名：【わかればみえる！脊椎手術術野へのアプローチ】
 胸腰椎移行部へのアプローチ
 著者：小谷俊明
 巻、ページ、年度：36 巻 10 号 Page703-707(2023.11)
- 雑誌名：日本整形外科学会雑誌
 題名：骨粗鬆症性脆弱性骨折の二次骨折予防における病診連携の役割
 急性期病院を中心とした骨粗鬆症における地域医療連携の現状と未来
 著者：小谷俊明、岸田俊二、飯島靖
 巻、ページ、年度：97 巻 9 号 Page650-653(2023.09)
- 雑誌名：MEDICAL REHABILITATION
 題名：【知っておくべき！治療用装具・更生用補装具の知識の整理】
 側彎症用装具
 著者：小谷俊明、朝田智之、木村弘美
 巻、ページ、年度：292 号 Page15-20(2023.09)
- 雑誌名：整形・災害外科
 題名：【脊椎脊髄領域の画像診断－最新の知識と進歩】小児脊椎脊髄疾患の
 画像診断：実践編 小児脊柱変形に対する画像検査の選択
 著者：小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、南昌平
 巻、ページ、年度：66 巻 5 号 Page615-620(2023.04)
- 雑誌名：関節外科
 題名：【側彎症の治療アップデート】思春期特発性側彎症の外観上の問題点と
 患者心理
 著者：小谷俊明、朝田智之、佐久間毅、飯島靖、南昌平
 巻、ページ、年度：42 巻 4 号 Page400-404(2023.04)
- 雑誌名：肩関節
 題名：鏡視下上腕二頭筋長頭腱固定術の手技による成績の比較
 著者：山田有徳、高橋憲正、松木圭介、佐々木裕、上田祐輔、星加昭太、
 濱田博成、松葉友幸、上條秀樹、玉置大恵、出口友彦、菅谷啓之、
 落合信靖
 巻、ページ、年度：第 47 巻第 2 号 :417-421, 2023

『国内学会』

- 学会名：第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会
 開催日：2023 年 4 月 13 日～15 日
 会場所：北海道札幌市
 演題：成人脊柱変形矯正手術の腰仙椎固定における術後ロッド折損の因子の検討
 演者：佐久間毅、小谷俊明、飯島靖、小方陽介、大山秀平、岩田秀平、
 赤澤努、大鳥精司、南昌平

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 日： 2023 年 4 月 13 日～ 15 日 所： 北海道札幌市 題： 成人脊柱変形手術における同種血輸血に関するリスクファクターの検討 者： 飯島靖、小谷俊明、佐久間毅、中山敬太、赤澤努、南昌平、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 95 回日本整形外科学会学術総会 日： 2023 年 5 月 11 日～ 14 日 所： 神奈川県横浜市 題： 骨粗鬆症リエゾンサービスの実際とチーム作りのヒント 者： 小谷俊明、岸田俊二、飯島靖、稲毛一秀、佐久間毅、上野啓介、梶原大輔、志賀康浩、南昌平、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 95 回日本整形外科学会学術総会 日： 2023 年 5 月 11 日～ 14 日 所： 神奈川県横浜市 題： Risk factors for allogenic transfusion in adult spinal deformity surgery 者： Yasushi Iijima, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma, Keita Nakayama, Tsutomu Akazawa, Shohei Minami, Seiji Ohtori
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 36 回自己血輸血・周術期輸血学会(座長) 日： 2023 年 6 月 16 日～ 17 日 所： 広島県広島市 題： 一般演題 4 者： 小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 13 回最小侵襲脊椎治療学会(MIST 学会) 日： 2023 年 6 月 23 日～ 24 日 所： 宮城県仙台市 題： 脆弱性骨盤骨折の MRI 所見における予後予測 者： 森岡勇貴、大田光俊、石川哲大
学 開 場 演 演	会 催	名： 日本スポーツ整形外科学会 2023 日： 2023 年 6 月 29 日～ 7 月 1 日 所： 広島県広島市 題： 女子野球選手の投球側肩関節後方不安定症に対し鏡視下手術を施行した 1 例 者： 山田有徳、高橋憲正、松木圭介、佐々木裕、上田祐輔、星加昭太、濱田博成、松葉友幸、上條秀樹、玉置大恵、落合信靖
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 36 回日本臨床整形外科学会学術集会(座長) 日： 2023 年 7 月 16 日～ 17 日 所： 千葉県千葉市 題： シンポジウム1 骨粗鬆症を伴う大腿骨近位部骨折手術後の地域連携 者： 小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 36 回日本臨床整形外科学会学術集会 日： 2023 年 7 月 16 日～ 17 日 所： 千葉県千葉市 題： スポーツ選手の上腕骨遠位骨髄浮腫に対して体外衝撃波治療を施行した 2 例 者： 山田有徳、高橋憲正、松木圭介、佐々木裕、上田祐輔、星加昭太、喜友名翼、濱田博成、松葉友幸、上條秀樹、玉置大恵、出口友彦、原口亮、落合信靖

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 25 回骨粗鬆症学会(座長) 日： 2023 年 9 月 29 日～ 10 月 1 日 所： 愛知県名古屋市 題： 一般演題 7 者： 小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会 日： 2023 年 10 月 19 日～ 20 日 所： 茨城県つくば市 題： 3DCT 解析による成人脊柱変形における側方経路椎体間固定術時の患者 固定体位角度の検討 者： 小方陽介、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、奥山晃平、大山秀平、 岩田秀平、赤澤努、南昌平、大鳥精司、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 50 回日本股関節学会学術集会 日： 2023 年 10 月 27 日～ 10 月 28 日 所： 福岡県福岡市 題： 当院における大腿骨近位部骨折患者に対する緊急整復固定 / 挿入加算 の現状 者： 山田有徳、岸田俊二、菊屋慶一郎
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 57 回日本側彎症学会学術集会 日： 2023 年 11 月 10 日～ 11 日 所： 大阪府大阪市 題： 成人脊柱変形手術前後における腹腔動脈および上腸間膜動脈狭窄の変化 に関する検討 者： 飯島靖、小谷俊明、佐久間毅、赤澤努、南昌平、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 57 回日本側彎症学会学術集会 日： 2023 年 11 月 10 日～ 11 日 所： 大阪府大阪市 題： Relationship between the onset of menarche and curve progression of adolescent idiopathic scoliosis -A single-center retrospective longitudinal study of 1090 girls- 者： Yosuke Ogata, Toshiaki Kotani, Shuhei Ohyama, Tsuyoshi Sakuma, Yasushi Iijima, Shun Okuwaki, Tsutomu Akazawa, Shohei Minami, Masashi Yamazaki
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 32 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会(座長) 日： 2023 年 11 月 24 日～ 25 日 所： 鳥取県米子市 題： 一般講演 39 者： 小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 32 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会 日： 2023 年 11 月 24 日～ 25 日 所： 鳥取県米子市 題： 成人脊柱変形手術前後における腹腔動脈および上腸間膜動脈狭窄の 変化に関する検討 者： 飯島靖、小谷俊明、佐久間毅、赤澤努、南昌平、大鳥精司

学 開 場 演 演	会 催	名： 第 32 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会 日： 2023 年 11 月 24 日～ 25 日 所： 鳥取県米子市 題： 思春期特発性側弯症のカーブ進行と初潮時期の関係 者： 小方陽介、小谷俊明、大山秀平、佐久間毅、飯島靖、奥脇駿、 坂下孝太郎、角南貴大、岩田秀平、水谷雅哉、赤澤努、南昌平、 大鳥精司、國府田正雄、山崎正志
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 36 回日本肘関節学会学術集会 日： 2024 年 3 月 1 日～ 2 日 所： 北海道札幌市 題： スポーツ選手の上腕骨遠位骨髄浮腫に対して体外衝撃波治療を施行 した 3 例 者： 山田有徳、高橋憲正、松木圭介、星加昭太、喜友名翼、松葉友幸、 上條秀樹、玉置大恵、伊勢昇平、落合信靖
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 14 回日本成人脊柱変形学会(座長) 日： 2024 年 3 月 23 日 所： 宮城県仙台市 題： 主題 者： 小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 14 回日本成人脊柱変形学会 日： 2024 年 3 月 23 日 所： 宮城県仙台市 題： 成人脊柱変形患者における正中弓状靱帯 overlap に関する検討 者： 飯島靖、小谷俊明、佐久間毅、赤澤努、南昌平、大鳥精司
学 開 場 演 演	会 催	名： 第 14 回日本成人脊柱変形学会 日： 2024 年 3 月 23 日 所： 宮城県仙台市 題： 脊椎術後インプラント折損の評価に関する画像的考察 －実際には折損がなかった 3 例－ 者： 小方陽介、小谷俊明、佐久間毅、飯島靖、水谷雅哉、赤澤努、南昌平、 大鳥精司、國府田正雄、山崎正志

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名： 千葉県病院薬剤師会 日： 2023 年 7 月 14 日 所： 千葉県千葉市 題： 多職種連携で行う大腿骨近位部骨折治療マネジメント 者： 岸田俊二
講 開 場 演 演	義 催	名： 魚沼ほね元気研究会 日： 2023 年 11 月 9 日 所： 新潟県南魚沼市 題： 地域連携と多職種連携で行う大腿骨近位部骨折治療マネジメント 者： 岸田俊二

講 開 場 演 演	義 催	名： 千葉大学医学部ユニット講義 日： 2023 年 12 月 21 日 所： 千葉大学医学部講堂 題： 側弯症について 者： 小谷俊明
講 開 場 演 演	義 催	名： 臨床レクチャー 日： 2024 年 2 月 16 日 所： Web 題： 臨床レクチャー 者： 飯島靖
講 開 場 演 演	義 催	名： 横浜北部川崎北部骨粗鬆症治療地域連携フォーラム 日： 2024 年 3 月 12 日 所： 神奈川県横浜市 題： 大腿骨近位部骨折治療マネジメント 者： 岸田俊二

『講演』

講 開 場 講	演 催	名： 第 13 回最小侵襲脊椎治療学会 (MIST 学会) ランチョンセミナー 日： 2023 年 6 月 24 日 所： 宮城県仙台市
講	演	名： 骨粗鬆症に対する地域多職種連携と脊椎変形矯正手術の合併症対策～ 内臓血行障害を起こさないために知っておきたいこと 者： 小谷俊明
講 開 場 講	演 催	名： 松戸市立総合医療センター講演会 日： 2023 年 7 月 21 日 所： 千葉県松戸市
講	演	名： 骨粗鬆症リエゾンサービスの実際とチーム運営のコツ 者： 小谷俊明
講 開 場 講	演 催	名： 第 20 回千葉小児整形外科セミナー 日： 2023 年 7 月 23 日 所： 千葉県千葉市
講	演	名： 側弯症について - 思春期特発性側弯症を中心に - 者： 佐久間毅
講 開 場 講	演 催	名： 香川県臨床整形外科医会講演会 日： 2023 年 7 月 26 日 所： 香川県高松市
講	演	名： 骨粗鬆症地域多職種連携と側弯症の現状 者： 小谷俊明
講 開 場 講	演 催	名： 佐倉四街道神経疼痛医療連携セミナー 日： 2023 年 8 月 29 日 所： 千葉県佐倉市
講	演	名： 神経障害性疼痛に対する治療と地域連携 者： 小谷俊明

講演会場	開催	名 :	特別国民体育大会千葉県選手団結団式講演会
講演会場	開催	日 :	2023 年 9 月 13 日
講演会場	開催	所 :	千葉県千葉市
講演会場	開催	名 :	国体におけるドーピング検査
講演会場	開催	者 :	南昌平
講演会場	開催	名 :	第 18 回千葉・筑波脊椎手術手技講習会
講演会場	開催	日 :	2023 年 10 月 28 日
講演会場	開催	所 :	千葉県千葉市
講演会場	開催	名 :	LIF にも役立つ若手医師のための胸腰椎前方アプローチ
講演会場	開催	者 :	小谷俊明
講演会場	開催	名 :	第 66 回杉並区学校保健会総会講演会
講演会場	開催	日 :	2023 年 11 月 9 日
講演会場	開催	所 :	杉並区役所
講演会場	開催	名 :	脊柱側弯症学校検診の最近の動向ー機器を用いた検診と治療方法について
講演会場	開催	者 :	南昌平
講演会場	開催	名 :	次世代型骨粗鬆症地域連携セミナー
講演会場	開催	日 :	2023 年 11 月 16 日
講演会場	開催	所 :	千葉県佐倉市
講演会場	開催	名 :	骨粗鬆症性椎体骨折の治療戦略と地域連携
講演会場	開催	者 :	飯島靖
講演会場	開催	名 :	千葉県脊柱側弯症講演会
講演会場	開催	日 :	2023 年 11 月 18 日
講演会場	開催	所 :	千葉県千葉市
講演会場	開催	名 :	側弯症について
講演会場	開催	者 :	小谷俊明
講演会場	開催	名 :	オスタバロ® 発売 1 周年記念 Web セミナー in 千葉
講演会場	開催	日 :	2024 年 2 月 1 日
講演会場	開催	所 :	千葉県千葉市 (Web)
講演会場	開催	名 :	整形外科医から見た骨粗鬆症の治療戦略
講演会場	開催	者 :	小谷俊明
講演会場	開催	名 :	千葉県がんロコモ地域連携シンポジウム
講演会場	開催	日 :	2024 年 2 月 3 日
講演会場	開催	所 :	千葉県千葉市
講演会場	開催	名 :	当院の現状について
講演会場	開催	者 :	佐久間毅
講演会場	開催	名 :	骨粗鬆症性骨折連鎖を考える会
講演会場	開催	日 :	2024 年 3 月 7 日
講演会場	開催	所 :	千葉県佐倉市
講演会場	開催	名 :	骨粗鬆症性椎体骨折の治療戦略と地域連携
講演会場	開催	者 :	飯島靖
講演会場	開催	名 :	MORIOKA OLS MEETING
講演会場	開催	日 :	2024 年 3 月 13 日
講演会場	開催	所 :	岩手県盛岡市
講演会場	開催	名 :	骨粗鬆症に対する OLS の振り返りとアップデート
講演会場	開催	者 :	小谷俊明

『その他』

その他 氏	の	他： 脊椎手術パーフェクト 付： 2024 年 2 月 26 日 所： 羊土社 名： 2-3) 胸腰椎椎体骨折に対する前方固定術(外傷、骨粗鬆症性椎体骨折) 名： 小谷俊明
----------	---	--

その他 氏	の	他： 脊椎手術パーフェクト 付： 2024 年 2 月 26 日 所： 羊土社 名： 6-1) 術中 CT やナビゲーションを使用した手術 名： 佐久間毅
----------	---	---

その他 氏	の	他： レジデントのための整形外科診療下肢 付： 2024 年 3 月 9 日 所： 日本医事新報社 名： 1章ー2 股関節の診察の実際 名： 岸田俊二
----------	---	---

【小児科】

『講義』

講義 開場 演 演	義 催	名： 研修医勉強会 日： 2023 年 6 月 29 日 所： 聖隷佐倉市民病院 題： こどものバイタルサインと緊急対応 者： 石倉麻里奈
--------------------	--------	---

講義 開場 演 演	義 催	名： BLS 勉強会 日： 2024 年 2 月 16 日 所： 聖隷佐倉市民病院 題： 小児の BLS 者： 川村研
--------------------	--------	---

講義 開場 演 演	義 催	名： 発達障害勉強会 日： 2024 年 2 月 29 日 所： 聖隷佐倉市民病院 題： 小児の発達障害 者： 川村研
--------------------	--------	---

『講演』

講演 開場 講演 講演	演 催 演 演	名： 防災についての講演会 日： 2023 年 9 月 20 日 所： 聖隷佐倉市民病院 名： 災害医療と防災設備 台風を知る 者： 鈴木繁
----------------------	----------------------	--

講演会場	名 :	学校検尿結果説明会
開催	日 :	2023 年 11 月 16 日
場所	所 :	成田市役所大会議室
講演	名 :	こどもの検尿異常の見方
講演	者 :	川村研

『その他』

その日	他 :	自衛消防業務新規講習
場	付 :	2023 年 10 月 19 日～20 日
氏	所 :	千葉市消防総合センター
	名 :	鈴木繁

その日	他 :	研修医症例発表会
場	付 :	2024 年 3 月 11 日
題	所 :	聖隷佐倉市民病院
氏	名 :	急性腎障害を合併した小児ネフローゼ症候群の一例
	名 :	中野恵理佳、鈴木繁

その日	他 :	さくら通信
題	付 :	2023 年 6 月号
氏	名 :	舌下免疫療法について
	名 :	鈴木繁

その日	他 :	STaD
題	付 :	2023 年 6・7 月号
氏	名 :	こどもの発熱
	名 :	石倉麻里奈

【泌尿器科】

『論文』

雑誌	名 :	医工学治療
題	名 :	Irrigation-based surgical system: feasibility study on transvesical radical prostatectomy in a porcine model for future development of simple robotic system.

著者	者 :	Tatsuo Igarashi, Shinichi Sakamoto, Akinori Takei, Yukio Naya.
巻、ページ、年度	度 :	Vol.35,139-146, 2023.

雑誌	名 :	日本性感染症学会誌
題	名 :	千葉県における性感染症発生動向と経済指標の関連性
著者	者 :	五十嵐辰男
巻、ページ、年度	度 :	34 巻、1-3 頁、2023 年

『国内学会』

学会	名 :	第 110 回日本泌尿器科学会総会
開催	日 :	2023 年 4 月 1 日
場所	所 :	兵庫県神戸市

演 題： 前立腺癌の放射線照射治療の長期的観察における合併症の予測因子
演 者： 稲原昌彦

学 会 名： 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会
開 催 日： 2023 年 10 月 6 日
場 所： 北海道札幌市
演 題： 腹腔鏡下に修復した尿管坐骨孔ヘルニアの一例
演 者： 石塚直樹

学 会 名： 第 4 回日本泌尿器科学会千葉地方会学術集会
開 催 日： 2023 年 11 月 25 日
場 所： 千葉県千葉市
演 題： 千葉県の性感染症発生数と社会経済状況の類似性
演 者： 五十嵐辰男

看護部

『論文』

- | | | | | |
|----------|---|---|---|-------------------|
| 雑 | 誌 | 名 | : | 日本運動器看護学雑誌 |
| 題 | | 名 | : | 病院の未来・運動器の未来 |
| 著 | | 者 | : | 内田明子 |
| 巻、ページ、年度 | | | : | Vol.18,2023・P8-13 |
-
- | | | | | |
|----------|---|---|---|-------------------------|
| 雑 | 誌 | 名 | : | 看護教育 |
| 題 | | 名 | : | 治療とともに生きる人の望む暮らしの支援 |
| 著 | | 者 | : | 内田明子 |
| 巻、ページ、年度 | | | : | Vol.64 No.1,2023・P56-59 |
-
- | | | | | |
|----------|---|---|---|------------------------|
| 雑 | 誌 | 名 | : | JKA（日本腎臓病協会）Newsletter |
| 題 | | 名 | : | 腎臓病療養指導のポイント喫煙とCKD |
| 著 | | 者 | : | 内田明子 |
| 巻、ページ、年度 | | | : | 2023年6月発行 |

『国内学会』

- | | | | | |
|---|---|---|---|---------------------|
| 学 | 会 | 名 | : | 第66回日本腎臓学会学術総会 |
| 開 | 催 | 日 | : | 2023年6月9日～11日 |
| 場 | | 所 | : | 神奈川県横浜市 |
| 演 | | 題 | : | SY 腎臓病療養指導士介入の効果と検証 |
| 演 | | 者 | : | 内田明子、要伸也 |
-
- | | | | | |
|---|---|---|---|--------------------------------|
| 学 | 会 | 名 | : | 第66回日本腎臓学会学術総会 |
| 開 | 催 | 日 | : | 2023年6月9日～11日 |
| 場 | | 所 | : | 神奈川県横浜市 |
| 演 | | 題 | : | SY 保存的腎臓療法の実践と展望「CKMにおける看護の役割」 |
| 演 | | 者 | : | 内田明子 |
-
- | | | | | |
|---|---|---|---|------------------------|
| 学 | 会 | 名 | : | 第68回日本透析医学会学術集会・総会 |
| 開 | 催 | 日 | : | 2023年6月16日～18日 |
| 場 | | 所 | : | 兵庫県神戸市 |
| 演 | | 題 | : | 透析患者の健康寿命をどう捉えるか？／柴垣有吾 |
| 司 | | 会 | : | 内田明子 |
-
- | | | | | |
|---|---|---|---|--------------------------|
| 学 | 会 | 名 | : | 第68回日本透析医学会学術集会・総会 |
| 開 | 催 | 日 | : | 2023年6月16日～18日 |
| 場 | | 所 | : | 兵庫県神戸市 |
| 演 | | 題 | : | SY もっと自由に、心のままに ～男女共同参画～ |
| 演 | | 者 | : | 内田明子 他4名 |
-
- | | | | | |
|---|---|---|---|------------------------|
| 学 | 会 | 名 | : | 第68回日本透析医学会学術集会・総会 |
| 開 | 催 | 日 | : | 2023年6月16日～18日 |
| 場 | | 所 | : | 兵庫県神戸市 |
| 演 | | 題 | : | WS 末期腎不全緩和医療の診療ガイドへの模索 |
| 司 | | 会 | : | 内田明子 他4名 |

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 16 回千葉県糖尿病対策推進会議夏季学術講演会 日 : 2023 年 7 月 18 日 所 : 千葉県千葉市 題 : 腎代替療法選択支援における腎臓病療養指導士の役割 者 : 内田明子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 32 回日本外来小児科学会 日 : 2023 年 9 月 9 日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 思春期におけるアトピー性皮膚炎のセルフケア支援と課題 者 : 有川邦子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 14 回せいい看護学会学術集会 日 : 2023 年 9 月 16 日 所 : 静岡県浜松市 題 : CKD 看護外来の現状と今後の課題 者 : 山本真紀、森田千秋、長谷川裕美、宮崎木の実
学 開 場 演 司	会 催	名 : 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 日 : 2023 年 9 月 16 日～17 日 所 : 宮城県仙台市 題 : SY 高齢者腎代替療法選択における多職種連携 会 : 内田明子、要伸也
学 開 場 演 司	会 催	名 : 第 29 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 日 : 2023 年 9 月 30 日～10 月 1 日 所 : 東京都江東区 題 : コメディカル賞 会 : 内田明子、友雅司
学 開 場 演 司	会 催	名 : 第 29 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 日 : 2023 年 9 月 30 日～10 月 1 日 所 : 東京都江東区 題 : PD 選択率を上げるためのエッセンス 会 : 内田明子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 25 回日本骨粗鬆症学会 日 : 2023 年 9 月 30 日 所 : 愛知県名古屋 題 : 1 次骨折に対する治療の現状と関連する要因 者 : 宮崎木の実、木村弘美、東牧子
学 開 場 演 司	会 催 ・ 審	名 : 第 16 回日本 CKD チーム医療研究会 日 : 2023 年 10 月 14 日～15 日 所 : 東京都中央区 題 : SY 腎臓病療養指導士制度 今後の展望 査 : 内田明子、阿部雅紀
学 開 場 演 司	会 催	名 : 第 16 回日本 CKD チーム医療研究会 日 : 2023 年 10 月 14 日～15 日 所 : 東京都中央区 題 : 腎不全患者の治療選択と意思決定支援 会 : 内田明子

学 開 場 演 演	会 催	名 : 日本糖尿病学会中国四国地方会第 61 回総会 日 : 2023 年 10 月 27 日～ 28 日 所 : 島根県出雲市 題 : 尿中微量アルブミンが基準値を超えた糖尿病患者に対する透析予防 支援効果の検討 者 : 長谷川裕美
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 50 回日本股関節学会学術集会 日 : 2023 年 10 月 27 日～ 28 日 所 : 福岡県福岡市 題 : 人工股関節全置換術後の睡眠状況と日常生活動作の関連 者 : 久保田朱音、須藤洋子、鈴木萌、高橋日奈子、加藤和美、菊谷慶一郎、 山田有徳、岸田俊二
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 57 回日本側彎症学会学術集会 日 : 2023 年 11 月 10 日～ 11 日 所 : 大阪府大阪市 題 : 側彎症装具治療において装具装着時間と装具治療からくるストレスは 経時的に変化するか 者 : 大崎美奈子、木村弘美
学 開 場 演 座	会 催	名 : 第 26 回日本腎不全看護学会学術集会・総会 日 : 2023 年 11 月 18 日～ 19 日 所 : 宮城県仙台市 題 : 腎不全看護の方向性・課題 診療報酬、看護政策の課題 長 : 内田明子 他 2 名
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 50 回千葉県透析研究会 日 : 2023 年 12 月 3 日 所 : 千葉県千葉市 題 : 一般演題 者 : 内田明子、小方竜也
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 50 回千葉県透析研究会 日 : 2023 年 12 月 3 日 所 : 千葉県千葉市 題 : 保存的腎臓療法 (CKM) を選択した超高齢腎不全患者の一事例を振り返る 者 : 松信和奈
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 50 回千葉県透析研究会 日 : 2023 年 12 月 3 日 所 : 千葉県千葉市 題 : “透析室だより”を発行することにより得られた効果とその要因 者 : 竹内真理子
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 50 回千葉県透析研究会 日 : 2023 年 12 月 3 日 所 : 千葉県千葉市 題 : アドバンス・ケア・プランニング (ACP) を開始した透析患者の語りからの 考察 者 : 石村和美

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 8 回日本臨床知識学会学術集会 日 : 2023 年 12 月 16 日 所 : 東京都文京区 題 : 当院の看護記録における課題解決にむけた教育方法の検討 者 : 古津亜紀
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 日 : 2024 年 2 月 15 日～2 月 16 日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 複数回手術を施行した低栄養患者へ局所陰圧閉鎖療法を施行し肉芽増殖のため多職種で介入した一事例 者 : 青木佐紀子

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名 : 日本看護協会 認定看護師教育課程 日 : 通年 所 : 動画 題 : 共通科目「相談」 者 : 高橋弥生
講 開 場 演 演	義 催	名 : 透析技術認定士 資格認定講義 日 : 2023 年 6 月 6 日 所 : Web 題 : 高齢・認知症透析患者の看護 者 : 内田明子
講 開 場 演 演	義 催	名 : 腎臓財団 透析従事職員研修 日 : 2023 年 6 月 23 日 所 : Web 題 : 高齢透析患者への看護実践 者 : 内田明子
講 開 場 演 演	義 催	名 : 千葉県看護協会 訪問看護師養成講習会 日 : 2023 年 11 月 所 : Web 題 : 多職種連携による入退院支援 者 : 吉田仁美、山口美恵
講 開 場 演 演	義 催	名 : NST 実地修練研修 日 : 2023 年 11 月 14 日 所 : 聖隷佐倉市民病院 題 : 心疾患の病態について 者 : 穴倉亜希子
講 開 場 演 演	義 催	名 : NST 実地修練研修 日 : 2023 年 11 月 14 日 所 : 聖隷佐倉市民病院 題 : 糖尿病患者の栄養管理について 者 : 長谷川裕美

講演 開場 場演 演	義 催	名 : NST 実地修練研修 日 : 2023 年 11 月 14 日 所 : 聖隷佐倉市民病院 題 : 放射線治療患者の栄養管理について 者 : 神尾真由美
講演 開場 場演 演	義 催	名 : NST 実地修練研修 日 : 2023 年 11 月 14 日 所 : 聖隷佐倉市民病院 題 : 褥瘡患者の栄養管理について 者 : 青木佐紀子
講演 開場 場演 演	義 催	名 : 慢性期看護援助論 日 : 2023 年 12 月 所 : 東京医療保健大学 題 : 慢性期看護援助論 者 : 高橋弥生
講演 開場 場演 演	義 催	名 : 昭和大学認定看護師教育センター 日 : 2023 年 12 月 6 日 所 : 東京都品川区 題 : 腎臓病看護概論 者 : 内田明子
講演 開場 場演 演	義 催	名 : RRS からの ICLS 日 : 2023 年 12 月 11 日 所 : 聖隷佐倉市民病院 題 : 係長がリーダーとして急変時の対応を学ぶ 者 : 森田千秋
講演 開場 場演 演	義 催	名 : 血糖コントロールに係る薬剤投与関連 日 : 2024 年 2 月 所 : Web 題 : 血糖コントロールに係る薬剤投与の管理の実際と記録方法 者 : 高橋弥生
講演 開場 場演 演	義 催	名 : 日本腎不全看護学会 治療選択特別研修 日 : 2024 年 3 月 19 日 所 : Web 題 : 治療選択に関わる多職種連携・専門職連携のあり方 者 : 内田明子

『講演』

講演 開場 場演 講演	演 催 演 演	名 : 成田 CKD セミナー 日 : 2023 年 4 月 16 日 所 : 千葉県成田市 名 : 腎臓病療養指導士による効果的な多職種連携 者 : 内田明子
----------------------	----------------------	--

講演会 開場 講演	催 演	名 : 印旛・香取エリア骨粗鬆症連携の会 日 : 2023 年 4 月 22 日 所 : 千葉県佐倉市 名 : 骨粗鬆症治療の継続率向上に向けた取り組み～看護師の立場から～ 者 : 木村弘美
講演会 開場 講演	催 演	名 : 第 13 回神奈川西部地区 腎不全の医療ネットワークを考える会 日 : 2023 年 4 月 25 日 所 : 神奈川県 名 : 認知症透析患者との向き合い方 者 : 内田明子
講演会 開場 講演	催 演	名 : OLS Start-Up Seminar in Urayasu 日 : 2023 年 6 月 22 日 所 : 千葉県浦安市 名 : OLS 活動 ～骨折を予防するために知って得する 3 つのこと～（私見） 者 : 宮崎木の実
講演会 開場 講演	催 演	名 : 第 4 回右京医師会 CKD 地域連携の会 日 : 2023 年 7 月 1 日 所 : 京都府 名 : 超高齢者における腎代替療法の選択支援～透析導入／非導入～ 者 : 内田明子
講演会 開場 講演	催 演	名 : 第 16 回千葉県糖尿病対策推進会議夏季学術講演会 日 : 2023 年 7 月 18 日 所 : 千葉県千葉市 名 : 腎代替療法選択支援における腎臓病療養指導士の役割 者 : 内田明子
講演会 開場 講演	催 演	名 : 整形外科地域連携 Web セミナー～骨粗鬆症と神経障害性疼痛を考える～ 日 : 2023 年 9 月 1 日 所 : 千葉県佐倉市 名 : 骨粗鬆症リエゾンサービスの取り組み ～最初から準備しておけばよかった 3 つのこと～ 者 : 宮崎木の実
講演会 開場 講演	催 演	名 : 骨粗鬆症メディカルスタッフミーティング in 笠間茨城町 日 : 2023 年 9 月 11 日 所 : 茨城県水戸市 名 : 骨粗鬆症リエゾンサービスの取り組み ～多職種連携の強みと弱み～（私見） 者 : 宮崎木の実
講演会 開場 講演	催 演	名 : 千葉県委託事業 オストメイト社会適応訓練講習会 日 : 2023 年 11 月 4 日 所 : 千葉県佐倉市 名 : ストーマ合併症に対する原因と対処方法（皮膚障害以外） 者 : 青木佐紀子

講演会場	開催	名	： 千葉県委託事業 オストメイト社会適応訓練講習会
		日	： 2023 年 11 月 4 日
		所	： 千葉県佐倉市
講演	演	名	： ストーマ合併症に対する原因と対処方法(皮膚障害)
		者	： 高野弘栄
講演会場	開催	名	： 第 21 回伊豆長岡糖尿病療養指導士セミナー
		日	： 2023 年 11 月 18 日
		所	： 静岡県三島市
講演	演	名	： 常勤の糖尿病専門医不在の地域中核病院における糖尿病看護特定認定看護師の役割
		者	： 高橋弥生
講演会場	開催	名	： 明日から実践できる 能力開発講座 小野薬品工業(株)
		日	： 2023 年 12 月 21 日
		所	： Web
講演	演	名	： 透析患者さんのケア
		者	： 内田明子
講演会場	開催	名	： 糖尿病腎症の発症予防を考える
		日	： 2024 年 2 月 15 日
		所	： 千葉県佐倉市
講演	演	名	： 当院が行う糖尿病・透析予防 ～尿中微量アルブミンが基準値を超えはじめた方への支援～
		者	： 長谷川裕美
講演会場	開催	名	： 骨粗鬆症多職種連携セミナー
		日	： 2024 年 3 月 8 日
		所	： 千葉県佐倉市
講演	演	名	： 骨粗鬆症に対する地域多職種連携の役割 ～リエゾンマネージャーとしての関わり～
		者	： 木村弘美

『その他』

その日場題氏	の	他	： 厚生労働省 モデル事業実施法人審査委員
		付	： 2023 年度
		所	： 書類審査
		名	： 慢性腎臓病重症化予防のための診療体制構築及び多職種連携モデル事業
		名	： 内田明子 他 4 名
その場題氏	の	他	： 診療ガイドライン作成外部委員
		所	： Web
		名	： がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 2022
		名	： 内田明子 他 5 名
その日場題氏	の	他	： 岩手県立大学 非常勤講師
		付	： 2023 年 9 月～2024 年 3 月
		名	： 慢性看護学特論Ⅲ
		名	： 高橋弥生

その 日 場 題 氏	の	他 : 厚労科研腎疾患政策事業 研究者 付 : 2023 年 8 月 13 日、12 月 5 日 所 : Web 名 : ライフスタイルに着目した慢性腎臓病対策に資する研究 名 : 内田明子
その 日 場 題 氏	の	他 : 厚労科研腎疾患政策事業 研究者 付 : 2023 年 9 月 4 日 所 : Web 名 : 慢性腎臓病患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究 名 : 内田明子
その 日 場 題 氏	の	他 : 読売新聞 医療ルネサンス 付 : 2023 年 9 月 19 日 名 : 透析を考える 名 : 山本真紀
その 日 場 題 氏	の	他 : 政策提言：日本医療政策機構(HGPI)腎疾患対策推進プロジェクト 2023 アドバイザーボードメンバー 付 : 2023 年 9 月 20 日 所 : 東京都千代田区 名 : 患者・市民・地域が参画し、協働する腎疾患対策に向けて 名 : 内田明子
その 日 場 題 氏	の	他 : 第 16 回 CKD チーム医療研究会 付 : 2023 年 10 月 14 日～15 日 所 : 東京都中央区 名 : CKD 教育入院に介入する多職種からみたセルフケア行動に関連する要因について ～教育入院後、日常生活に負の影響を与えていた一事例を振り返る～ 名 : 折山曜子

『会議』

会 開 場 出	議 催 席	名 : 日本糖尿病教育・看護学会 評議員 日 : 年 8 回程度 所 : 各所 者 : 高橋弥生
会 開 場 出	議 催 席	名 : 腎臓病 SDM 推進協会 日 : 2023 年 5 月 9 日、7 月 3 日 所 : 東京都、Web 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 昭和大学認定看護師教育センター 教員会 日 : 2023 年 5 月 25 日、2024 年 3 月 26 日 所 : Web 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 公益財団法人日本腎臓財団 評議員会 日 : 2023 年 6 月 6 日、2024 年 2 月 22 日 所 : 東京都千代田区 者 : 内田明子

会 開 場 出	議 催 席	名 : 腎代替療法医療専門職推進協会 理事会 日 : 2023 年 6 月 15 日、2024 年 3 月 30 日 所 : 東京都、兵庫県 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 千葉県看護連盟 総会 議長 日 : 2023 年 6 月 23 日 所 : 千葉県千葉市 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 日本腎臓病協会 腎臓病療養指導士合同, 試験認定委員会 日 : 2023 年 6 月 29 日、2024 年 2 月 4 日、23 日 所 : 東京都、Web 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 千葉県看護協会 印旛地区支部会議 日 : 2023 年 7 月 8 日、9 月 15 日、10 月 28 日、2024 年 1 月 26 日、2 月 16 日 所 : 東邦大学佐倉医療センター 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 腎臓リハビリテーション学会 総務委員会 日 : 2023 年 7 月 12 日、9 月 25 日 所 : Web 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 千葉県腎臓病看護研究会 幹事会 日 : 2023 年 7 月 21 日、9 月 3 日、2024 年 1 月 26 日、3 月 3 日 所 : Web 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 高齢者腎不全研究会 世話人会 日 : 2023 年 7 月 29 日 所 : 大分県 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 千葉県腎疾患対策講演会 世話人会 日 : 2023 年 10 月 12 日 所 : 千葉県千葉市 者 : 内田明子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 房総心不全ネットワーク(千葉心不全多職種ネットワーク) 日 : 2023 年 11 月 11 日 所 : 千葉県千葉市 者 : 穴倉亜希子
会 開 場 出	議 催 席	名 : 日本ストーマ排泄リハビリテーション学会評議員会 日 : 2024 年 2 月 14 日 所 : 神奈川県横浜市 者 : 高野弘栄

医療技術部

【検査科】

『講義』

講義	名	国際医療福祉大学 医学検査学科講義
開催	日	2023 年 12 月 21 日
場所	所	国際医療福祉大学
演題	題	臨床検査技師の仕事 ～現場目線から～
演者	者	舎川衛

『その他』

その日	の	他	臨床検査部第 9 回合同学術集会
場		付	2023 年 10 月 21 日
題		所	聖隷佐倉市民病院
氏		名	当院における乳房インプラント破損の一例
		名	檜美杜

その日	の	他	臨床検査部第 9 回合同学術集会
場		付	2023 年 10 月 21 日
題		所	聖隷佐倉市民病院
氏		名	腹部超音波検査における前立腺肥大症の判定基準変更後の経過について
		名	川上真里奈

【薬剤科】

『論文』

雑誌	名	千葉県病薬会報
題	名	当院における骨折リエゾンサービス (FLS)
著者	者	鈴木諒
巻、ページ、年度		第 220 号 2023 年 7 月、P2-4

雑誌	名	Evidence Update 2024
題	名	骨粗鬆症治療薬
著者	者	鈴木諒
巻、ページ、年度		P109-112、2024

『国内学会』

学会	名	第 36 回日本臨床整形外科学会学術集会
開催	日	2023 年 7 月 16 日～17 日
場所	所	千葉県千葉市
演題	題	薬剤師視点でみた地域連携
演者	者	鈴木諒

学	会	名	:	日本病院薬剤師会関東ブロック 第 53 回学術大会
開	催	日	:	2023 年 8 月 26 日～ 27 日
場		所	:	新潟県新潟市
演		題	:	当院転倒、転落患者における使用薬剤傾向調査
演		者	:	鈴木諒、原田萌衣、戸巻祥枝、高山陽太、須川悠花、富田歩子

『講義』

講	義	名	:	麻薬の使い方研修会
開	催	日	:	2023 年 6 月 9 日、2023 年 6 月 21 日、2023 年 6 月 23 日
場		所	:	千葉県佐倉市
演		題	:	麻薬の知識
演		者	:	桑原健太

『講演』

講	演	会	名	:	OLS Start-Up Seminar in Urayasu
開	催		日	:	2023 年 6 月 22 日
場			所	:	千葉県浦安市
講	演		名	:	OLS における薬剤師の役割
講	演		者	:	鈴木諒

講	演	会	名	:	いはら医歯薬連携講演会
開	催		日	:	2023 年 7 月 3 日
場			所	:	千葉県市原市
講	演		名	:	薬剤師視点で考える骨粗鬆症治療～最新のトピックスを踏まえて～
講	演		者	:	鈴木諒

講	演	会	名	:	第 52 回上総いはら臨床薬学セミナー
開	催		日	:	2023 年 7 月 14 日
場			所	:	千葉県千葉市
講	演		名	:	聖隷佐倉市民病院における OLS での薬剤師の役割
講	演		者	:	鈴木諒

講	演	会	名	:	次世代型骨粗鬆症 地域連携セミナー
開	催		日	:	2023 年 11 月 16 日
場			所	:	千葉県佐倉市
講	演		名	:	ICT ツールを用いた骨粗鬆症地域連携構築に向けた取り組み
講	演		者	:	鈴木諒

講	演	会	名	:	Pharmacist Seminar ～心不全診療を考える～
開	催		日	:	2023 年 12 月 11 日
場			所	:	千葉県佐倉市(Web)
講	演		名	:	薬剤師の立場から診る心不全患者指導について
講	演		者	:	高山陽太

講	演	会	名	:	Pharmacist Seminar ～心不全診療を考える～ (座長)
開	催		日	:	2023 年 12 月 11 日
場			所	:	千葉県佐倉市(Web)
講	演		名	:	当院における心不全薬物治療の現状
講	演		者	:	富田歩子

講演会場	名	第6回 佐倉薬剤師ネットワーク研修会
開催	日	2024年2月20日
場所	所	千葉県佐倉市(Web)
講演	名	胃がんの代表的なレジメンについて
講演	者	天野正康

講演会場	名	第3回 せいいいレジメン茶屋
開催	日	2024年3月12日
場所	所	千葉県佐倉市(Web)
講演	名	FOLFIRINOX、GEM+nab-PTX
講演	者	三和知佳

講演会場	名	第3回 せいいいレジメン茶屋(座長)
開催	日	2024年3月12日
場所	所	千葉県佐倉市(Web)
講演	名	FOLFIRINOX、GEM+nab-PTX
講演	者	天野正康

『その他』

その日	他	第1回 防災協議会
会場	付	2023年9月19日
題氏	所	聖隷佐倉市民病院
	名	防災協議会
	名	有田誠司、鈴木繁、堀井亮平、桑原健太、大木麻理子、葛巻彩花、 富田歩子、あやめ薬局、佐倉メロン薬局、江原台薬局、 佐倉スマイル薬局

その日	他	日経メディカル連載コラム
会場	付	抗菌薬はAST 専従薬剤師にお任せを！
題氏	所	2023年9月27日
	所	日経メディカル(Web)
	名	腹膜透析関連腹膜炎に抗菌薬をどう選択する？
	名	堀井亮平

その日	他	第2回 防災協議会
会場	付	2023年12月21日
題氏	所	佐倉市健康管理センター
	名	防災協議会
	名	有田誠司、鈴木繁、堀井亮平、桑原健太、大木麻理子、葛巻彩花、 天野正康、富田歩子、佐倉市、メディセオ、あやめ薬局、佐倉メロン薬局、 江原台薬局、佐倉スマイル薬局

その日	他	聖隷がんサーター レター vol.3
会場	付	2024年1月発行
題氏	所	聖隷がんサーター レター vol.3
	名	免疫チェックポイント阻害薬とirAE（免疫関連有害事象）について
	名	天野正康

【放射線科】

『国内学会』

学 開 場 演 演	会 催	名 : 聖隷放射線部関東合同学術大会 日 : 2023 年 5 月 26 日 所 : 千葉県佐倉市 題 : 全脊椎 PA 方向撮影における生殖腺防護の適正化の検討 者 : 田家愛深
-----------------------	--------	--

学 開 場 演 演	会 催	名 : 聖隷放射線部関東合同学術大会 日 : 2023 年 5 月 26 日 所 : 千葉県佐倉市 題 : DLIR を用いた腹部 CT の被曝低減の検討 者 : 代田寛稀
-----------------------	--------	--

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 74 回 千葉県診療放射線技師会学術大会 日 : 2024 年 3 月 10 日 所 : 千葉県千葉市 題 : 当院の前立腺癌放射線治療におけるエコー装置を用いた尿量測定の運用検討 者 : 古山奈留美
-----------------------	--------	--

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 74 回 千葉県診療放射線技師会学術大会 日 : 2024 年 3 月 10 日 所 : 千葉県千葉市 題 : CT 寝台高速移動による DLIR のノイズ低減への影響 者 : 代田寛稀
-----------------------	--------	---

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名 : リハビリテーション学科 3 年生 日 : 2023 年 6 月 2 日、6 月 16 日 所 : 植草学園大学 題 : 画像診断学 者 : 園田優
-----------------------	--------	---

講 開 場 演 演	義 催	名 : 放射線・情報科学科 3 年生 日 : 2023 年 6 月 28 日 所 : 国際福祉大学 成田キャンパス 題 : 臨床実習について 者 : 園田優
-----------------------	--------	--

講 開 場 演 演	義 催	名 : 聖隷放射線部初級 1・2 年目クリニカルラダー研修 日 : 2023 年 7 月 29 日 所 : Web 題 : 専門性向上のための勉強会 ～クリニカルラダー レベル 1 を達成するために～『CT の基礎』 者 : 塚本悟之
-----------------------	--------	--

講 開 場 演 演	義 催	名 : 聖隷放射線部初級1・2年目クリニカルラダー研修 日 : 2023年7月29日 所 : Web 題 : Angio 者 : 渡邊強
-----------------------	--------	--

『講演』

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名 : フレッシュヤーズセミナー 日 : 2023年5月28日 所 : Web 名 : 医療安全 者 : 金子貴之
-----------------------	------------------	--

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名 : 2023年度第1回千葉県診療放射線技師会東葛支部勉強会 日 : 2023年9月4日 所 : Web 名 : MRIにおける頭頸部領域の撮像ポイント 者 : 多田百未
-----------------------	------------------	---

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名 : 85th C-MAC 勉強会 日 : 2023年9月27日 所 : Web 名 : 前立腺MRI検査に関して 者 : 片岡義貴
-----------------------	------------------	--

講 開 場 講 講	演 催 演 演	会 名 : 第26回 聖隷放射線部門 合同学術大会 日 : 2024年3月9日 所 : 聖隷浜松病院 名 : 技師会で知った今後の診療放射線技師について 者 : 園田優
-----------------------	------------------	---

【栄養科】

『国内学会』

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会(JSPEN2024) 日 : 2024年2月15日～16日 所 : 神奈川県横浜市 題 : 消化器癌術前早期に栄養介入を行うことの有用性 者 : 宮森陽子
-----------------------	--------	--

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名 : 循環器チーム運営会議勉強会 日 : 2023年12月12日 所 : 聖隷佐倉市民病院 題 : 心不全と栄養 者 : 金崎葵
-----------------------	--------	---

『講演』

講演会名 : NST 運営会議勉強会
開催日 : 2023 年 9 月 21 日
場所 : 聖隷佐倉市民病院
講演名 : 病院食について
講演者 : 宮森陽子

講演会名 : 公益社団法人 愛知県看護協会 摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程
摂食嚥下障害看護技術論 3) 直接訓練
開催日 : 2023 年 12 月 13 日
場所 : Web
講演名 : 嚥下調整食の知識
講演者 : 石野智子

【臨床工学室】

『論文』

雑誌名 : 千葉県臨床工学技士会誌
題名 : 自作テスト性能評価
著者 : 藤田楓基
巻、ページ、年度 : 第 29 号、63 ページ、2023 年度

『国内学会』

学会名 : 第 49 回日本血液浄化技術学会
開催日 : 2023 年 4 月 21 日～23 日
場所 : 沖縄県名護市
演題 : 代替回路使用期間中に経験した Hb 低下
～ CE の立場から今後の対策を考える～
演者 : 阿部拓馬

学会名 : 第 32 回日本腎不全外科研究学術集会
開催日 : 2023 年 7 月 8 日～9 日
場所 : 長野県北佐久郡軽井沢町
演題 : レオカーナ導入に向けた取組みと今後の課題
演者 : 安藤慎之介

学会名 : 第 32 回日本腎不全外科研究学術集会
開催日 : 2023 年 7 月 8 日～9 日
場所 : 長野県北佐久郡軽井沢町
演題 : レオカーナ施行から6ヶ月の経過報告
～下肢 PTA 頻回患者はどこまで効果が持続するのか～
演者 : 川上未有

学会名 : 第 33 回日本臨床工学会
開催日 : 2023 年 7 月 21 日～23 日
場所 : 広島県広島市
演題 : 当院における軟性内視鏡定期培養検査の現状と業務改善について
演者 : 新井茜

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 28 回千葉県臨床工学会 日 : 2024 年 3 月 24 日 所 : 千葉県千葉市 題 : 透析中の胸痛症状から救急搬送に至った1例 者 : 掛谷祐太
-----------------------	--------	---

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 28 回千葉県臨床工学会 日 : 2024 年 3 月 24 日 所 : 千葉県千葉市 題 : V-RA 残血評価 者 : 日野克城
-----------------------	--------	--

『講義』

講 開 場 演 演	義 催	名 : 静岡県理学療法士会内部障害系専門部会(代謝理学療法班)研修会 日 : 2024 年 2 月 17 日 所 : 静岡県 題 : 多職種が取り組む透析患者の診療 ー透析患者への多職種による腎臓リハビリテーションー 『臨床工学技士による透析患者の関わり』 者 : 阿部拓馬
-----------------------	--------	---

【リハビリ室】

『論文』

雑 題	誌	名 : 日本腎臓リハビリテーション学会誌 名 : 就労中の CKD 患者における労働機能障害の実態と関連要因の検討 Young Investigator Award 優秀賞 受賞報告
著 卷、ページ、年度	者	田畑吾樹 2023;2 (2) :238-239

雑 題	誌	名 : Japanese journal of pediatric nephrology 名 : Exercise therapy during hospitalization for a pediatric patient with active IgA nephropathy: A case report
著 卷、ページ、年度	者	Aki Tabata, Hiroki Yabe, Yuya Mitake, Tomohiro Shirai, Ken Kawamura 2023;36:41-45

雑 題	誌	名 : Japanese Journal of Physical Therapy for Diabetes Mellitus 名 : Effect of home-based exercise on physical function and quality of life in older patients with pre-dialysis chronic kidney disease: study protocol for a pilot randomized controlled trial
著 卷、ページ、年度	者	Aki Tabata, Hiroki Yabe, Takehide Katogi, Yuya Mitake, Shunta Oono, Tomoya Yamaguchi, Takayuki Fujii 2024;3:30-40

雑 題 著 卷、ページ、年度	誌	名 : 理学療法の科学と研究 名 : 鏡視下腱板修復術後の肩の活動レベルに影響を与える関連因子の検討 者 : 奥村太朗、梶原大輔、白井智裕、小川侑男、廣田知佐恵、桑原康太 2024:15 (1) :47-51
-------------------------	---	---

『国際学会』

学	会	名	:	32nd World Congress of the IALP
開	催	日	:	2023 年 8 月 19 日～8 月 25 日
場		所	:	Auckland in New Zealand
演		題	:	Jaw movements and self-assessment for easiness during eating tofu at three different temperatures in healthy volunteers
演		者	:	Rina Kawakami, Shin-ichi Tanai, Atsunobu Sato, Takaaki Sakurai, Yuki Suzuki, Eriko Mouri, Isamu Shibamoto

『国内学会』

学	会	名	:	第 49 回日本血液浄化技術学会学術大会・総会
開	催	日	:	2023 年 4 月 23 日
場		所	:	沖縄県名護市
演		題	:	保存期 CKD 患者の血管機能指標と身体機能、体組成との関連について
演		者	:	大野隼汰、田畑吾樹、三嶽侑哉、加藤木丈英、白井智裕

学	会	名	:	第 49 回日本血液浄化技術学会学術大会・総会
開	催	日	:	2023 年 4 月 23 日
場		所	:	沖縄県名護市
演		題	:	血液透析患者の QOL に関連する因子の検討
演		者	:	三嶽侑哉、田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、大野隼汰、山口智也、藤井隆之

学	会	名	:	第 49 回日本血液浄化技術学会学術大会・総会
開	催	日	:	2023 年 4 月 23 日
場		所	:	沖縄県名護市
演		題	:	高齢保存期 CKD 患者の運動習慣に関連する因子：単一施設横断研究
演		者	:	田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、山口智也、藤井隆之

学	会	名	:	第 68 回 日本透析医学会学術集会・総会
開	催	日	:	2023 年 6 月 16 日
場		所	:	兵庫県神戸市
演		題	:	透析後疲労感に関連する因子の検討
演		者	:	三嶽侑哉、矢部広樹、山口智也、田畑吾樹、大野隼汰、加藤木丈英、藤井隆之

学	会	名	:	第 68 回 日本透析医学会学術集会・総会
開	催	日	:	2023 年 6 月 16 日
場		所	:	兵庫県神戸市
演		題	:	理学療法士による腎代替療法選択の支援 －腹膜透析導入を選択した就労中の成人 CKD 患者 1 症例の検討－
演		者	:	田畑吾樹、矢部宏樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰

学	会	名	:	第 65 回日本老年医学会 シンポジウム
開	催	日	:	2023 年 6 月 16 日～18 日
場		所	:	神奈川県横浜市
演		題	:	多職種での FLS
演		者	:	加藤木丈英、岸田俊二、鈴木諒、石田拓未、宮崎木の実、木村弘美、東牧子、小谷俊明

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 5 回聖隷リハビリテーション学会 日 : 2023 年 9 月 17 日 所 : 静岡県浜松市 題 : 終末期患者への多職種連携により自宅退院を果たした事例 者 : 小田川さつき、加藤木丈英、村本涼、白井智裕
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 5 回聖隷リハビリテーション学会 日 : 2023 年 9 月 17 日 所 : 静岡県浜松市 題 : 肩甲下筋断裂併発症例の鏡視下腱板修復術後 5 週の他動外旋可動域と治療成績 者 : 奥村太朗、伊勢昇平、山田有徳、白井智裕、小川侑男、廣田知佐恵、桑原康太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 5 回聖隷リハビリテーション学会 日 : 2023 年 9 月 17 日 所 : 静岡県浜松市 題 : 鏡視下腱板修復術後 12 ヶ月の術後成績に関与する術後早期因子の検討 者 : 桑原康太、伊勢昇平、山田有徳、白井智裕、奥村太朗、小川侑男、廣田知佐恵
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 5 回聖隷リハビリテーション学会 日 : 2023 年 9 月 17 日 所 : 静岡県浜松市 題 : 高齢保存期 CKD 患者における社会的孤立の実態と関連要因の検討 者 : 田畑吾樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 5 回聖隷リハビリテーション学会 日 : 2023 年 9 月 17 日 所 : 静岡県浜松市 題 : 保存期 CKD 患者の動脈硬化に関連する因子の検討 者 : 大野隼汰、田畑吾樹、三嶽侑哉、加藤木丈英
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 25 回日本骨粗鬆症学会 シンポジウム 1 日 : 2023 年 9 月 29 日～10 月 1 日 所 : 愛知県名古屋市 題 : 千葉県における世界骨粗鬆症デーへの挑戦 者 : 加藤木丈英、岸田俊二、鈴木諒、石田拓未、宮崎木の実、木村弘美、東牧子、小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 25 回日本骨粗鬆症学会 シンポジウム 9 日 : 2023 年 9 月 29 日～10 月 1 日 所 : 愛知県名古屋市 題 : 「迷えるマネージャー」の拠り所を目指した千葉県骨粗鬆症マネージャー連携協議会の軌跡 者 : 加藤木丈英、岸田俊二、鈴木諒、石田拓未、宮崎木の実、木村弘美、東牧子、小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 25 回日本骨粗鬆症学会 シンポジウム 16 日 : 2023 年 9 月 29 日～10 月 1 日 所 : 愛知県名古屋市 題 : 聖隷佐倉市民病院における二次性骨折予防継続管理の実際と浮き彫りとなった課題 者 : 加藤木丈英、岸田俊二、鈴木諒、石田拓未、宮崎木の実、木村弘美、東牧子、小谷俊明

学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 25 回日本骨粗鬆症学会 日 : 2023 年 9 月 29 日～10 月 1 日 所 : 愛知県名古屋市中区 題 : 保存期慢性腎臓病患者の骨密度と運動機能に関連はあるか？ 者 : 加藤木丈英、田畑吾樹、藤井隆之、大野隼汰、三嶽侑哉、鈴木理志
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 50 回日本肩関節学術集会、第 20 回日本肩の運動機能研究会 日 : 2023 年 10 月 13 日～14 日 所 : 東京都新宿区 題 : 肩甲下筋断裂併発症例の鏡視下腱板修復術後 5 週の他動外旋可動域と治療成績 者 : 奥村太朗、伊勢昇平、山田有徳、小川侑男、廣田知佐恵、桑原康太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 50 回日本肩関節学術集会、第 20 回日本肩の運動機能研究会 日 : 2023 年 10 月 13 日～14 日 所 : 東京都新宿区 題 : 拘縮を伴う腱板断裂における鏡視下腱板修復術の術後成績 者 : 小川侑男、伊勢昇平、山田有徳、奥村太朗、廣田知佐恵、桑原康太、梶原大輔
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 50 回日本肩関節学術集会、第 20 回日本肩の運動機能研究会 日 : 2023 年 10 月 13 日～14 日 所 : 東京都新宿区 題 : 鏡視下腱板修復術後 3 ヶ月における満足度への関連因子 者 : 廣田知佐恵、伊勢昇平、山田有徳、奥村太朗、小川侑男、桑原康太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 50 回日本肩関節学術集会、第 20 回日本肩の運動機能研究会 日 : 2023 年 10 月 13 日～14 日 所 : 東京都新宿区 題 : 鏡視下腱板修復術後 12 ヶ月の術後成績に關与する術後早期因子の検討 者 : 桑原康太、伊勢昇平、山田有徳、奥村太朗、小川侑男、廣田知佐恵
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 16 回日本 CKD チーム医療研究会 日 : 2023 年 10 月 15 日 所 : 東京都中央区 題 : 高齢保存期 CKD 患者における社会的孤立の実態と関連要因の検討 者 : 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、山口智也、藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 57 回日本側彎症学会学術集会 日 : 2023 年 11 月 10 日～11 日 所 : 大阪府大阪市 題 : 術後 40 年以上が経過した思春期特発性側弯症患者の運動能力の解析 者 : 加藤木丈英、奥村太朗、赤澤努、小谷俊明、飯島靖、佐久間毅、南昌平
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 57 回日本側彎症学会学術集会 日 : 2023 年 11 月 10 日～11 日 所 : 大阪府大阪市 題 : lumbar stiffness disability index を用いた AIS 術後患者の ADL の特徴 者 : 奥村太朗、加藤木丈英、飯島靖、佐久間毅、小谷俊明、南昌平

学 開 場 演 演	会 催	名 : 2023 年度日本運動器理学療法学会 第 6 回ブロック学術小集会 シンポジウム 日 : 2024 年 2 月 25 日 所 : 東京都荒川区 題 : 当院の骨粗鬆症リエゾンサービスと二次性骨折予防継続管理の実際 者 : 加藤木丈英、岸田俊二、鈴木諒、石田拓未、宮崎木の実、木村弘美、 東牧子、藤田加代子、小谷俊明
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 13 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会 日 : 2024 年 3 月 1 日 所 : 三重県四日市市 題 : 大腿骨近位部骨折術後の嚥下機能低下をきたした患者における術後 ADL との関連性について 者 : 増田大輝、清宮悠人、津田豪太
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 29 回千葉県理学療法学術大会 日 : 2024 年 3 月 3 日 所 : 千葉県成田市 題 : 保存期 CKD 患者の動脈硬化指標に関連する因子 者 : 大野隼汰、田畑吾樹、三嶽侑哉、加藤木丈英
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 29 回千葉県理学療法学術大会 日 : 2024 年 3 月 3 日 所 : 千葉県成田市 題 : 外来血液透析患者の 5 年生存率と SPPB に関する検討 者 : 三嶽侑哉、矢部広樹、山口智也、田畑吾樹、大野隼汰、藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 29 回千葉県理学療法学術大会 日 : 2024 年 3 月 3 日 所 : 千葉県成田市 題 : 就労中の慢性腎臓病患者における健康関連 QOL に関連する要因の検討 者 : 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、山口智也、 藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 14 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 日 : 2024 年 3 月 16 日 所 : 新潟県新潟市 題 : 血液透析患者の低栄養かつ低身体機能と生命予後に関する検討 者 : 三嶽侑哉、矢部広樹、田畑吾樹、大野隼汰、加藤木丈英、藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 14 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 日 : 2024 年 3 月 16 日 所 : 新潟県新潟市 題 : 高齢保存期 CKD 患者の低身体機能と老年症候群の関連：精神症状と ポリファーマシーを踏まえた検討 者 : 田畑吾樹、矢部広樹、加藤木丈英、三嶽侑哉、大野隼汰、山口智也、 藤井隆之
学 開 場 演 演	会 催	名 : 第 14 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 日 : 2024 年 3 月 16 日 所 : 新潟県新潟市 題 : 高齢透析導入期患者の健康関連 QOL に関連する因子の検討 者 : 大野隼汰、田畑吾樹、三嶽侑哉、加藤木丈英

『講義』

講義	名	第 21 回日本側彎症学会研修セミナーベーシックコース
開催	日	2023 年 12 月 16 日～ 17 日
会場	所	栃木県宇都宮市(Web)
講演	題	術前後の評価 リハのポイント(session 5- リハビリテーション)
演者	者	加藤木丈英

『講演』

講演会	名	IOCil セミナー
開催	日	2023 年 4 月 18 日
会場	所	Web
講演	名	骨粗鬆症リエゾンサービス(OLS)における多職種連携の実際と with コロナ時代への挑戦
講演者	者	加藤木丈英

講演会	名	OLS Start-up Seminar in Urayasu
開催	日	2023 年 6 月 22 日
会場	所	千葉県浦安市(Web)
講演	名	聖隷佐倉市民病院の OLS と、医療連携システムの中での理学療法士の役割 - 過去のしくじりから得た教訓を活かして -
講演者	者	加藤木丈英

講演会	名	骨粗鬆症 WEB セミナー
開催	日	2023 年 6 月 23 日
会場	所	千葉県成田市(Web)
講演	名	骨粗鬆症診療における地域連携と骨粗鬆症マネージャーの果たすべき役割 - 佐倉地区における連携の実際 -
講演者	者	加藤木丈英

講演会	名	CKD を再考する会
開催	日	2023 年 8 月 4 日
会場	所	Web
講演	名	CKD 患者における運動療法のエビデンスと実践
講演者	者	田畑吾樹

講演会	名	DKD 診療 Web Seminar
開催	日	2023 年 10 月 12 日
会場	所	Web
講演	名	各メディカルスタッフに立場から診る DKD 多職種連携の実践 how to
講演者	者	田畑吾樹

講演会	名	第 16 回日本 CKD チーム医療研究会 ワークショップ
開催	日	2023 年 10 月 15 日
会場	所	東京都中央区
講演	名	保存期 CKD 患者に対するフレイル予防 ～臨床現場での理学療法士の取り組み～
講演者	者	田畑吾樹

講	演	会	名	:	次世代型骨粗鬆症 地域連携セミナー（座長）
開	催		日	:	2023 年 11 月 16 日
場			所	:	千葉県佐倉市(Web)
講	演		名	:	パネルディスカッション
講	演		者	:	加藤木丈英

講	演	会	名	:	第 14 回透析運動療法研究会 実習
開	催		日	:	2024 年 2 月 4 日
場			所	:	山形県山形市
講	演		名	:	透析患者における身体機能評価の実際
講	演		者	:	田畑吾樹、三嶽侑哉、山口智也

講	演	会	名	:	富士フイルムヘルスケア株式会社 WEB セミナー チーム医療セミナー 「二次性骨折予防」－院内チーム連携から地域連携への発展－
開	催		日	:	2024 年 3 月 19 日
場			所	:	千葉県柏市(Web)
講	演		名	:	骨粗鬆症マネージャー主導型のチームビルディングと地域医療連携構築 の実際
講	演		者	:	加藤木丈英

院内研修

2023年度実績

病院の理念を基盤に、よりよい医療を実践するための人づくりを目的として、以下の研修を実施した。

新入職員導入研修

ね ら い : 聖隷佐倉市民病院職員としての自覚を持つ
日 時 : 2023年4月3日 (月)
対 象 : 新卒及び新卒と同等と職場長がみなす職員
参 加 者 : 35名

新人研修

ね ら い : 就職してから今日までを振り返り、明日からの力とする
日 時 : 2023年5月30日 (火) - 31日 (水) 2日間【宿泊】
対 象 : 新卒及び新卒と同等と職場長がみなす職員
参 加 者 : 22名

2年目研修

ね ら い : 効果的なコミュニケーションのあり方を身に付けるきっかけとする
日 時 : 2023年6月28日 (水) 1日
対 象 : 卒後2年目就職者または同等と職場長がみなす職員
参 加 者 : 20名

ステップアップ研修

ね ら い : コーチングのスキルを身につけるとともに、効果的なOJTについて学ぶ
日 時 : 2023年9月27日 (水) - 28日 (木) 2日間【宿泊】
対 象 : 卒後4年目以上または同等と職場長がみなす職員
参 加 者 : 35名

中堅研修

ね ら い : 効果的なリーダーシップを身につけるきっかけとする
業務における問題点を明確にするとともに、解決法を学び対策を見出す
問題解決に向け実行する力を身につける
日 時 : 2023年10月24日 (火) - 25日 (水) 2日間【宿泊】
対 象 : 概ね5年以上の経験を持ち、次期役職候補と期待される職員
参 加 者 : 17名

中堅フォローアップ研修

ね ら い : 中堅研修の振り返りと問題解決課題の成果を確認し解決法を確実に自
分のものとする
日 時 : 2024年2月22日 (木) 1日
対 象 : 中堅研修参加者
参 加 者 : 17名

聖隷佐倉市民病院 第18回院内学会 プログラム

テーマ：地域医療への更なる貢献を目指して～職員一人ひとりが” We” で語ろう～

開催日：2023年11月11日（土）

第1群 座長 【高岡係長】

1	乳腺外科 1 年フォロー患者の代行入力業務に於ける改善策について	外来医事課	市川 泰枝
2	安全グループにおける透析支援システム関連IA減少への取り組み	臨床工学室	河村 響
3	コスト管理を意識した職場運営	栄養科	安 拓郎
4	腹部造影CTの低管電圧撮影による造影剤減量の基礎的検討	放射線科	小川 貴徳

第2群 座長 【杉本係長】

5	災害時医療への対応 ～調剤薬局との連携～	薬剤科	葛巻 彩花
6	血液透析患者の予後とSPPBに関する検討	リハビリテーション室	三嶽 侑哉
7	EDTA依存性血小板凝集患者に対するカナマイシン添加測定を導入検討について	検査科	佐藤 希望
8	心不全手帳を活用したセルフモニタリング行動がセルフケアに及ぼす影響	A4病棟（認定看護室）	穴倉 亜希子

第3群 座長 【古津課長】

9	当院における止血目的、緩和放射線治療の検討	放射線治療科	川上 浩幸
10	腹膜透析の外部講習会を開催し在宅管理にむけた活動報告	B4病棟	小笠原 祐美
11	カスタムメイドな健診を目指して ～健診センターの広報活動～	健診センター	矢作 麻衣子

【特別講演】 新型コロナの振り返りと行く末

院長補佐

眞崎 義隆

聖隷佐倉市民病院 キャンサーボード

2023 年度実績

● 第 1 回 キャンサーボード

開催日：2023 年 4 月 20 日 17:30～ 医局棟会議室

〈症例検討〉 呼吸器外科 廣橋 健太郎 医師

「IrAE の下痢に対してインフリキシマブを投与した症例」

● 第 2 回 キャンサーボード

開催日：2023 年 5 月 25 日 17:30～ 医局棟会議室

〈症例検討〉 乳腺外科 木谷 哲 医師

「乳癌術後補助化学療法中に肝機能低下し HBV 再活性化を危惧した症例」

● 第 3 回 キャンサーボード

開催日：2023 年 6 月 22 日 17:30～ 医局棟会議室

〈症例提示〉 呼吸器外科 眞崎 義隆 医師

「肺癌と食道癌 合併例の治療と患者支援」

● 第 4 回 キャンサーボード

開催日：2023 年 7 月 27 日 17:30～ 医局棟会議室

〈症例提示〉 泌尿器科 稲原 昌彦 医師

「集学的治療を行った進行膀胱癌の再々再発症例」

● 第 5 回 キャンサーボード

開催日：2023 年 12 月 21 日 17:30～ 医局棟会議室

〈症例提示〉 泌尿器科 稲原 昌彦 医師

「転移性腎細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害剤と分子標的薬併用療法中に発生した急性副腎不全 2 例の経験」

● 第 6 回 キャンサーボード

開催日：2024 年 2 月 22 日 17:30～ 医局棟会議室

〈ディスカッション〉 乳腺外科 木谷 哲 医師

「当院の遺伝性腫瘍検査の現状と支援について」

● 第 7 回 キャンサーボード（緊急開催）

開催日：2024 年 3 月 13 日 17:30～ 6F ホール

〈症例提示〉 消化器内科 門山 知樹 医師

「脳梗塞を伴う進行胃癌の貧血コントロールについて」

2023 年度 聖隷佐倉市民病院市民公開講座

市民公開講座

開 催 日 : 2023 年 11 月 18 日

開 催 場 所 : 聖隷佐倉市民病院 6 階ホール

演 題 : がん治療の充実と推進のために
わが国のがんの現状とがん医療の進歩について
放射線治療とは

司 会 : 呼吸器外科 院長補佐 眞崎 義隆

講 師 : 乳腺外科 副部長 木谷 哲

放射線治療科 部長 川上 浩幸

2023 年度 病院年報

発行日 ● 2024 年 7 月
編集 ● 総合企画室
発行 ● 社会福祉法人 聖隷福祉事業団

聖隷佐倉市民病院

〒285-8765

佐倉市江原台 2 丁目 36 番 2

TEL 043-486-1151

FAX 043-486-8696

ホームページ <http://www.seirei.or.jp/sakura/>
